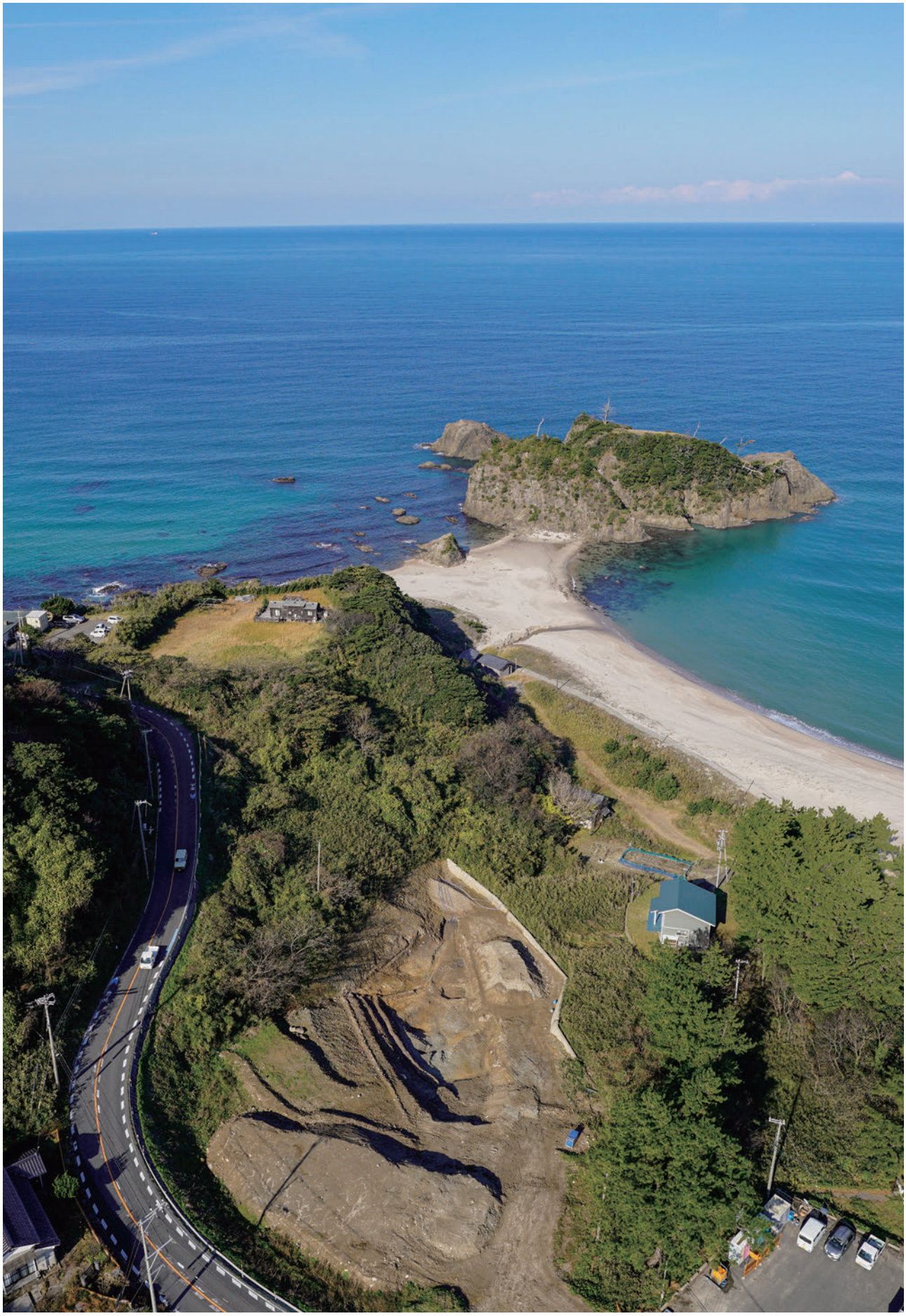
京都府遺跡調査報告集

第198冊

平遺跡（第４～７次）

２０２５

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



第７次調査調査区全景（南から）

序

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年に設立されて以来、京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行うとともに、その成果を広く公開し、考古学・歴史学研究や地域の歴史教育などに活用していただけるように、さまざまな取り組みを実施してまいりました。これまで発掘調査を実施したすべての遺跡の調査報告は、『京都府遺跡調査報告書』『京都府遺跡調査概報』『京都府遺跡調査報告集』として刊行し、それぞれの遺跡がもつ考古学的・歴史学的な重要性について報告を行ってきたところです。

さて、本冊で報告する平遺跡第４～７次調査は、京都府の道路建設に伴い京都府丹後土木事務所の依頼を受けて実施したものです。このたび、発掘調査ならびに整理等作業が完了しましたので、『京都府遺跡調査報告集第198冊』として刊行する運びとなりました。

ここで報告する平遺跡は、昭和37年～40年にかけて同志社大学と帝塚山大学により学術調査が実施され、出土した縄文時代中期の土器の一群が近畿地方の標識土器「平式土器」として知られるようになった遺跡です。今回の調査では、縄文時代の遺構を検出することはできなかったものの、縄文時代前期から晩期にいたる良好な土器群が出土し、貴重な資料を得ることができました。

今回の調査成果は、今後、地域の歴史や日本史研究を進めるうえで重要な考古学的成果となることを確信しています。

最後になりましたが、発掘調査をご依頼いただきました京都府丹後土木事務所をはじめ、多くの関係各位に厚く感謝するとともに、心より御礼を申し上げます。

令和７年６月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

理　事　長　　井　上　満　郎

例　　言

1．本書に収めた報告は下記のとおりである。

平遺跡（第４～７次）発掘調査報告

2．遺跡の所在地、調査期間、経費負担者及び報告の執筆者は下表のとおりである。

遺　跡　名	所　在　地	現地調査期間	経費負担者	執筆者
平遺跡 第４～７次	京丹後市丹後町平地内	平成30年８月１日～ 平成30年12月21日 令和２年９月28日～ 令和２年10月29日 令和４年８月17日～ 令和４年10月７日 令和５年８月23日～ 令和５年12月11日	京都府丹後 土木事務所	菅　博絵 面　将道 大石雅興 辻　康男 渡辺幸奈

3．本書で使用している座標は、世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

4．土層断面等の土色や出土遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

5．本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課編集担当が行った。

6．現場写真は調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係武本典子が行った。

本 文 目 次

挿 図 目 次

付 表 目 次

写 真 目 次

図 版 目 次

平（へい）遺跡（第４～７次）発掘調査報告

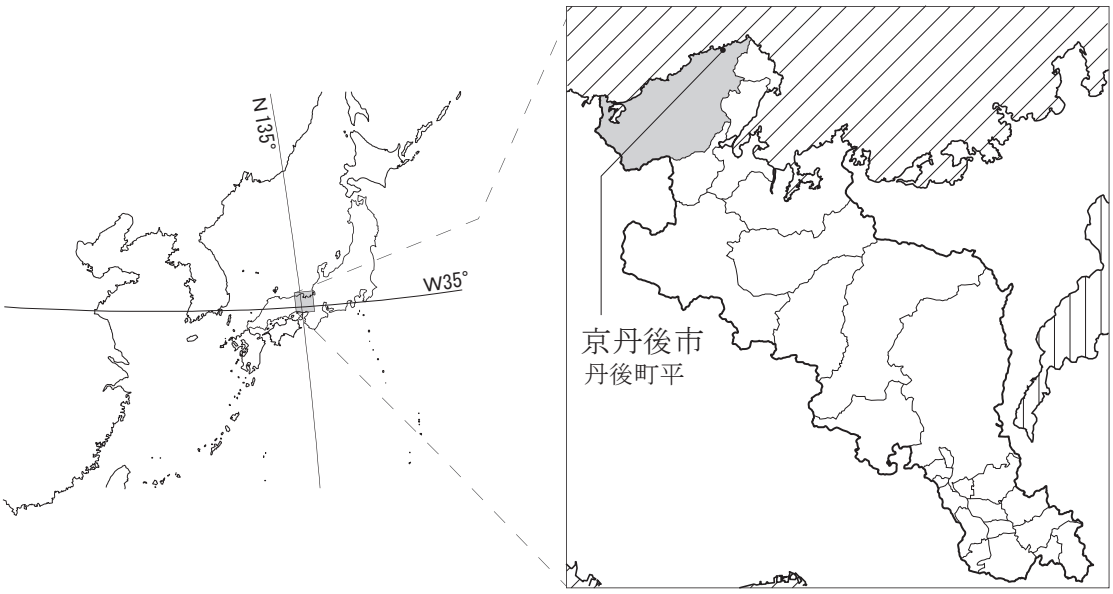
１．はじめに

府道浜丹後線は、宮津市日置から京丹後市竹野に至る道路であり、国道178号線と合わせて丹後半島を周遊する道路を形成し、地域の生活を支える重要な道路である。しかし、一部区間で幅員が狭くカーブが連続するなど、安全な通行に支障をきたす箇所が存在する。そのためバイパスを整備することにより、通行の安全確保と地域振興の促進を図ることを目的に、京丹後市丹後町久僧から上野間の1.7kmで道路建設が進められている。(注1)

今回の発掘調査は、浜丹後線（上野平バイパス）民安関連道路新設改良工事による京丹後市丹後町平における道路整備に伴い実施したものである。道路建設予定地が遺跡の範囲に含まれることから、京都府丹後土木事務所と京都府教育委員会の協議が行なわれ、発掘調査について当調査研究センターが依頼を受けた。

各調査年度とも現地調査にあたっては、京都府教育委員会、京丹後市教育委員会をはじめ各関係機関のご指導・ご協力を得た。また、京都府丹後土木事務所、平地区、井上地区自治会ならびに調査に参加してくださった作業員、調査補助員、整理員の方々には、現地調査・整理作業を通じて多大なご協力をいただいた。なお、調査・報告に係る経費は、京都府丹後土木事務所が全額負担した。

本文は、現地を担当した調査課菅博絵、面将道、大石雅興のほか、調査課辻康男、京都大学大学院生渡辺幸奈が執筆した。（菅　博絵）



第１図　調査地の位置

〔調査体制等〕

＜第４次調査＞

現地調査責任者　調査課長　小池　寛

現地調査担当者　調査課課長補佐兼調査第２係長　中川和哉

同　調査第２係調査員　面　将道

調　査　場　所　京丹後市丹後町平地内

現地調査期間　平成30年８月１日～平成30年12月21日

調　査　面　積　130㎡

＜第５次調査＞

現地調査責任者　調査課長　小池　寛

現地調査担当者　調査課参事調査第３係長事務取扱　中川和哉

同　調査第３係主任　面　将道

調　査　場　所　京丹後市丹後町平地内

現地調査期間　令和２年９月28日～令和２年10月29日

調　査　面　積　150㎡

＜第６次調査＞

現地調査責任者　調査課長　小池　寛

現地調査担当者　調査課調査第１係長　森島康雄

同　調査員　大石雅興

調　査　場　所　京丹後市丹後町平地内

現地調査期間　令和４年８月17日～令和４年10月７日

調　査　面　積　350㎡

＜第７次調査＞

現地調査責任者　調査課長　小池　寛

現地調査担当者　調査課調査第１係長　森島康雄

同　調査第１係主任　菅　博絵

調　査　場　所　京丹後市丹後町平地内

現地調査期間　令和５年８月23日～令和５年12月11日

調　査　面　積　1,180㎡

＜令和６年度整理作業＞

整理作業責任者　調査課長　小池　寛

整理作業担当者　調査課調査第１係長　森島康雄

同　調査第１係主任　菅　博絵

整理作業期間　令和７年１月６日～令和７年２月28日

２．位置と環境

１）地理的環境

（１）平遺跡の位置

平遺跡は、丹後半島北縁の海岸部に位置し、京都府京丹後市丹後町平に所在する。丹後半島には、南北に縦断して流れる竹野川、宇川、筒川といった主要河川がある。このうち、宇川の河口部に平遺跡は位置している。平遺跡から丹後半島最北端の経ヶ岬までは東方約6.0km、また、丹後半島最大の流域面積と河川長を有する竹野川の河口部までは西方約5.5kmである。経ヶ岬から平遺跡を経て竹野川の河口に至る海岸線では、砂質の海浜地形や沖積低地がほとんど発達せず、山地斜面が海に迫る急峻な地形が広がっている。

（２）平遺跡周辺の地形・地質

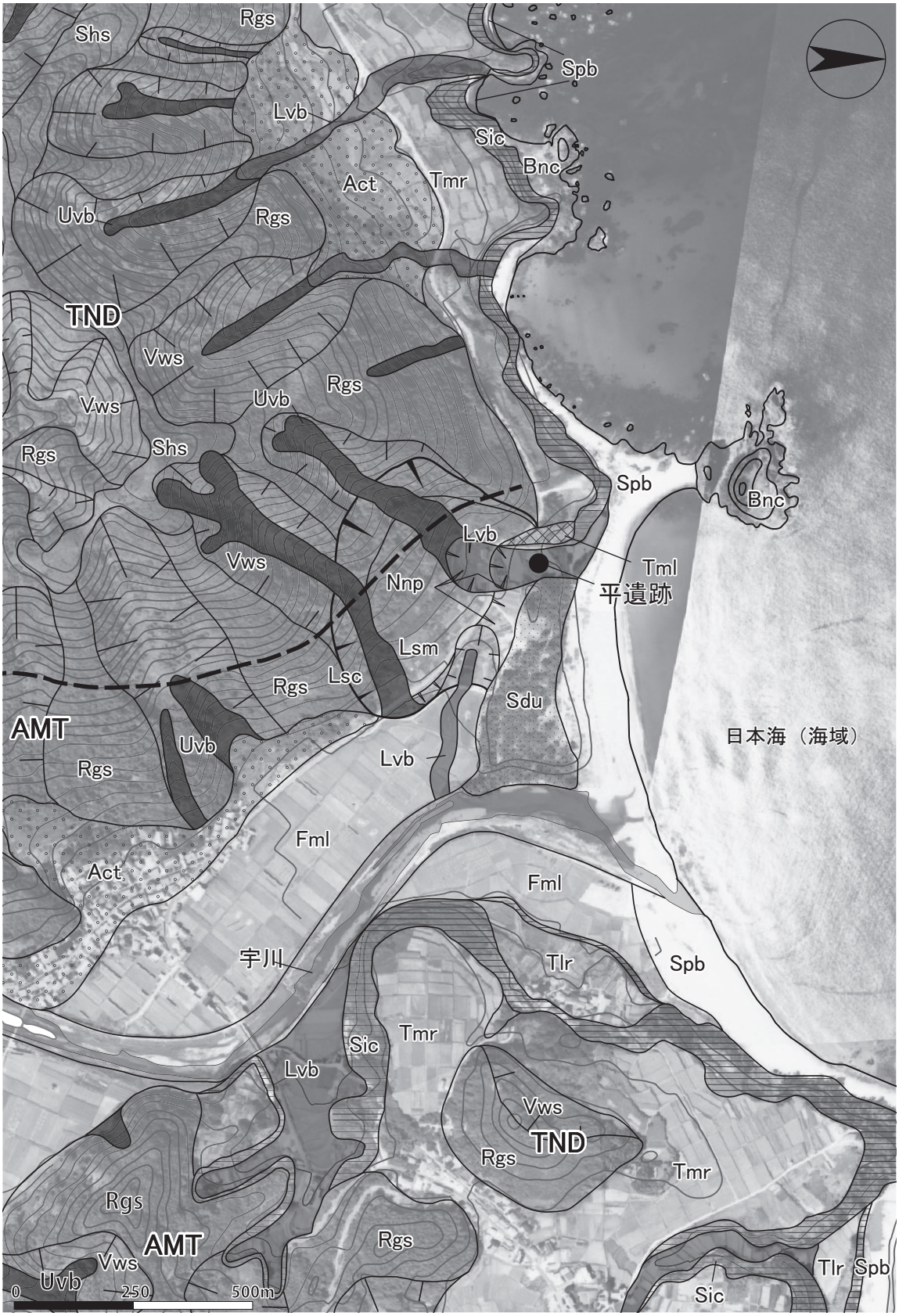
平遺跡は、海岸に面した北向きの山地斜面末端部に位置する。現在の海岸線は、既往の調査区の最も北側に位置する令和５年度第７次調査区からさらに北へ約150mの地点にあり、砂浜および砂丘が発達している（写真１）。遺跡の南側に広がる山地斜面には、周囲を小崖で区切られた馬蹄形の特徴的な緩斜面が確認される（写真２）。この緩斜面は、明瞭な地すべり地形の特徴を示しており、防災科学技術研究所による「地すべり地形分布図日本全国版」にも記載されている。[注2]

平遺跡の背後に位置する山地斜面は、新第三紀中新世に形成されたデイサイト貫入岩を主体とし、一部の山麓部には同時期の流紋岩火山砕屑岩が基盤岩として分布する。山地斜面の地形は、凸型斜面と凹型斜面に大別される（第２図）。凸型斜面は頂部平滑斜面（Shs）および尾根型斜面（Rgs）に細分できる。凹型斜面は、谷壁斜面（Vws）に該当する。谷壁斜面の中心部には、開析谷の谷底面が存在する。谷底面は、地形傾斜に応じて上部谷底面（Uvb）と下部谷底面（Lvb）に区分される。

平遺跡背後の山地に形成された地すべり地形は、重力変形による斜面地形であり、滑落崖（Lsc）と移動土塊（Lsm）の地形に分類される。この地すべり地形は、２本の開析谷によって侵食されている。平遺跡を中心とする半径約1.5km以内には地すべり地形が存在せず、平遺跡背後の山地斜面のみに形成されている。

写真１　平遺跡前面の海岸線
矢印の部分が平遺跡の前面に発達する砂丘

写真２　平遺跡後背の山地斜面
矢印の部分が緩傾斜面へ変化する傾斜変換点



第２図　平遺跡周辺の地形分類図（国土地理院地図をもとに辻が作成）

第２図解説

空中写真画像は、国土交通省国土地理院の web 地図閲覧サービスの「地理院地図」の 1974 ～ 1978 年のタイルマップ画像を使用した。空中写真による地形判読は、国土地理院の web 閲覧サービスの「地図・空中写真閲覧サービス」から、1975 年撮影の１万分の１のカラー写真（CKK-75-6 C3-7 ～ C3-9）をダウンロードして使用した。等高線等のデータは、国土地理院の「基盤地図情報」のデータを使用した。なお、山地斜面の等高線の間隔は 10m であるデータの空間的統合には、QGIS を使用した。基盤岩の岩質の情報は、産業総合研究所の地質情報閲覧サービスの「地質図 Navi」と、産業総合研究所の地質調査総合センター刊行の中江訓・辻野匠・小松原琢・高木哲一・宮川歩夢（2022）の 20 万分の１地質図幅の宮津（第２版）を参照した。

各種記号凡例

・山地斜面（基盤岩）
　凸型斜面
　　Shs：頂部平滑斜面
　　Rgs：尾根型斜面
　凹型斜面
　　Vws：谷壁斜面
・開析谷
　　Uvb：上部谷底面（相対的に谷底の地形傾斜が急）
　　Lvb：下部谷底面（相対的に谷底の地形傾斜が緩）
・地すべり
　　Lsc：滑落崖
　　Lsm：移動土塊
・段丘面
　　Tmr：中位段丘面（後期更新世中期/海成段丘）
　　Tlr ：低位段丘面（後期更新世後期/河成段丘）
・地すべりによって変形した段丘面
　　Tml：滑落した中位段丘面
・急崖
　　Sic：段丘崖および開析谷谷壁斜面
・沖積地
　　Act：沖積扇状地および沖積錐（後期更新世後期～完新世）
　　Fml：河成および海岸低地（完新世）
　　Spb：砂州および砂浜（完新世）
　　Sdu：砂丘（完新世）
　　Bnc：波食棚、残丘などの岩石地形（完新世）
・山地斜面を構成する基盤岩の地質
　　AMT：流紋岩火山砕屑岩
　　（新第三紀　中新世　網野層）
　　TND：デイサイト貫入岩
　　（新第三紀　中新世　丹後層）
＊山地斜面中の破線（太線）は、地質境界を示す

宇川の河口部では、左岸と右岸で地形的特徴が大きく異なる。左岸では、平遺跡周辺の山麓部に山地頂部の標高が約280m前後の大起伏山地が形成されている。一方、右岸では中位段丘（Tmr）の平坦な段丘面が広がり、背後の山地斜面は標高50～100mの丘陵状の小起伏山地をなしている。この段丘面は、約13万年前～８万年前の最終間氷期（海洋酸素同位体ステージ：MIS5）に形成された海成段丘と考えられているが、挟在するテフラが確認されていないため、正確な堆積時期の特定は困難である[注3]。なお、中位段丘面は左岸にも存在するものの、発達は不十分であり、山麓部と海岸線の間に狭く細長く分布するのみである。

宇川では、河口部まで両岸に山地斜面が迫り、狭い谷底低地を流下して海に注いでいる。このため、現在の海岸線付近には明瞭な海岸低地は見られない。河口部では、谷底低地を埋積する河成の沖積低地（Fml）が卓越すると考えられるが、海成の沖積低地との区別は不明瞭であり、明確に区別することは困難である。また、山麓部の山地斜面から段丘面や沖積低地にかけての緩斜面には、沖積扇状地および沖積錐（Act）が形成されている。

宇川の河口部では、砂州や砂浜（Spb）、砂丘（Sdu）といった砂質の海岸地形が発達している。しかし、平遺跡から西側の海岸線にかけては砂質海岸地形の発達が不十分で、波食棚や残丘といった岩石海岸地形（Bnc）が卓越している。この岩石海岸地形の海岸線では、比高20～30mの中位段丘急崖が連続的に形成され、その直下には狭い礫質の海浜地形が見られる。　　（辻　康男）

２）歴史的環境

平遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。これまでに予備調査を含めて４回の発掘調査が実施されている。平遺跡の周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡が点在するが、発掘調査履歴がなく遺跡の詳細は不明である。(注4) 実態が明らかとなっているのは、平成21年度から平成26年度にかけて京都府教育庁文化財保護課が京丹後市教育委員会の協力を得て悉皆調査を実施した山地に展開する中世山城(注5)や平成29年度から令和３年度にかけて当調査研究センターが発掘調査を実施した宇川右岸の海岸段丘上に位置する旧石器から平安時代の複合遺跡である上野遺跡に限られる。

上野遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺物散布地として知られていた遺跡である。平成29年度から令和元年度と令和３年度に実施した発掘調査で弥生時代から古墳時代の住居跡、古代の鍛冶炉跡、工房跡と考えられる遺構群などを検出し、京都府内最古級である後期旧石器時代前半の石器群や古代の鉱滓、鞴の羽口等が出土した。(注6)　（菅　博絵）

第３図　平遺跡と周辺の遺跡地図（国土地理院1/25,000「丹後平」「丹後中浜」に加筆）

３．調査の経過と方法

１）調査の経過

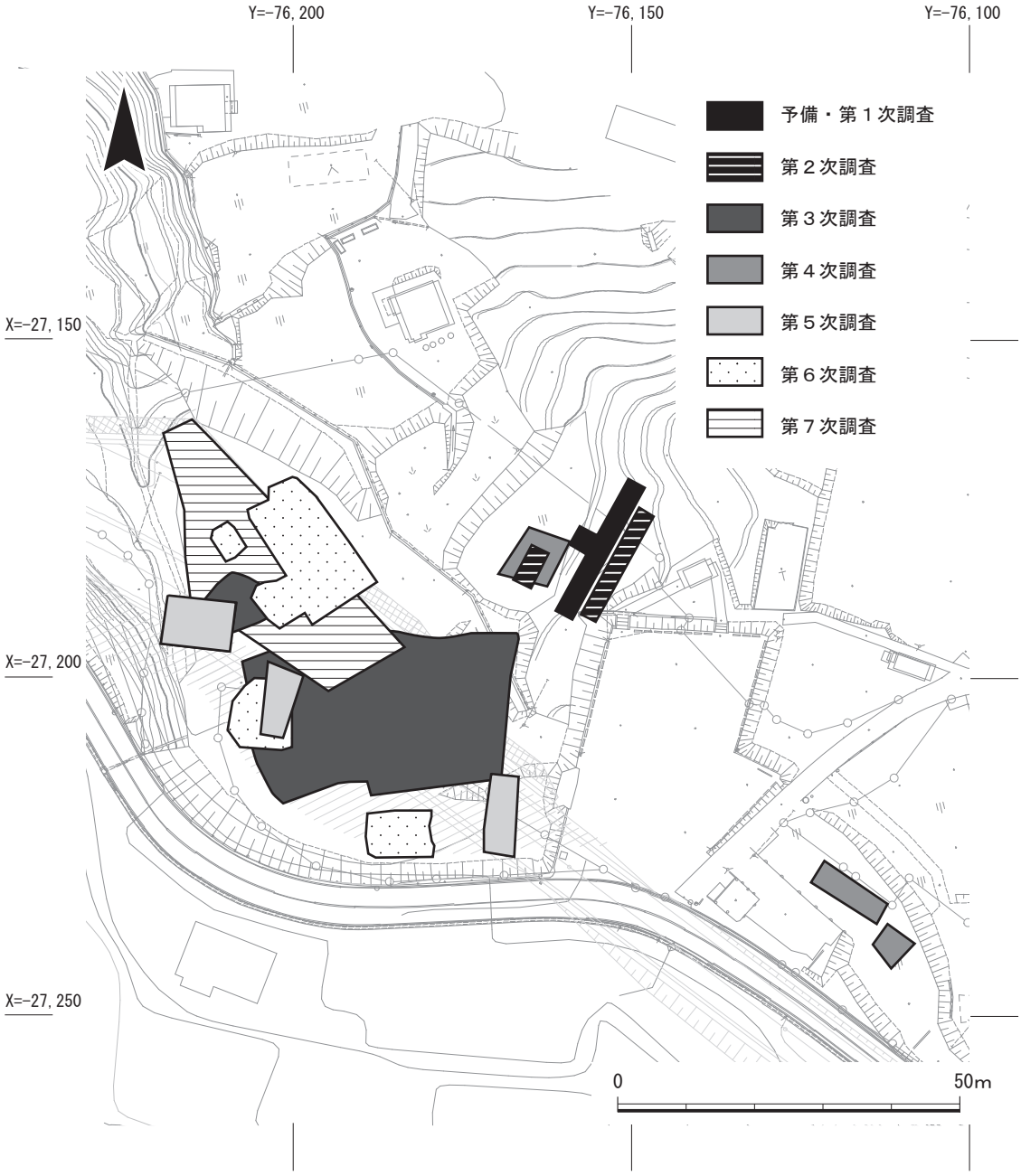
予備調査～第３次調査　平遺跡では、昭和37年に畑の開墾中に土器が出土したことが、地元宇川中学校教諭・峰山高等学校教諭を経て、同志社大学の酒詰仲男氏に伝えられた。同年に同大学の考古学研究会により予備調査が実施されて、縄文時代を中心とする包含層が確認されたことから遺跡の存在が明らかとなった。翌年昭和38年度に第１次調査として同考古学研究会、昭和40年度には第２次調査として帝塚山大学および同大学考古学研究会による発掘調査が実施された。調査の結果、当地に縄文時代前期から後期の包含層が層位的に堆積し、出土遺物の中に東日本の土器が出土することが明らかになった。また、土器の一群を「平式土器」として縄文時代中期の標識的な土器として位置づけた。その後、平成８年度に実施した第３次調査では、縄文時代早期から晩期にかけての包含層と縄文時代晩期、古墳時代中期末の遺構が確認された[注8]。本書では、平成30年度以降に調査を実施した第４次調査から第７次調査の報告を行う。

第４次調査　平成30年８月１日～12月21日まで実施した小規模調査では、東に向かって低く傾斜する斜面に２か所、第１次調査地に１か所トレンチを設定した。いずれの調査区も重機で表土掘削を行ったのち、人力で遺構面の精査を行った。このうち１トレンチから昭和40年度に調査を実施したトレンチの一部と縄文時代から古墳時代の包含層の堆積を確認した。調査面積は130㎡である。

第５次調査　令和２年９月28日～10月29日まで実施した小規模調査では、第４次調査２トレンチ西側の谷部にトレンチを３か所設定した。いずれの調査区も重機で表土掘削を行ったのち、人力で遺構面の精査を行った。１トレンチで縄文時代から中世の包含層を確認し、その他のトレンチでは現代に高く盛土されていることが明らかとなった。調査面積は150㎡である。

付表１　平遺跡調査次数一覧

次数	調査期間	調査面積	調査機関	調査要因	報告書等
予備	昭和 37 年 12 月 21 日～ 昭和 37 年 12 月 23 日	（16㎡）	同志社大学考古学研究会	学術調査	『同志社考古』３・４
１次	昭和 38 年５月１日～ 昭和 38 年５月 19 日	（78㎡）	同志社大学考古学研究会	学術調査	
２次	昭和 40 年７月 28 日～ 昭和 40 年８月 10 日	（72㎡）	帝塚山大学考古学研究室	学術調査	『京都府丹後町平遺跡調査概要』
３次	平成８年８月 26 日～ 平成８年 12 月 15 日	1,000㎡	当調査研究センター	道路建設	『京都府遺跡調査概報』第 79 冊
４次	平成 30 年８月１日～ 平成 30 年 12 月 21 日	130㎡		道路建設	本書で報告
５次	令和２年９月 28 日～ 令和２年 10 月 29 日	150㎡		道路建設	
６次	令和４年８月 17 日～ 令和４年 10 月７日	350㎡		道路建設	
７次	令和５年８月 23 日～ 令和５年 12 月 11 日	1,180㎡		道路建設	



第４図　平遺跡の既往の調査地位置図(1/500)

第６次調査　令和４年８月17日～10月７日まで実施した小規模調査では、第５次調査で調査地に現代の盛土が厚く堆積していることが判明していたため、重機による土砂除去後調査を実施した。このうち３・４トレンチで縄文時代から中世の包含層が広範囲に広がることを確認したため、次年度に本調査を実施することとなった。調査終了に伴いＵＡＶ(無人航空機)を用いた空中写真撮影を１回行った。調査面積は350㎡である。

第７次調査　令和５年８月23日～12月11日まで実施した本調査では、重機により現代の盛土などを除去したのち、人力で遺構精査を実施した。中世の遺構面を検出し、記録を行ったのち、下層を調査するため再度重機掘削を実施し、精査を行った。調査終了に伴いＵＡＶ(無人航空機)を用いた空中写真撮影を１回行った。調査面積は1,180㎡である。

整理作業　調査終了後から令和７年度にかけて整理作業を実施した。調査によって出土した遺物は、整理箱にして第４次調査で７箱、第５次調査で１箱、第６次調査で10箱、第７次調査で24箱であった。出土遺物については、台帳登録、洗浄作業を行い、その後注記、接合作業を行い、必要に応じて復元作業を行った。本報告で使用した遺構図は、現地で作成したもののほか、空中写真撮影により作成した平面図を使用した。

２）調査の方法

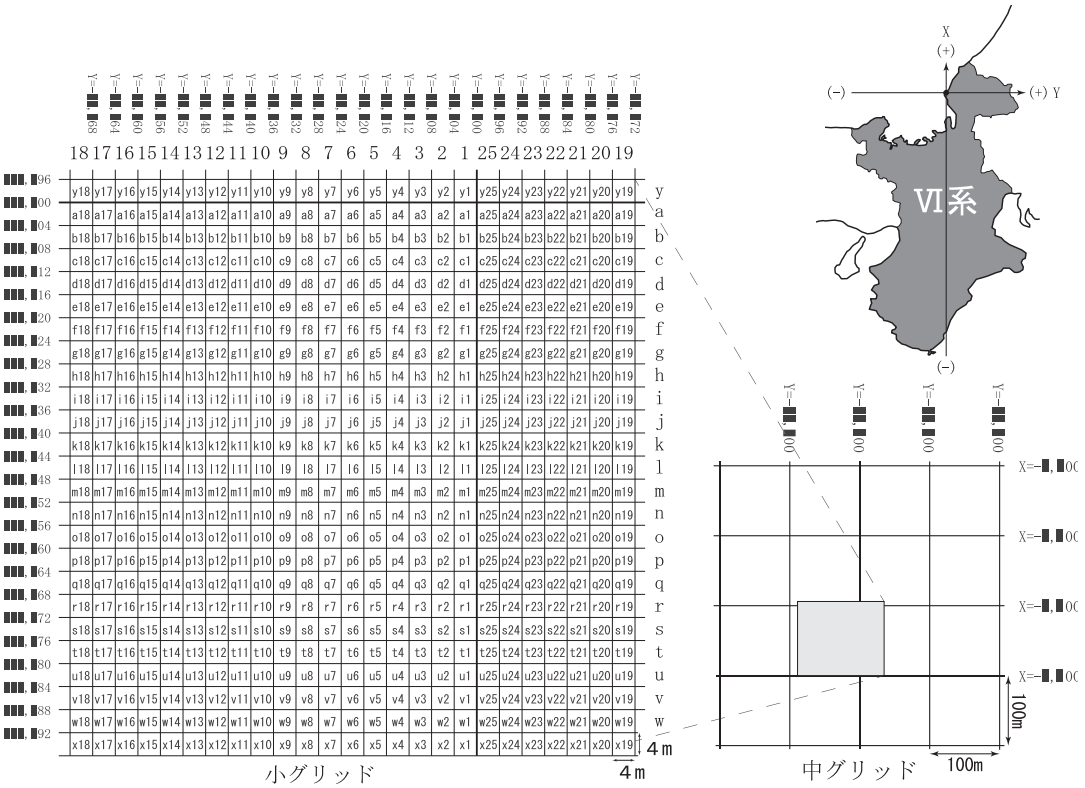
（１）地区割について

平遺跡では、次数ごとに数字のトレンチ名を付している。遺物の取上げには、平面直角座標系Ⅵ系（JGD2011）を利用した４ｍのグリッドを設定した。Ｘ、Ｙの座標値のうち、整数値の下二桁が00となる線を基準に100ｍ四方の中グリッドを設定し、これを東西と南北でそれぞれ25等分した。Ⅵ系平面直角座標系の原点は調査地の北東にあり、南と西へ向かってＸ、Ｙの絶対値が増加する。この点を考慮して、南北方向は北からa～y、東西方向は東から１～25として、各章グリッドの名称はa１、a２などとする（第５図）

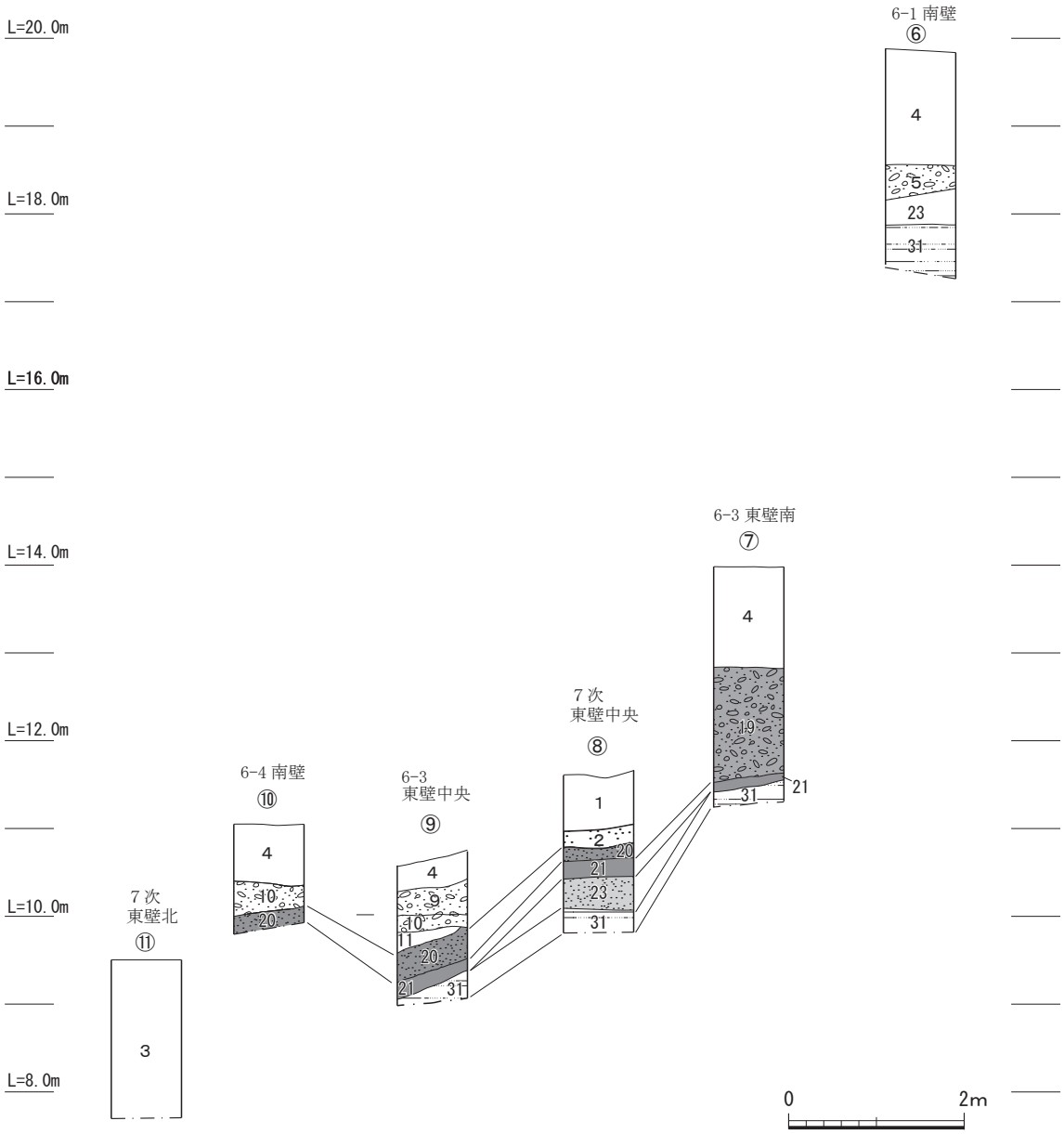
（２）遺構番号について

平遺跡の調査では、次数ごとにそれぞれ１から遺構番号を付け、遺構番号の頭には遺構の性格を示す略号を付した。略号は調査の進展に伴って変更することもあったが、遺構番号は変更しないようにした。本書で使用した略号は以下のとおりである。

ＳＤ：溝、ＳＫ：土坑、ＳＢ：掘立柱建物、ＳＰ：柱穴、ＮＲ：自然流路・谷状地形、ＳＸ：そのほかの遺構



第５図　地区割設定図



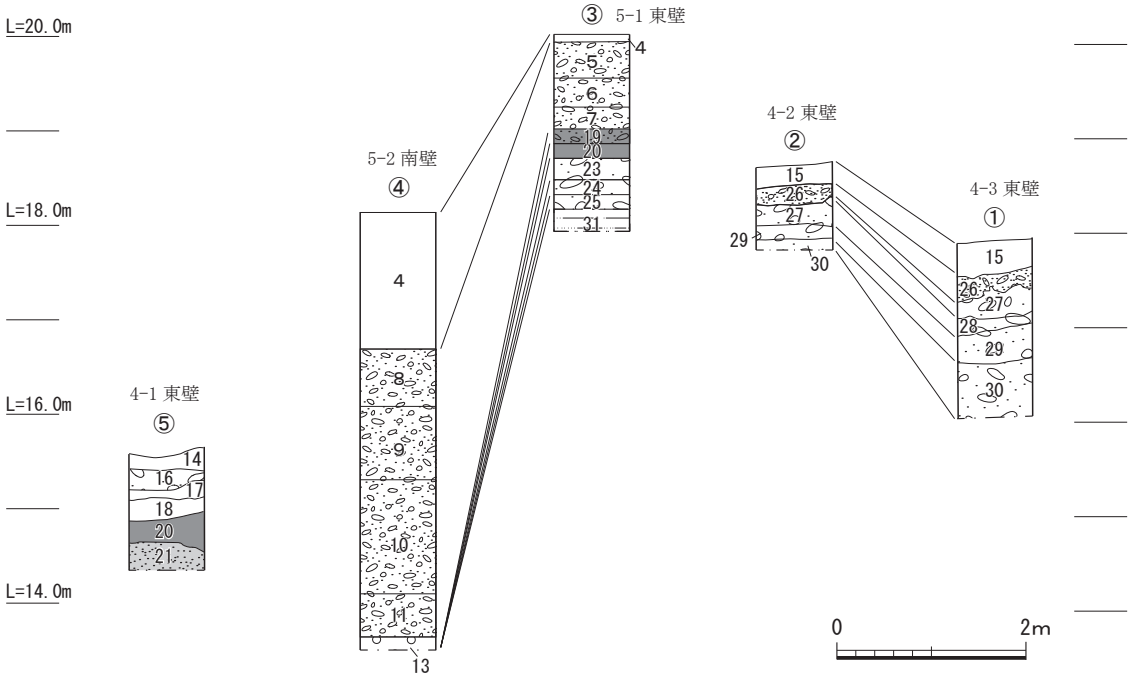
第６図　基本層序地質柱状図１

４．基本層序

基本層序は、北東に向かって低くなる開析谷内に設定した４－２・３トレンチと、北西に向かって低くなる開析谷内に設定したその他のトレンチおよび調査区とに大きく２分される。地質柱状図は第６・７図に示したとおりである。

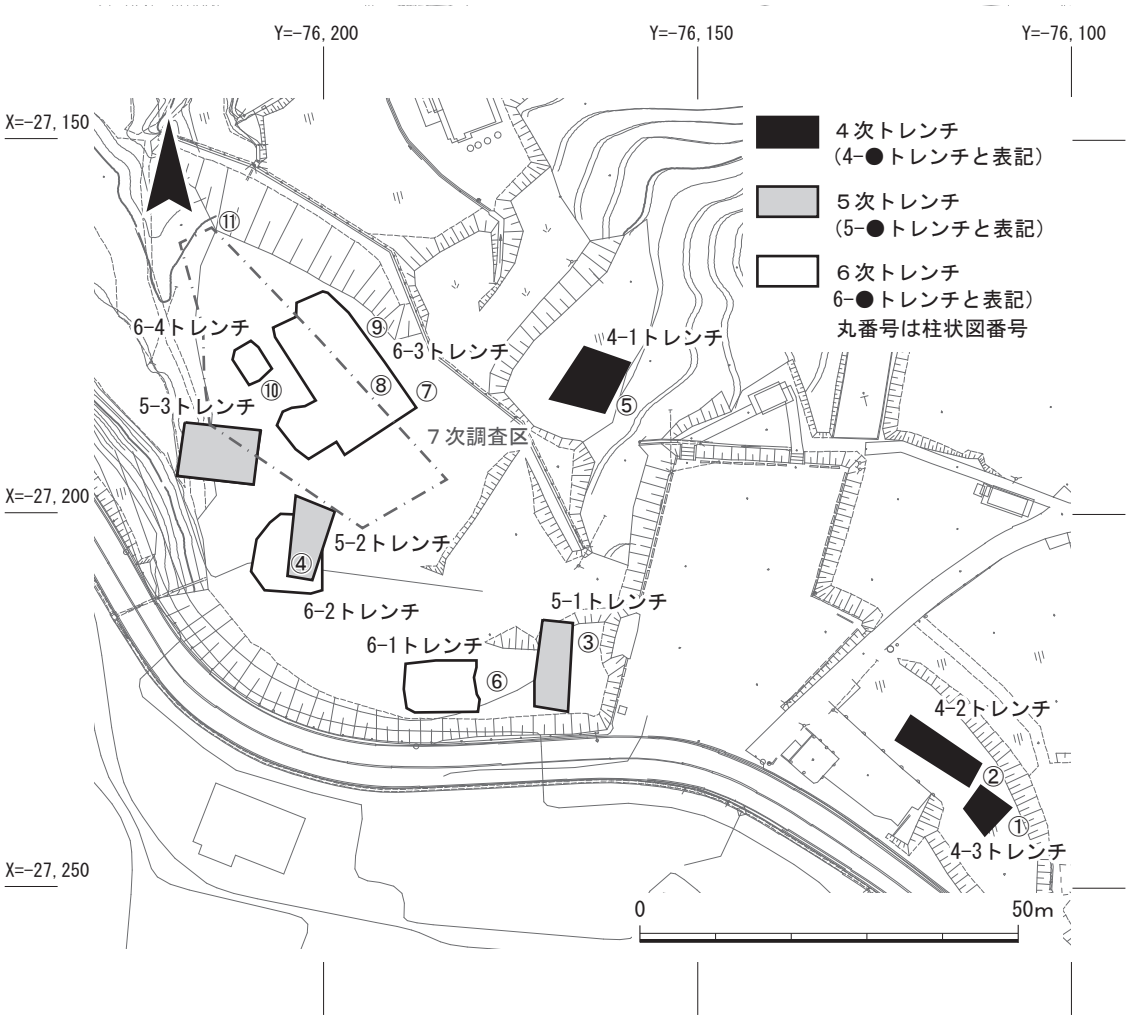
北東に向かって低くなる開析谷内に設定した調査区（４－２トレンチ、４－３トレンチ）の調査前の標高は、北西側（４－２トレンチ）が18.1mで、南東側が（４－３トレンチ）18.6mである。表土である褐色を呈する亜角礫～亜円礫の細礫を少量含む中粒砂質細粒砂層（15層）直下で検出した亜角礫～亜円礫の細～大礫を含む中粒砂質細粒砂～極細粒砂質細粒砂層（26～30層）では遺物は含まれず、後背山地からの斜面崩壊による堆積層と考えられる。

北西に向かって低くなる開析谷内に設定した調査区（４－１トレンチ、５－１～３トレンチ、



１．灰黄褐色（10YR 6/2）粗粒砂質中粒砂　大礫～巨礫（亜角礫～亜円礫）を少量含む＜第６次調査区埋土＞
２．浅黄褐色（2.5Y 7/6）粗粒砂＜Ｒ４年度保護層＞
３．褐灰色（10YR 4/1）粗粒砂質中粒砂　大礫～巨礫（亜角礫～亜円礫）を少量含む＜攪乱土＞
４．明黄褐色（10YR 6/8）中粒砂含むシルト　小礫～中礫（亜角礫～亜円礫）含む＜攪乱土＞
５．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗粒砂　小礫～中礫（亜角礫～亜円礫）含む＜攪乱土＞
６．灰白色（10YR 7/1）シルト含む粗粒砂　小礫～中礫（亜角礫～亜円礫）、大礫少量含む＜攪乱土＞
７．褐色（10YR 4/4）シルト含む中粒砂　小礫～中礫（亜角礫～亜円礫）少量含む　部分的に第３層に切られる＜攪乱土＞
８．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗粒砂　中礫～大礫（亜角礫～亜円礫）、コンクリート片ほか現代建材含む＜攪乱土＞
９．灰白色（7.5YR 7/1）粗粒砂　中礫～大礫（亜角礫～亜円礫）、 コンクリート片ほか現代建材含む＜攪乱土＞
10. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗粒砂　中礫～大礫（亜角礫～亜円礫）、コンクリート片ほか現代建材含む＜攪乱土＞
11. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂
12. 灰黄色（2.5Y 7/2）粗粒砂　中礫～大礫（亜角礫～亜円礫）、コンクリート片ほか現代建材含む＜攪乱土＞
13. 砕石＜暗渠排水施設＞
14. 黒色（10YR 2/1）粗粒砂質細粒砂　激しい根攪乱を受ける、中礫を少量含む＜土壌化土＞
15. 褐色（7.5YR 4/3）中粒砂質細粒砂　細礫（亜角礫～亜円礫）を少量含む＜土壌化土＞
16. 黄褐色（2.5Y 5/3）中粒砂質細粒砂　オリーブ黒（5Y 3/1）に根攪乱土・中礫を少量含む
17. オリーブ黒色（10Y 3/1）中粒砂質細粒砂　黄褐色（2.5Y 5/3）粗粒砂質中粒砂＜根攪乱＞と中礫（亜角礫～亜円礫）を含む
18. 灰色（7.5Y 4/1）粗粒砂質中粒砂　中礫（亜角礫～亜円礫）を少量含む
19. 暗オリーブ（7.5YR 4/1）中粒砂質細粒砂　中礫～大礫（亜角礫～亜円礫）を少量含む
20. 灰褐色（7.5YR 4/2）極細粒砂～細粒砂　大礫（亜角礫）を含む＜縄文～中世遺物包含層＞
21. 暗灰色（N 3/）粗粒砂質中粒砂＜縄文～古墳遺物包含層＞
22. 灰オリーブ色（5Y 5/2）粗粒砂質中粒砂＜遺物包含層＞
23. 灰褐色（10YR 4/2）粗粒砂質中粒砂　小礫～中礫（亜角礫～亜円礫）含む＜縄文時代後期末～晩期中葉包含層＞
24. 黄褐色（2.5Y　5/6）シルト含む中粒砂　小礫～中礫（亜角礫～角礫）含む
25. 暗褐色（10YR 3/3）シルト含む中粒砂　小礫～中礫（亜角礫～角礫）多く含む
26. 黄褐色（2.5Y 5/4）シルト含む中粒砂　小礫～中礫（亜角礫～角礫）含む
27. 黒褐色（10YR 3/2）中粒砂質細粒砂　中礫～細礫（角礫）を少量含む＜土壌化土＞
28. 黒褐色（10YR 2/2）極細粒砂質細粒砂　中礫～大礫（超角礫～角礫）を少量含む＜土壌化土＞
29. 灰黄褐色（10YR 4/2）極細粒砂質細粒砂　中礫～大礫（超角礫～角礫）を少量含む＜土壌化土＞
30. にぶい黄褐色（10YR 5/2）中粒砂質極細粒砂　中礫～大礫（超角礫～角礫）を少量含む
31. 橙色（7.5YR 6/6）細粒砂含むシルト　細礫（角礫）少量含む　＜基盤層＞

第７図　基本層序地質柱状図２



第８図　小規模トレンチ配置図(1/1,000)

６－１～４トレンチ、７次調査区）の調査前の標高は、南東側（５－１トレンチ）で約20.0m、北西側（７次調査区）で約9.6mである。東から北西に向かって現代盛土や攪乱埋土（１～13層）が厚く堆積し、その下には、縄文時代前期から中世にかけての包含層である亜角礫の大礫を含む灰褐色を呈する極細粒砂～細粒砂層(20層)が部分的に残存する。20層の下には、縄文時代から古墳時代の包含層である暗灰色を呈する粗粒砂質中粒砂層(21層)を検出した。21層は第３次調査で検出した縄文時代から古墳時代の包含層と同一層の可能性があることから開析谷内に広く残存すると考えられる。その下層には縄文時代後期末～晩期中葉の包含層である灰褐色を呈する粗粒砂質中粒砂層(23層)を検出した。23層の下は亜角礫の細礫と橙色を呈する細粒砂シルトの基盤層(31層)が堆積し、既往の調査に見られるような後期以前の包含層は認められない。

４－１トレンチ(第７図⑤)は現代の盛土や攪乱の影響が少なく、近現代の耕作土(16～18層)下に縄文時代から中世の遺物を含む包含層(20層)を検出した。第２次調査で検出した第２層上層淡黒褐色砂層と同一の可能性が高い。20層下層にも遺物を含む包含層である灰オリーブ色を呈する粗粒砂質中粒砂層(21層)を確認した。　（菅　博絵）

５．小規模調査の概要

平遺跡では、既往の調査成果から北西に向かって低くなる開析谷内に遺構や包含層が広がることが確認されている。北西に向かって低く傾斜する開析谷内と東に向かって低く傾斜する開析谷の斜面に遺構や包含層の範囲を確認するために小規模調査を実施した。

１）第４次調査

第４次調査では、１～３トレンチを設定し、小規模調査を行った。調査対象地は開析谷内に東西に分かれており、第１・２次調査のトレンチ位置の把握と、北東に向かって下がる開析谷内の遺構・遺物の広がりを把握をすることを目的とした。

１トレンチ　調査対象地の北東側の砂丘の緩斜面地に設定した長辺4.4m・短辺4.3mのトレンチである。表土下約0.4～1.0mまで重機掘削を行い、標高約15.5mで検出長4.4m・幅3.2mの方形を呈する土色変化を確認したため精査を行った。方形の土色変化は、既往の調査地の位置と規模から第２次調査時のトレンチと推定する。標高約12.6mまでサブトレンチを設定して調査を行ったが、砂層が続き、基盤層は確認できなかった。トレンチ南西側では、標高約14.9～15.2mで縄文時代から中世の遺物を含む包含層（20層）を検出し、縄文時代から古墳時代の包含層（21層）の下の標高約約14.6mで基盤層と考えられる橙色細粒砂を含むシルト層（31層）を確認した。

２トレンチ　調査対象地の南東側微高地に設定した長辺10.1m・短辺3.3mのトレンチである。表土下約0.7mまで重機掘削を行い、標高17.5～17.9mで中礫から細礫を少量含む中粒砂質細粒砂～極細粒砂質細粒砂層（第７図②27・28層）を確認した。下層の確認のため北東隅にサブトレンチを設定し、標高約16.0mまで調査を行ったが遺構・遺物および基盤層は認められなかった。包含される礫の種類が同一で円磨度が超角礫から角礫にまとまり、堆積方向が同一であることから後背山地の斜面崩壊による堆積が続くと判断した。

３トレンチ　２トレンチの南東側、宇川に向かって下がる斜面地に設定した長辺4.4m・短辺3.8mのトレンチである。表土下約0.9～1.0mまで重機掘削を行った。下層確認のために調査区北東隅にサブトレンチを設定し、標高約17.7mまで調査を行ったが基盤層は確認できなかった。２トレンチと同様の堆積層を確認し、後背山地からの斜面崩壊による堆積であると判断した。遺構、遺物は認められなかった。

２）第５次調査

第５次調査では、１～３トレンチを設定し、小規模調査を行った。調査区周辺の調査では、第３次調査で縄文時代末期の埋甕や石敷炉、古墳時代中期末の石敷遺構や溝を検出していることから、山側に遺構が広がることが予想された。

１トレンチ　調査対象地南側の微高地に設定した長辺11.8m・短辺45.6mのトレンチである。表土下約1.0mまで重機掘削を行った。標高約19.1mで安定した角礫の細礫を少量含む橙色細粒砂含むシルト層（第７図③31層）と北側に亜角礫～亜円礫の小礫から中礫を含む灰白色粗粒砂層（第７図③６層）の土色変化を確認したため、人力掘削と精査を行い、トレンチ南北の両壁に沿ってサブトレンチを設定した。トレンチ南側では、表土下から標高約19.6mで現代攪乱層（第７図③

５～７層）の堆積を確認した。攪乱層下の亜角礫の大礫を含む灰褐色極細粒砂～細粒砂層（第７図③20層）からは縄文時代から中世の遺物が出土した。20層下の暗灰色粗粒砂質中粒砂（21層）からは縄文時代から古墳時代の遺物が出土した。包含層下は後背山地の斜面崩壊による堆積層が続くことを確認した。標高約13.6mで基盤層を確認した。

トレンチ北側では、現代の攪乱層（第７図③５～７層）が標高約17.0mまで堆積する。攪乱層下には南側で検出した基盤層と考えられる角礫の細礫を少量含む橙色細粒砂含むシルト層（第７図③31層）を検出した。攪乱層は北側に広がることが判明した。

２トレンチ　１トレンチ西側約30mに設定した長辺10.6m・短辺5.6mのトレンチである。１トレンチで検出した遺物包含層や基盤層は認められず、現代の番線やコンクリート片を含む攪乱土層が続くことを確認した。

３トレンチ　２トレンチ西側約５mに設定した長辺10.0m・短辺7.0mのトレンチである。トレンチ西側にサブトレンチを設定し、標高約14.9mまで重機掘削を行ったが、基盤層は確認できず現代攪乱土層が続くことを確認した。

３）第６次調査

第６次調査では、１～４トレンチを設定し、小規模調査を行った（第８図）。第５次調査の結果、調査地周辺は現代の攪乱土層が厚く堆積することが判明したため、重機により攪乱土層を除去後、トレンチを設定し調査を実施した。

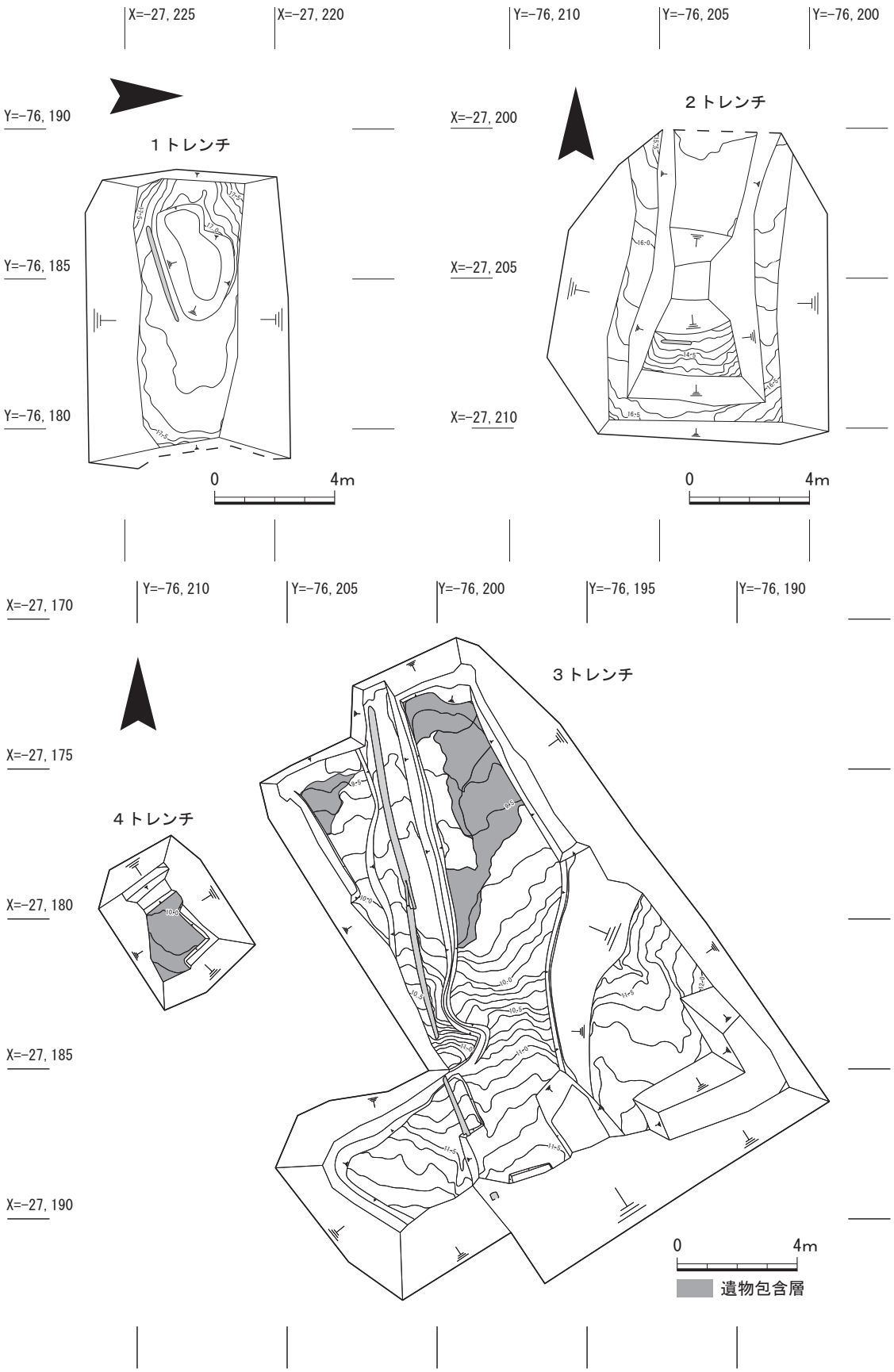
１トレンチ　第５次調査１トレンチの西側約７mの微高地に設定した長辺9.2m・短辺5.7mのトレンチである。現代攪乱土層は、標高約18.2mまで堆積する（第６図⑥５層）。攪乱土層下は斜面崩壊による堆積層（第６図⑥23層）、標高約17.8mで角礫の細礫を少量含む橙色細粒砂含むシルト層（第７図③31層）を確認した。遺構・遺物は認められなかった。

２トレンチ　１トレンチの北西約５mの位置に設定した長辺9.8m・短辺6.9mのトレンチである。標高約13.6mまで掘削し、攪乱層が続くことを確認した。遺構・遺物は認められなかった。

３トレンチ　２トレンチの北へ約３mの位置に設定した長辺19.9m・短辺10.2mのトレンチである。トレンチ東壁にサブトレンチを設定し、調査を行った。標高約13.6mで縄文時代～近現代の遺物を含む暗オリーブ中粒砂質細粒砂（第６図⑦19層）を検出し、標高約11.2mで縄文時代から古墳時代の遺物を含む包含層（第６図⑦21層）を検出した。包含層の規模を確認するためにトレンチの南西側を西へ約５m幅約７m拡張した。包含層（第６図⑦20層）は、西側ほど希薄になり調査区外へ広がらないと判断した。標高約9.6m付近で縄文時代から中世の遺物を含む包含層（第６図⑧第20層）とその下に縄文時代から古墳時代の遺物を含む包含層（第６図⑧21層）を検出したため次年度拡張し、面的調査を行うこととなった。

４トレンチ　３トレンチの北西側３mの位置に設定した長辺4.6m・短辺3.2mのトレンチである。トレンチ北側と南東隅にサブトレンチを設定した。標高約10.1mで検出した縄文時代から中世の遺物を含む包含層（第６図⑩20層）を検出したため、３トレンチと同様に拡張し、面的調査を行うことになった。

（面　将道・大石雅興・菅　博絵）



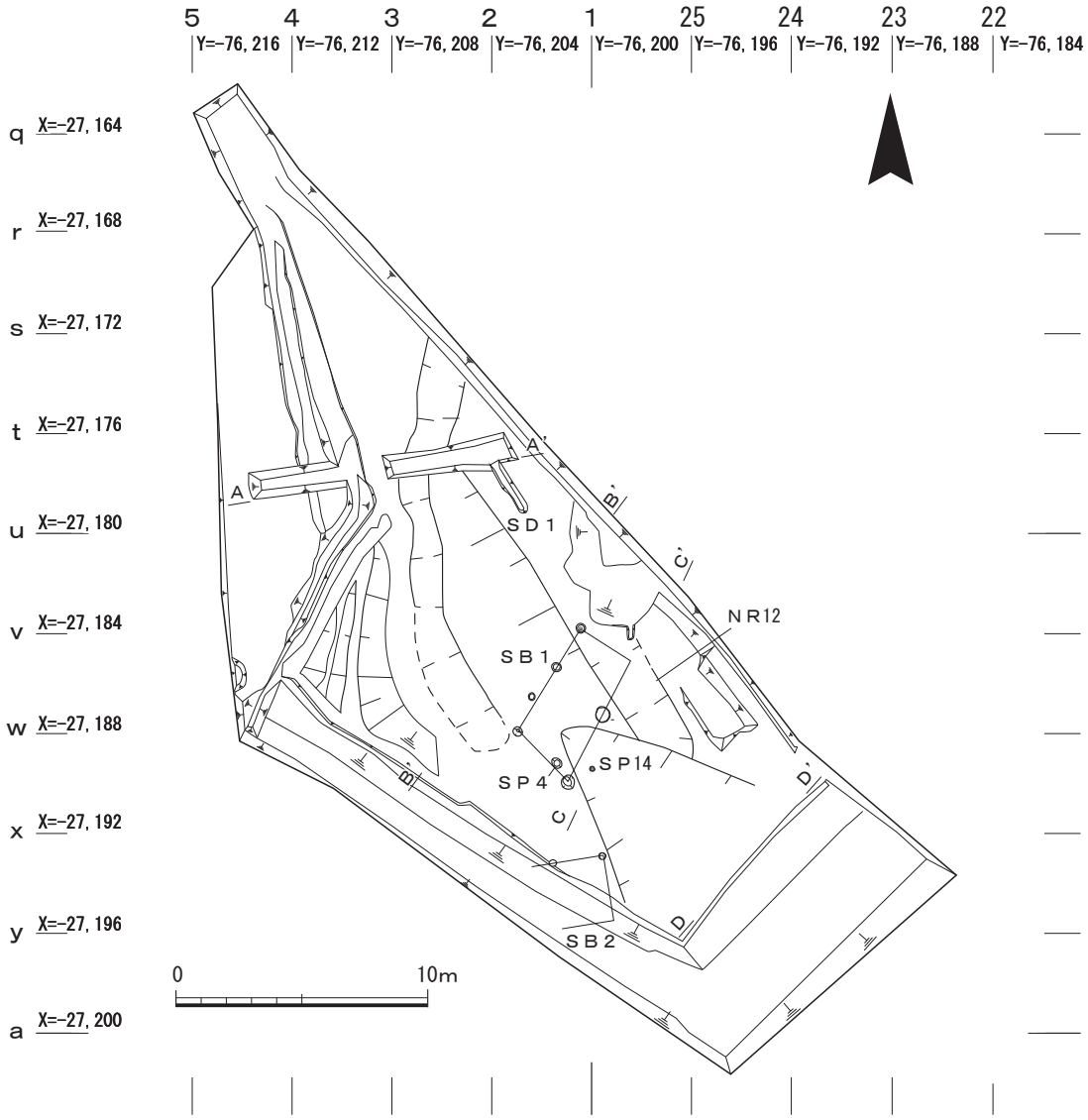
第９図　第６次調査１～３トレンチ平面図(1/200)

６．第７次調査

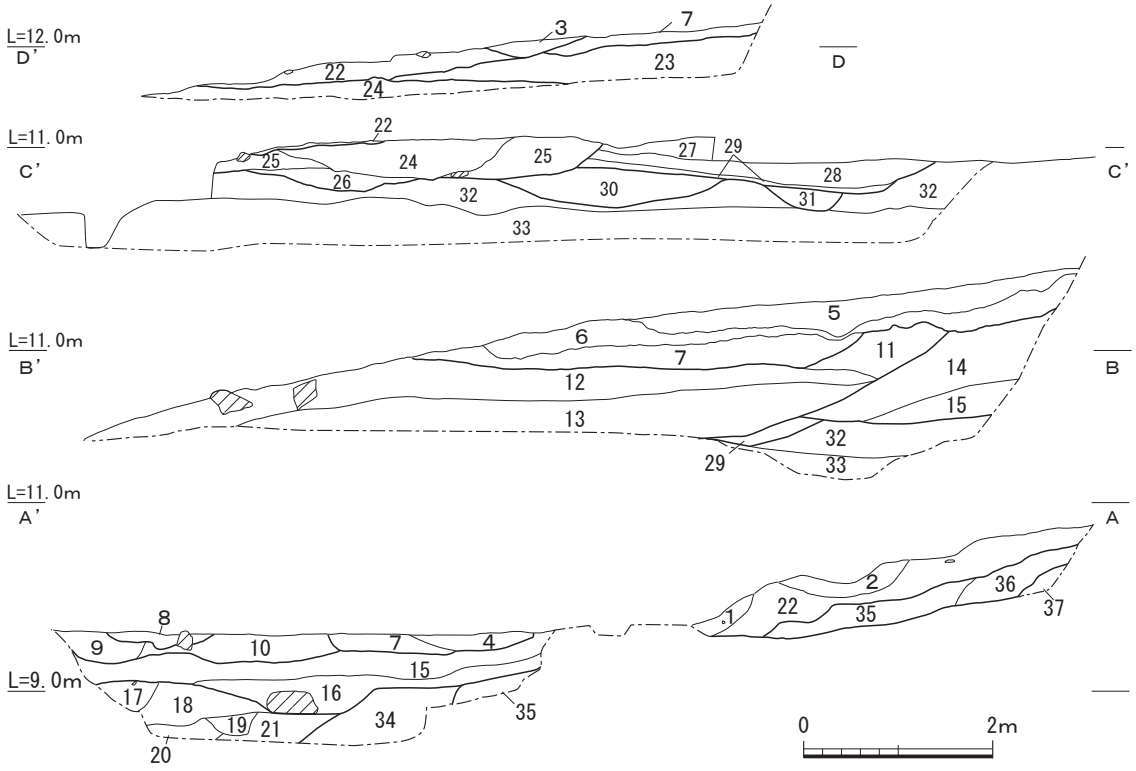
第７次調査は、第６次調査で遺物包含層を検出した３・４トレンチの調査成果を受け、道路敷設予定地内の３トレンチの南西側と４トレンチを含めた調査区を設定した(第８・10図)。

調査の結果、複数時期の谷堆積物と土石流堆積物、中世の掘立柱建物２棟、ピット２基、時期不明の溝１条を検出した。

開析谷(第11図)　調査区は南東から北西に向かって下がる開析谷の下部谷底面に位置する。堆積物は、地形の傾斜に従って南から北へ流れる砂粒の堆積を確認した。開析谷の埋土は大きく14回の堆積単位に分けられる。１・２層は近現代の溝埋土である。３層は中世以降の谷堆積層である。３層はw1区まで確認でき、北側は近現代の攪乱のため消失する。４～７層は中世の遺物包含層である。主たる堆積土は粗粒砂～中粒砂であり、12世紀～15世紀の遺物が出土した。６層上では、掘立柱建物ＳＢ１を検出した。８層はＳＤ１の埋土である。９・10層は南東から北西に流れる土石流堆積層である。主たる堆積物は中礫～大礫を多量に含む粗粒砂～中粒砂である。11～

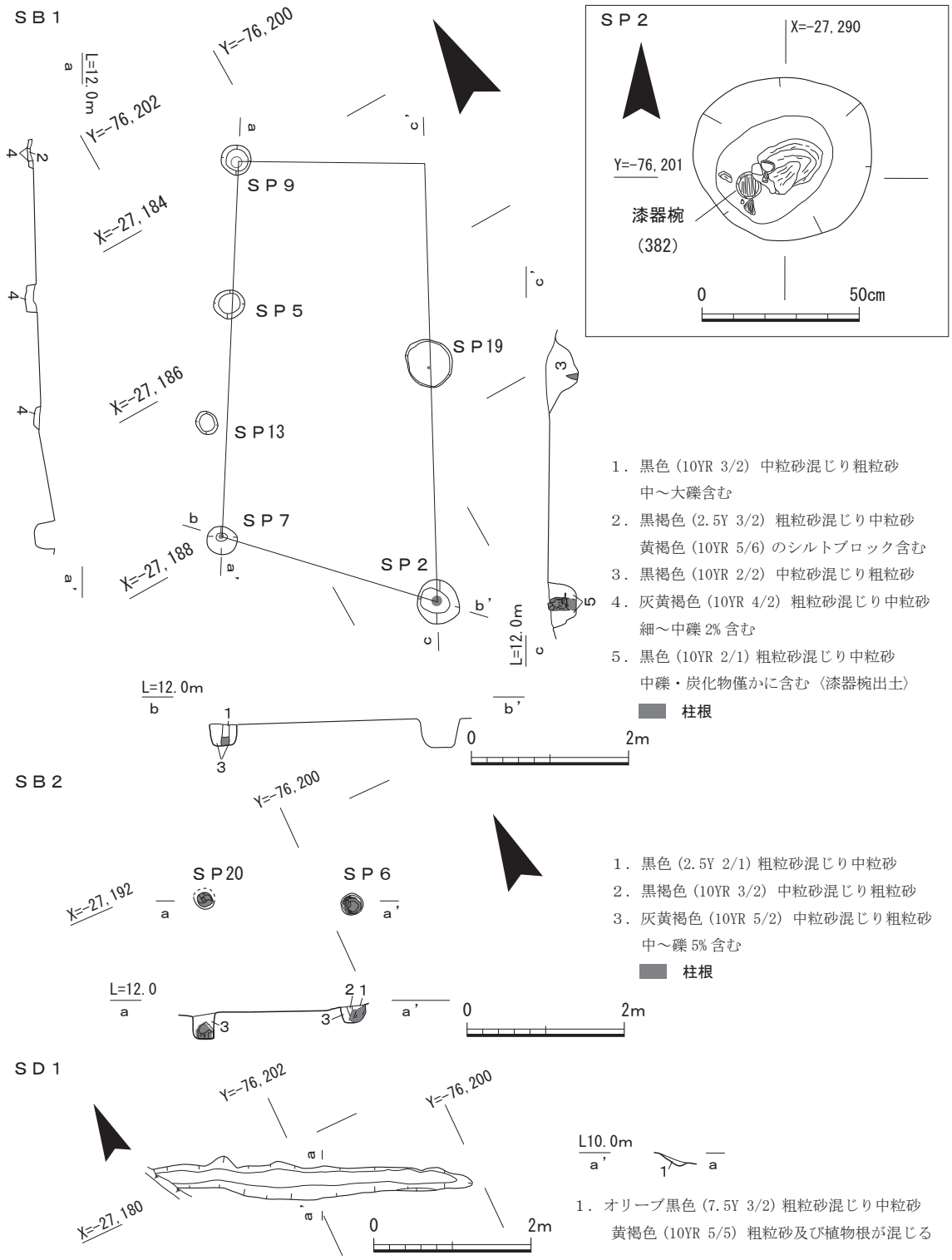


第10図　第７次調査上層遺構平面図(1/300)



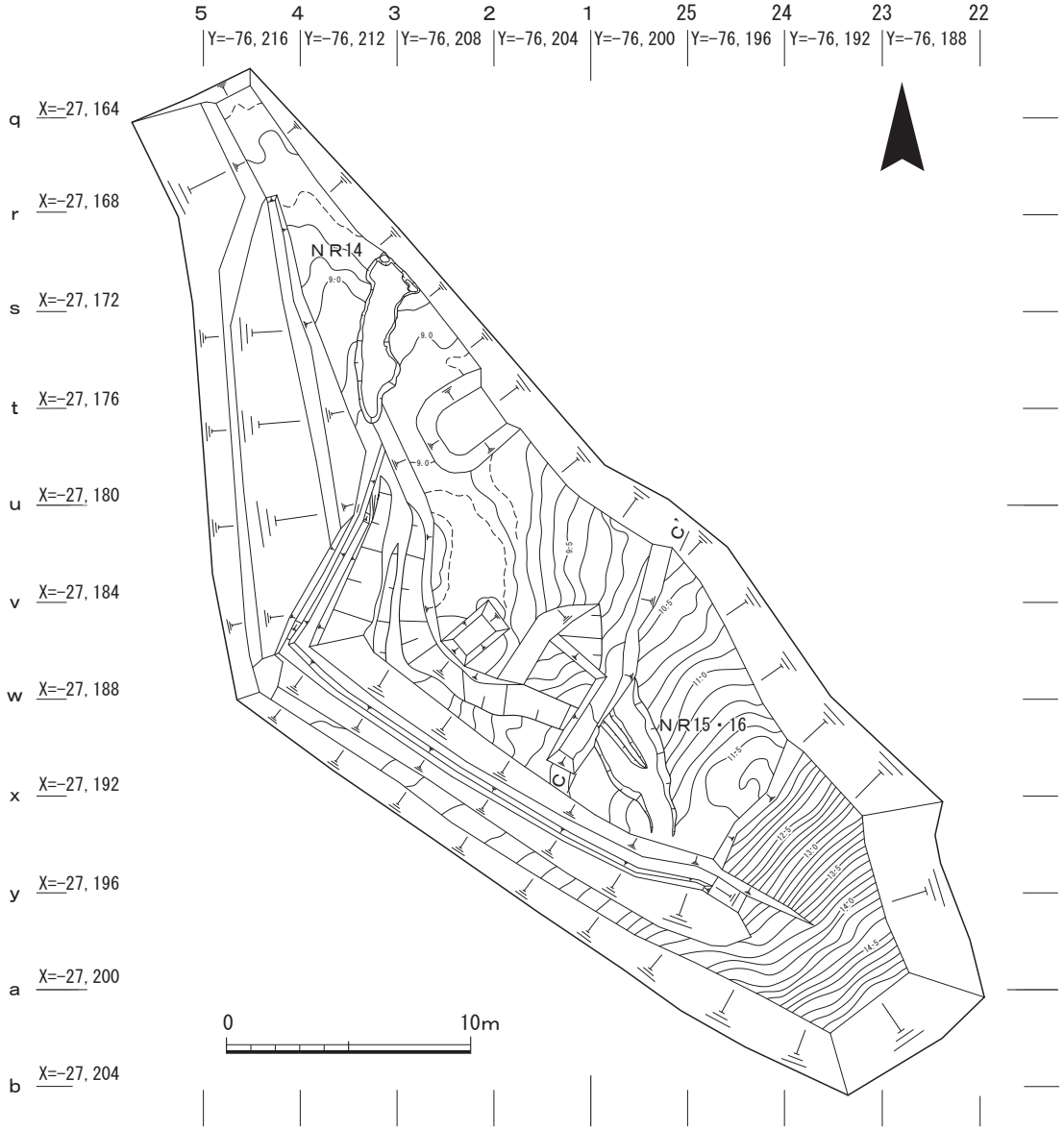
１．褐色（10YR 4/4）中粒砂混じり粗粒砂
　中～大礫を 30% 含む＜近現代溝＞
２．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂混じり粗粒砂
　細～大礫を 30% 含む＜近現代溝＞
３．灰黄褐色（10YR 6/2）粗粒砂混じり中粒砂 大礫を 1% 含む
４．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗粒砂混じり中粒砂
　有機質を 7% 含む
５．にぶい黄褐色（10YR 3/4）粗粒砂　大礫を５% 含む
６．黄灰色（10YR 5/1）粗粒砂混じり中粒砂
７．にぶい黄褐色（10YR 5/3）中粒砂大礫を 9% 含む
８．オリーブ黒色（7.5Y 3/2）粗粒砂混じり中粒砂
　黄褐色（10YR 5/5）粗粒砂及び植物根が混じる＜ＳＤ１＞
９．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗粒砂
　中礫～大礫を 50%、有機質含む＜土石流＞
10．にぶい黄褐色（10YR 3/4）粗粒砂　礫を 60%、
　にぶい黄褐色（10YR 5/4）をブロック状に含む＜土石流＞
11．にぶい黄褐色（10YR 5/3）中粒砂混じり粗粒砂
　中～大礫 60%、炭化物僅かに含む＜土石流＞
12．にぶい黄褐色（10YR 5/3）粗粒砂混じり中粒砂
　中～細礫を 40%含む＜土石流＞
13．黄褐色（10YR 5/8）極粗粒砂　細礫を 40%含む＜土石流＞
14．灰黄褐色（10YR 4/2）中粒砂混じり粗粒砂
　大礫を 40% 含む＜土石流＞
15．褐色（10YR 4/4）粗粒砂混じり中粒砂
　中～大礫を 60%、炭化物含む＜土石流＞
16．黄褐色（10YR 5/6）粗粒砂 大礫（亜角礫）を 30% 含む
17．にぶい黄褐色（10YR 5/3））粗粒砂混じり中粒砂
　中～大礫を 60% 含む＜土石流＞
18．黄褐色（10YR 5/6）中粒砂混じり粗粒砂　中礫を２% 含む
19．明褐色（7.5YR 5/6）粗粒砂　中礫～大礫を 40%含む＜土石流＞
20．黒褐色（2.5Y 3/1）中粒砂質細粒砂
21．黄褐色（10YR 5/6）粗粒砂 中～大礫を 15% 含む
22．暗灰色（N 3/）粗粒砂混じり中粒砂（第７図 21 層）
23．灰オリーブ色（5Y 5/2）中粒砂質粗粒砂　中～大礫を３% 含む
24．灰褐色（10YR 4/2）粗粒砂質中粒砂 小～中礫含む〈ＮＲ12 埋土〉
　（第７図 23 層）
25．にぶい黄褐色（10YR 5/3）中粒砂〈ＮＲ12 埋土〉
26．にぶい黄褐色（10YR 5/4）極粗粒砂混じり細粒砂
　細礫を３% 含む〈ＮＲ12 埋土〉
27．灰褐色（10YR 5/1）粗粒砂混じり中粒砂
28．黄灰色（2.5Y 5/1）粗粒砂質中粒砂 細礫を 50% 含む
29．灰黄褐色（10YR 4/2）粗粒砂混じり中粒砂
30．オリーブ黒色（5Y 3/2）中粒砂質細粒砂　細礫を 25%含む
　〈ＮＲ15 埋土〉
31．灰黄色（10YR 7/2）極粗粒砂混じり細粒砂
　巨礫を５%含む〈ＮＲ16 埋土〉
32．灰色（7.5Y 6/1）粗粒砂混じり中粒砂 中礫を 10%含む＜土石流＞
33．灰黄褐色（10YR 5/2）粗粒砂混じり中粒砂　中～大礫を 15%含む
34．褐色（10YR 4/6）粗粒砂混じり中粒砂
　中～大礫を 40% 含む＜土石流＞
35．黄褐色（10YR 5/6）細粒砂混じり中粒砂
　中～大礫を 50% 含む＜土石流＞
36．にぶい黄褐色（10YR 5/4）細粒砂混じり中粒砂
　中～大礫を 5% を含む＜土石流＞
37．橙色（7.5YR 6/6）細粒砂含むシルト　細礫少量含む＜基盤層＞

第11図　第７次調査土層断面図(1/80)



第12図　第７次調査掘立柱建物ＳＢ１・２、溝ＳＤ１平・断面図(1/80)

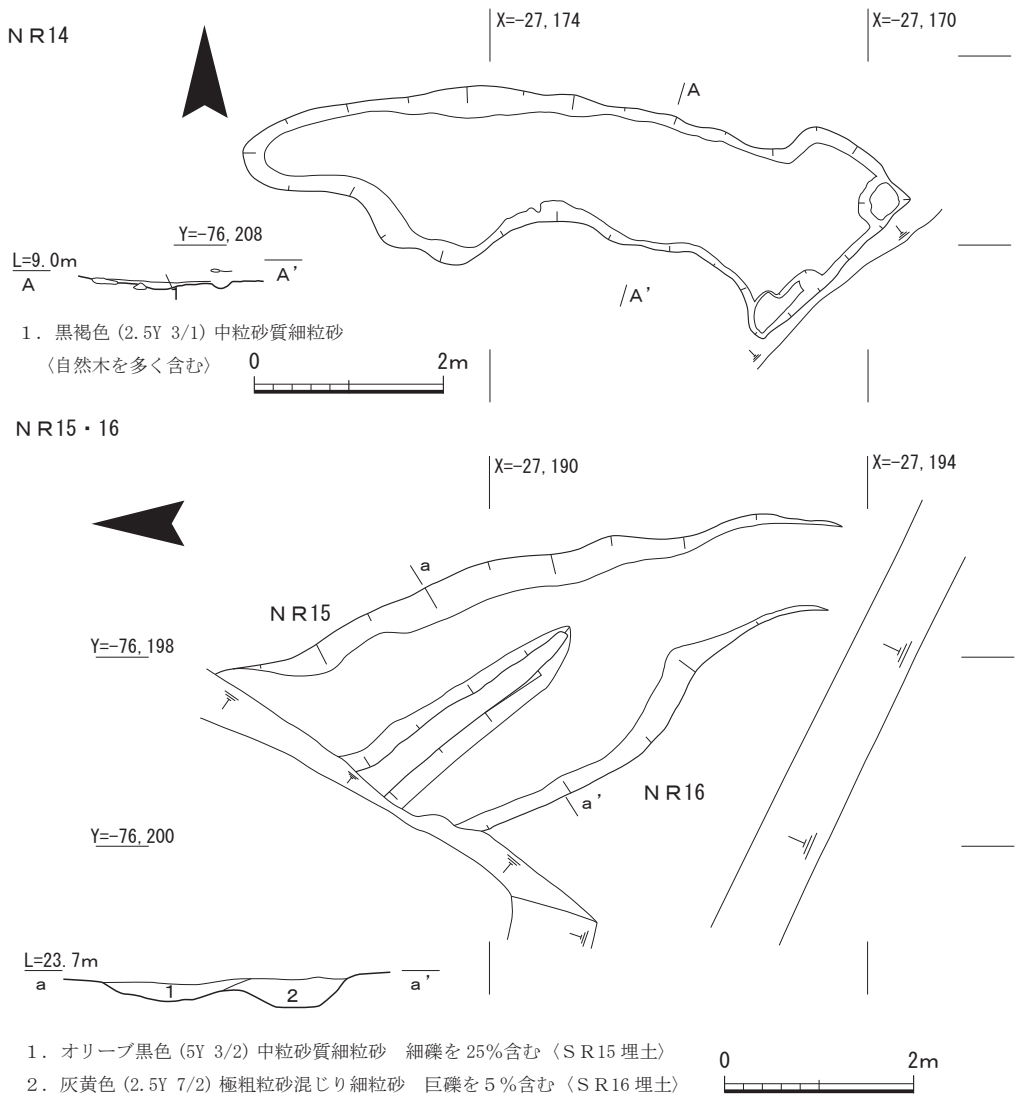
13層は南西から北西に流れる土石流堆積層である。主たる堆積物は細礫～大礫を多量に含む粗粒砂～中粒砂である。14～16層は南西から北東に向かって流れる土石流堆積層である。主たる堆積物は中礫から大礫をやや多く含む粗粒砂から中粒砂である。22層は南東から北東に向かって流れる谷堆積層である。堆積物は、粗粒砂質中粒砂で縄文時代前期～古墳時代後期までの遺物が出土する包含層である。23層は南東から北西に向かって流れる土石流堆積層である。堆積物は、礫を



第13図　第７次調査下層遺構平面図（1/500）

少量含む中粒砂質細粒砂で古墳時代中期の遺物を包含している。24～26層は南西から北東に向かって流れる谷堆積層である。主たる堆積物は粗粒砂～中粒砂である。北側は、12層に切られて消失する。27～29層は南東から北西に向かって流れる谷および土石流堆積物である。30層は遺物が出土しなかったが、自然科学分析の結果、縄文時代中期の年代を示す植物種子が出土した（付表８参照）。31層は南西から北東に向かって堆積する土石流堆積層である。北側では上層の下刻作用で消失する。34～36層は北西から南東に流れる土石流堆積層である。主たる堆積物は中礫～大礫を多量に含む粗粒砂～中粒砂である。31は基盤層である。

掘立柱建物ＳＢ１（第12図）　u25～w1地区で検出した南北３間（4.3m）・東西１間（2.6m）の掘立柱建物である。柱穴ＳＰ２・５・７・９・13・19で構成され、そのうち柱穴ＳＰ２・７・13で柱根が出土した。掘形の規模は径0.24～0.52mで、西側南北辺の平均柱間は1.44mを測る。北東隅の柱穴は確認できなかった。ＳＰ２埋土から漆器椀（第32図380）１点が出土した。残存した柱



第14図　第７次調査谷地形ＮＲ14・15・16平断面図(1/500)

穴ＳＰ２の柱根の自然科学分析(付表８参照)では、14世紀前半から15世紀前半頃の年代を示す。

掘立柱建物ＳＢ２（第12図）　ｘ1～ｘ2地区で検出した検出長3.8mの掘立柱建物の残欠である。柱穴ＳＰ６・20で構成され、両柱穴から柱根が出土した。柱穴ＳＰ６から東側は検出されないことから、柱穴は西側に延びると推測する。柱根は径0.18～0.21mを測り、底面側が平坦になるように面取りされる。

溝ＳＤ１（第12図）　t1～u1地区で検出した全長3.4m、最大幅0.4m、深さ0.06mの溝である。断面は浅い「U」字形を呈し、溝内埋土から遺物は出土しなかった。第12図７層の中世遺物包含層下から検出したため、中世以前に掘られた溝の可能性もある。

谷地形ＮＲ12（第10図）　w24～u25地区で検出した検出長8.4m、最大幅4.5m、深さ0.4mの谷底である。北側は上層の下刻作用により消失する。埋土から縄文時代後期末～晩期中葉の土器(第23～25図247～249)が出土した。

谷地形ＮＲ14（第14図）　s2～t3地区で検出した検出長6.6m、最大幅2.1m、深さ0.1mの谷底で

ある。上面は近現代の攪乱のため消失する。流路内からは自然木と縄文時代晩期中葉～末（第25図250～257）の土器が出土した。

谷地形ＮＲ15（第14図）　w25・x25地区で検出した検出長6.6m、最大幅1.8m、深さ0.2mの南西から北東へ向かって流れる谷底面である。北側は上層の下刻作用により消失する。

谷流路ＮＲ16（第14図）　w25・x25地区で検出した検出長2.8m、最大幅1.3m、深さ0.3mの南西から北東へ向かって流れる自然流路である。調査区東側はNR15に切られ、北側はNR15同様上層の下刻作用により消失する。埋土からトチノミ等の種子が出土した。自然科学分析（付表８参照）の結果縄文時代中期頃と判明した。　（菅　博絵）

７．出 土 遺 物

１）縄文土器の分類

今回出土した土器の中では縄文土器が最も多く、ほかには弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、国産陶磁器などがある。出土遺物の大半は第６・７図20・21層から出土する。縄文土器は以下の群に分類して、底部及び帰属型式不明なものは個別で報告する。詳細は巻末の観察表に記載した。図中に拓本が１種類のものについては記載がない限り外面を掲載した。

１群　前期後半の北白川下層Ⅱc式～大歳山式。

２群　中期前半～後葉の鷹島式～里木Ⅱ式とそれに併行する土器群。

３群　中期末～後期前半の平式ないし北白川Ｃ式～北白川上層式の土器群。

４群　後期後半～後葉の元住吉山Ⅰ式～宮滝式とそれに併行する土器群。

５群　後期末～晩期中葉の滋賀里Ⅰ式～篠原式に併行する土器群。

６群　晩期後葉～末の突帯文土器とそれに併行する一群。一部弥生時代に下るものも含む。

なお、５群の器種は、深鉢、浅鉢、注口土器、壺に大別し、深鉢のみ以下のように細分して報告する。

深鉢Ａ類…口縁部が緩く外反しながら立ち上がる器形。ほとんどが有文で滋賀里Ⅰ～Ⅱ式併行。

深鉢Ｂ類…２段に屈曲し、外反する頸部の上に内屈する口縁部がのるもの。頸部・胴部屈曲部には沈線を巡らせ、その下に斜刻を施す。波状口縁のものが多く、波頂部には単位文を付す。

深鉢Ｃ類…２段に屈曲し、外反する頸部の上に内湾する口縁部がのるもの。頸部に強いナデを施すものは滋賀里Ⅲa式期に位置付けられる。

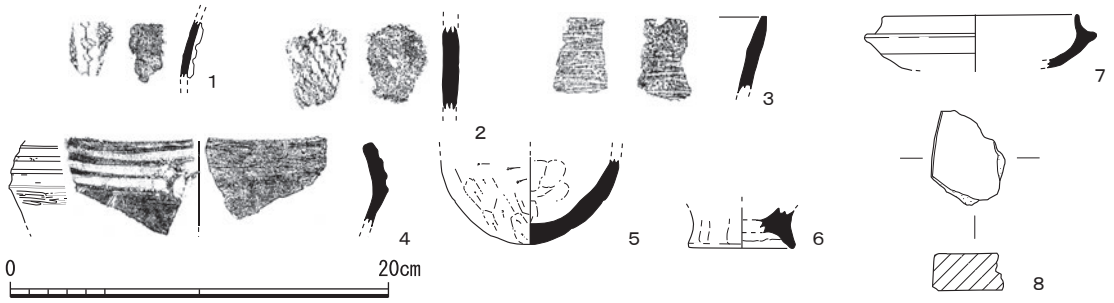
深鉢Ｄ類…１段屈曲で、外反する口縁部を有するもの。滋賀里Ⅰ式～篠原式までを含む。

深鉢Ｅ類…砲弾形のもの。外面に粘土紐接合痕を明瞭に残すものが目立つ。滋賀里Ⅰ式～篠原式までを含み、一部は宮滝式まで遡る可能性がある。　（菅　博絵・渡辺幸奈）

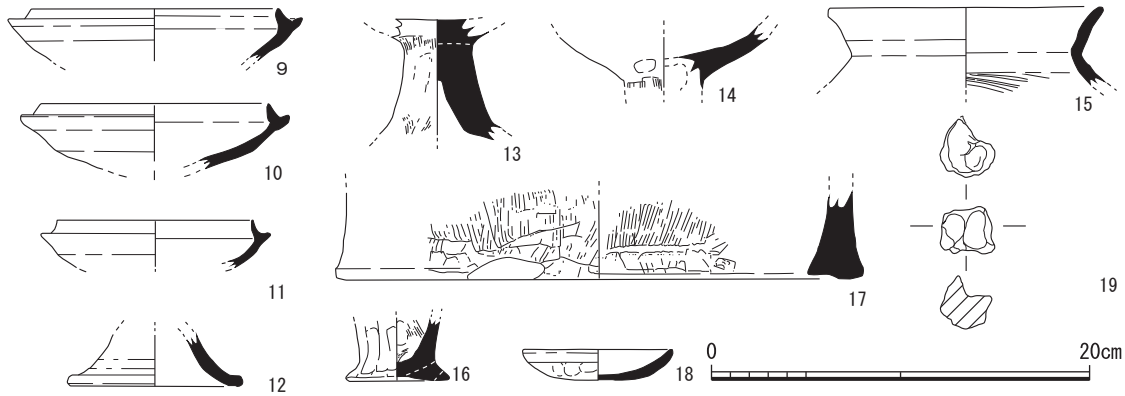
２）第４次調査出土遺物（第15図１～６）

１～５は縄文土器である。１・２は深鉢の胴部で、１は１群、２は２群に属する。４は深鉢の口縁部で４群に属する。５は深鉢底部で５群に属する。６は宇川型の製塩土器である。

３）第５次調査出土遺物（第15図７・８）



第15図　第４・５次調査出土遺物



第16図　第６次調査出土土製品１

７は須恵器の杯身である。田辺編年ＴＫ43型式併行期と考えられる。８は近現代の桟瓦である。そのほか縄文土器２点(図版28下)が出土した。

４）第６次調査出土遺物

（１）弥生時代以降の土器(第16図９～19)

９～11は須恵器杯身である。12は須恵器高杯の脚である。９・10はTK209型式併行期、11はＴＫ43併行期と考えられる。13・14は土師器高杯である。13は土師器高杯の脚部で、脚内面にはヘラ状の工具で成形したあと、ナデを施した痕跡が認められる。15は甕の口縁である。口縁端部内面はハケで成形後ヨコナデを施す。16はコップ形脚台付容器からなる宇川型の製塩土器である。外面はヘラ状工具により成形される。17は竈の底部である。18は土師皿である。皿Nで口縁外端面はやや内傾し、底部外面にユビオサエの跡が残ることから12世紀頃とみられる。19は不明土製品である。板状の粘土を折り、指圧して成形する。　（菅　博絵）

（２）縄文土器(第17～19図)

①１群(第17図20～41)

20～26は北白川下層式である。20は口縁部に縦位突帯を付し、21～24は口縁部を肥厚させ口唇部を刻む。25は頸部に特殊突帯文で鋸歯文を描く。26は直刻を施す。27・28・30～41は大歳山式である。36はΣ状押圧突帯と低平な突帯を巡らせる。29は斜刻突帯を矢羽根状に３条巡らせる。北白川下層Ⅱc式に遡る可能性がある。

②２群(第17図42～57)

42～48は鷹島式～船元Ⅱ式である。42は口縁部内面に44は口唇部と口縁部外面に爪形文を施し、

第17図　第６次調査出土土製品２

45は口縁部内面に縄文、外面に円形刺突と縄文を施す。49は口縁部に隆帯を格子状に貼付する。50は半截竹管による条線地に突帯を貼付する。ともに船元Ⅲ式である。51は口縁端部を内側に折り返す。外面には隆帯を区画し、その上に細線を垂下させる。北陸系の可能性がある。53・54は縄文地に半截竹管により曲線意匠を描く。55～57は特殊な縄文を施す胴部片である。56は薄手のため３群に下る可能性がある。

③３群（第17図58～67）

58は北白川Ｃ式の波状口縁深鉢波頂部の突起部である。59～65は太沈線で意匠を描く平式である。59～61は口縁部が内屈し、62は直線的に立ち上がる。66は胴部に、67は短く内屈する口縁部に磨消縄文を施す。縄文時代後期初頭に位置づけられる。

④４群（第17図68～78・第18図79～102）

68～78は元住吉山式である。68～72は元住吉山Ⅰ～Ⅱ式の注口土器である。弧線内に巻貝回転擬縄文を施す68・69と沈線と斜刻を施す70～72がある。74は元住吉山Ⅱ式の波状口縁深鉢の波頂部である。79～102は宮滝式である。75・76は内面に沈線と斜刻を施すが、刻みが粗雑で内外面に巻貝条痕を残す。79～85は内外面に、86～95は外面のみに凹線を巡らせる深鉢口縁部である。86～89は平縁、90～94は波縁の口縁部をもつ。94は単位文に刺突と垂下凹線を施し、北陸地方の井口式的である。98は巻貝扇状圧痕文の脇に巻貝殻頂刺突を施す。宮滝１式である。99～101は単位文として凹点を施す。

⑤５群（第18図103～125・第19図126～148）

深鉢Ａ類（第18図103～113・122～125）　108～110は平行沈線で弧線文を描く。111は平行沈線で山形文を描き、屈曲部に２個一対の凹点を施す。122～125は無文だが、口縁部内面に強いナデを施す。122は頸部がくびれ、口縁部は緩やかな波状を呈する。

深鉢Ｂ類（第18図114・115）　114は波頂部に逆Ｔ字状文を施す。

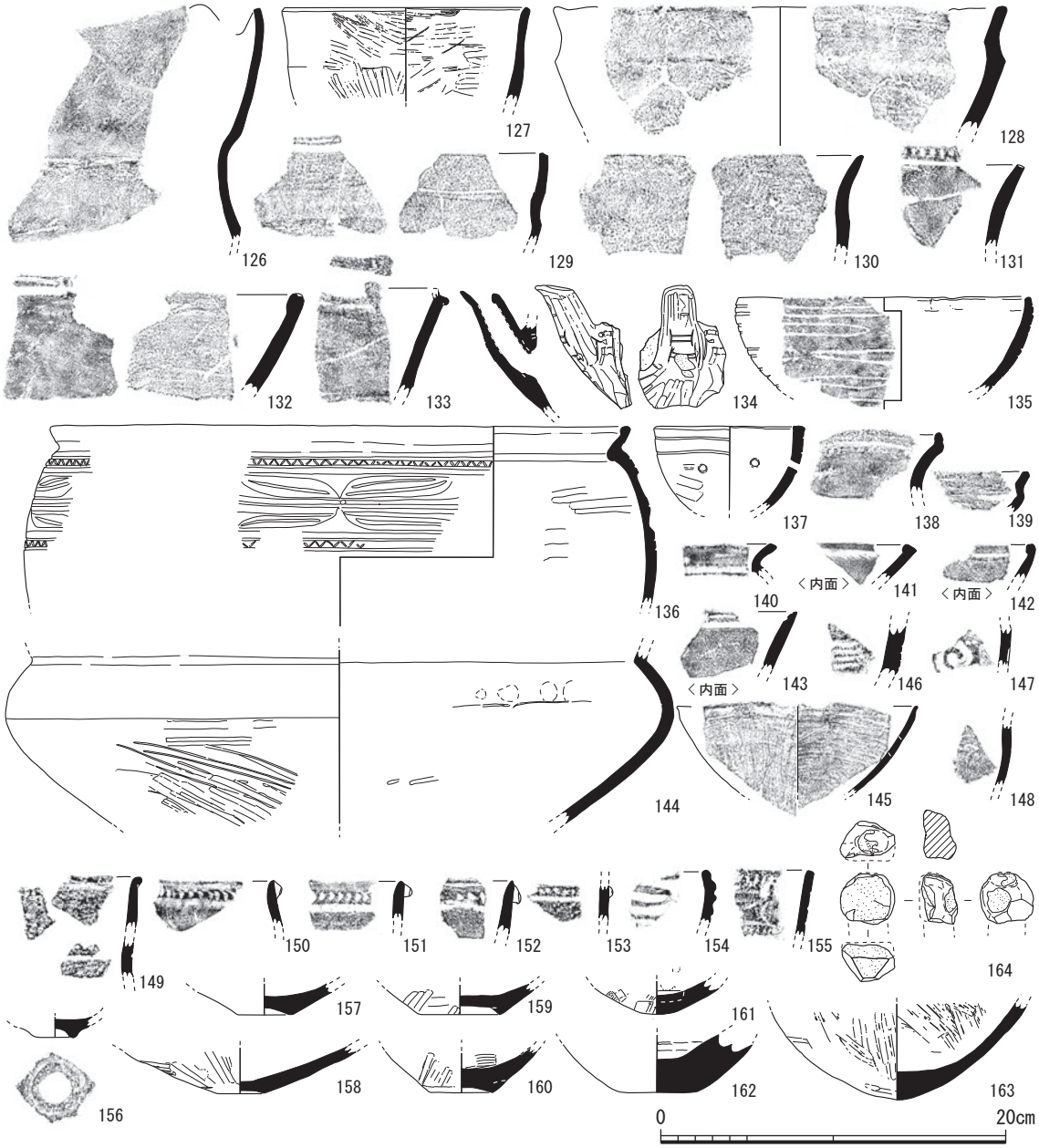
深鉢C類（第18図116・117・第19図126・129）　116は波頂部に逆Ｔ字状文を施す。ほかは無文とし、頸部内面に強い指凹線を施す。117は口唇部に棒状工具による刻みを施し、口縁部に沿うように２条の沈線で弧線文を描く。口縁部下端に４条の沈線を巡らせ、頸部に２本一組の短沈線を３条垂下させる。126は無文で波状口縁を持つ。129は頸部内面に沈線を巡らせる。

深鉢D類（第18図119・第19図127・128・130・131）　119は緩い波状口縁を持つ。縄文時代後期後葉～末頃に位置付けられる。127・128は巻貝条痕ののちにナデ調整をすることから滋賀里Ⅱ式と考えられる。132は口縁部と胴部にケズリ、頸部にナデを施すことから、篠原式に比定できる。131は口唇部に刻みを施し、篠原式中～新段階である。

深鉢E類（第18図120・121）　調整に巻貝を用いるため、縄文時代後期後葉～末頃と考えられる。

浅鉢・注口土器（第19図132～145）　132・133は幅広の口唇部に小突起を付し、八日市新保式の浅鉢に類似する。132は口唇部に１条の沈線を巡らす。134は注口部である。注口部の下側に両脇を短沈線で区切る２条の横走沈線を２組配す。注口部脇には巻貝殻頂刺突と鋭利な工具によるＴ字状文を施す。短沈線区切り及びＴ字文から八日市新保式の影響を受けているとみられる。135

第18図　第６次調査出土土製品３



第19図　第６次調査出土土製品４

～139は縄文時代晩期前葉の浅鉢。136は口縁部が外屈し胴部が張り、口縁端部が玉縁状に肥厚する。橿原文様を持ち、三角形刳刻文の間に浅い珠文を付す。文様帯上下の平行沈線間には、北陸地方に多い鋸歯文が巡る。135・137は椀形を呈し、粗雑な細沈線で文様を描く。138は短く立ち上がる口縁部外面に１条沈線を巡らせる。140～145は篠原式の浅鉢である。口縁部形態は、140は素縁で、141は玉縁状に肥厚し、142は口縁端部を肥厚させて内面を抉る。143は内面に２条の沈線を巡らす。器形は胴部が張り出す144とそのまま口縁部に至るの145がある。

東日本系土器（第18図118・第19図146～148）　118は口縁部が外反し内面に稜を持つ。波頂部に円文と刺突を付し、その下に末端を三叉状にする沈線と刺突列を巡らせる。146は外面に段を有し、段以下に細沈線を４条巡らせる。以上は八日市新保式に類似している。147は刺突列を巡らせ、それ以下に入組三叉文を描く。御経塚式ないし中屋式である。胎土に海面骨針を多く含み、能登

地域からの搬入品と考えられる。148は結節縄文を施し、亀ヶ岡系と考えられる。

⑥６群（第19図149～154）　149～151は長原式である。149は口縁端部を折り返して突帯を作出し、胴部に沈線を走らせる。152は垂れ下がり突帯を持つ水走タイプである。153は突帯上に小刺突を施す。北近畿及び若狭地域に特徴的な土器で、弥生時代前期に下る可能性もある。154は浮線により変形工字文風の意匠を施す。

その他（第19図155）　155は口縁端部に交互刺突状の文様を施すことから、縄文時代中期末の可能性もあるが、口縁部が直線的に立ち上がることから正確な時期については不明である。

底部（第20図156～163）　156は粗雑な高台付きの上げ底、157～160は凹底で縄文時代後期後葉～晩期初頭である。161・163は丸底、162は厚手の平底で縄文時代晩期中葉である。

（３）土製品（第19図164）

半球状を呈している。北陸系の土偶頭部の可能性がある。　（渡辺幸奈）

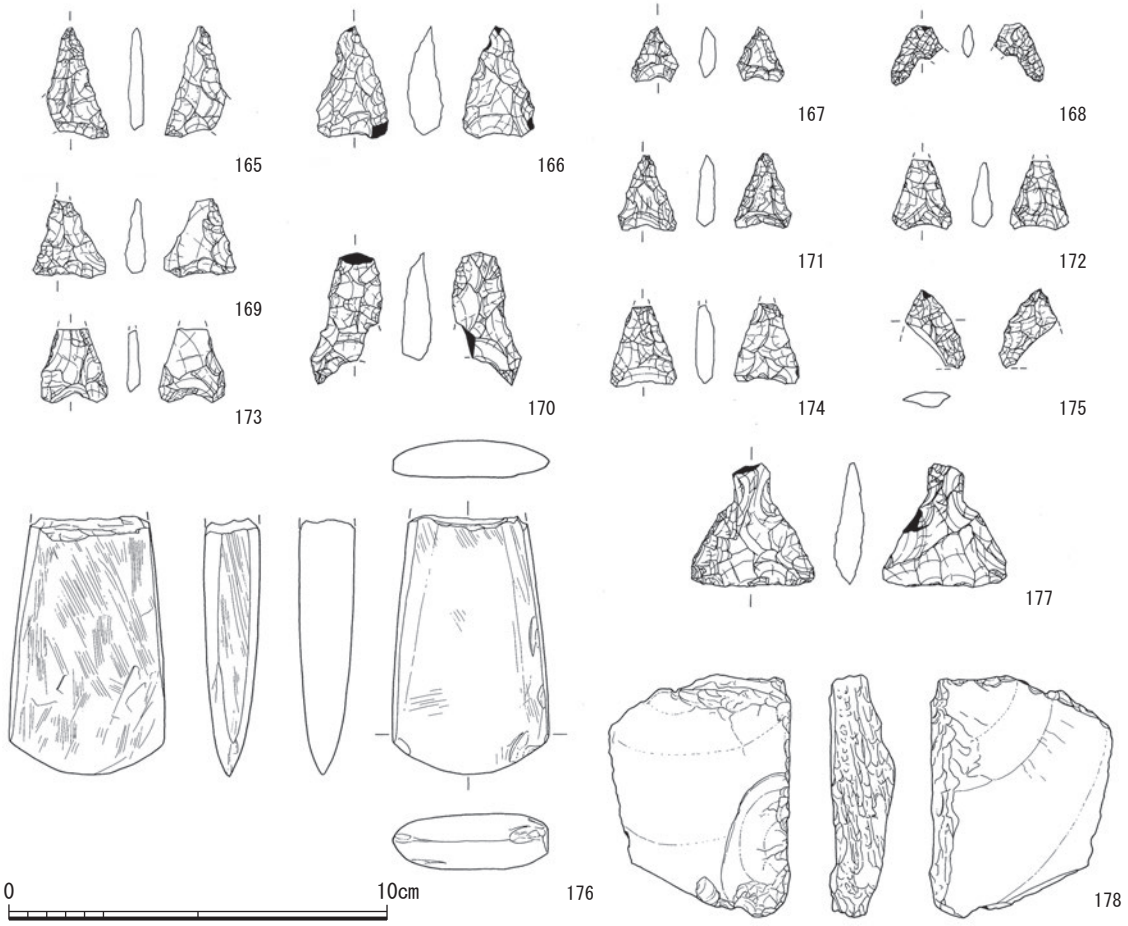
（４）石製品（第20図165～178・第21図179・180）

165～175は石鏃である。165・173・175は凝灰岩用いた石鏃である。165基部の抉りがやや浅く、欠損しているが凹基無茎と考えられる。最大長2.9cm、最大幅1.4cm、最大厚0.4cm、重さ1.0ｇを測る。173は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、片面に素材面をよく残す。最大長2.1cm、最大幅1.9cm、最大厚0.4cm、重さ1.0ｇを測る。175は基部が大きく欠損しているため、形状は不明である。最大長2.1cm、最大幅2.0cm、最大厚0.4cm、重さ0.6ｇを測る。166・167・170は二上山産サヌカイトを用いた石鏃である。166は厚みのある平基無茎の石鏃で、最大長3.0cm、最大幅1.9cm、最大厚1.0cm、重さ3.1ｇを測る。167は脚部が一部欠損している基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、最大長1.4cm、最大幅1.7cm、最大厚0.5cm、重さ0.3ｇを測る。170は脚部が張り出した凹基無茎の石鏃で、最大長2.1cm、最大幅1.9cm、最大厚0.4cm、重さ3.0ｇを測る。168はチャート製である。脚部および先端部が欠損した長脚鏃で、最大長1.6cm、最大幅1.1cm、最大厚0.3cm、重さ0.4ｇを測る。169・171・172・174は金山産サヌカイトを用いた石鏃である。169は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、最大長2.4cm、最大幅1.6cm、最大厚0.4cm、重さ1.1ｇを測る。171は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、片面に自然面が残存する。最大長2.0cm、最大幅1.6cm、最大厚0.4cm、重さ0.9ｇを測る。173は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、最大長1.8cm、最大幅1.5cm、最大厚0.6cm、重さ0.8ｇを測る。175は平基無茎の石鏃で、最大長2.1cm、最大幅1.6cm、最大厚0.5cm、重さ1.0ｇを測る。

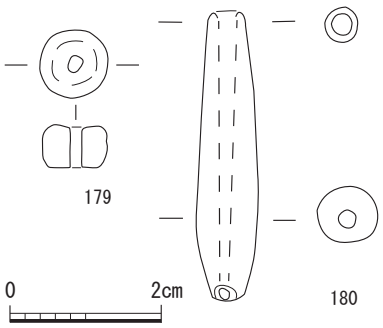
176は泥質頁岩を用いた磨製石斧である。基部が欠損しているため形状は不明である。残存長6.7cm、最大幅4.2cm、最大厚1.5cm、重さ67.9gを測る。

177は二上山産サヌカイトを用いた平面形態が三角形を呈するつまみのある石匙である。最大長3.2cm、最大幅3.4cm、最大厚0.8cm、重さ5.7ｇを測る。形態の特徴から、縄文時代前期に帰属すると考えられる。

178は自然面が多く残存する二上山産サヌカイトの剝片である。最大長6.4cm、最大幅4.8cm、最大厚1.8cm、重さ49.8ｇを測る。



第20図　第６次調査出土石製品



第21図　第６次調査出土玉類

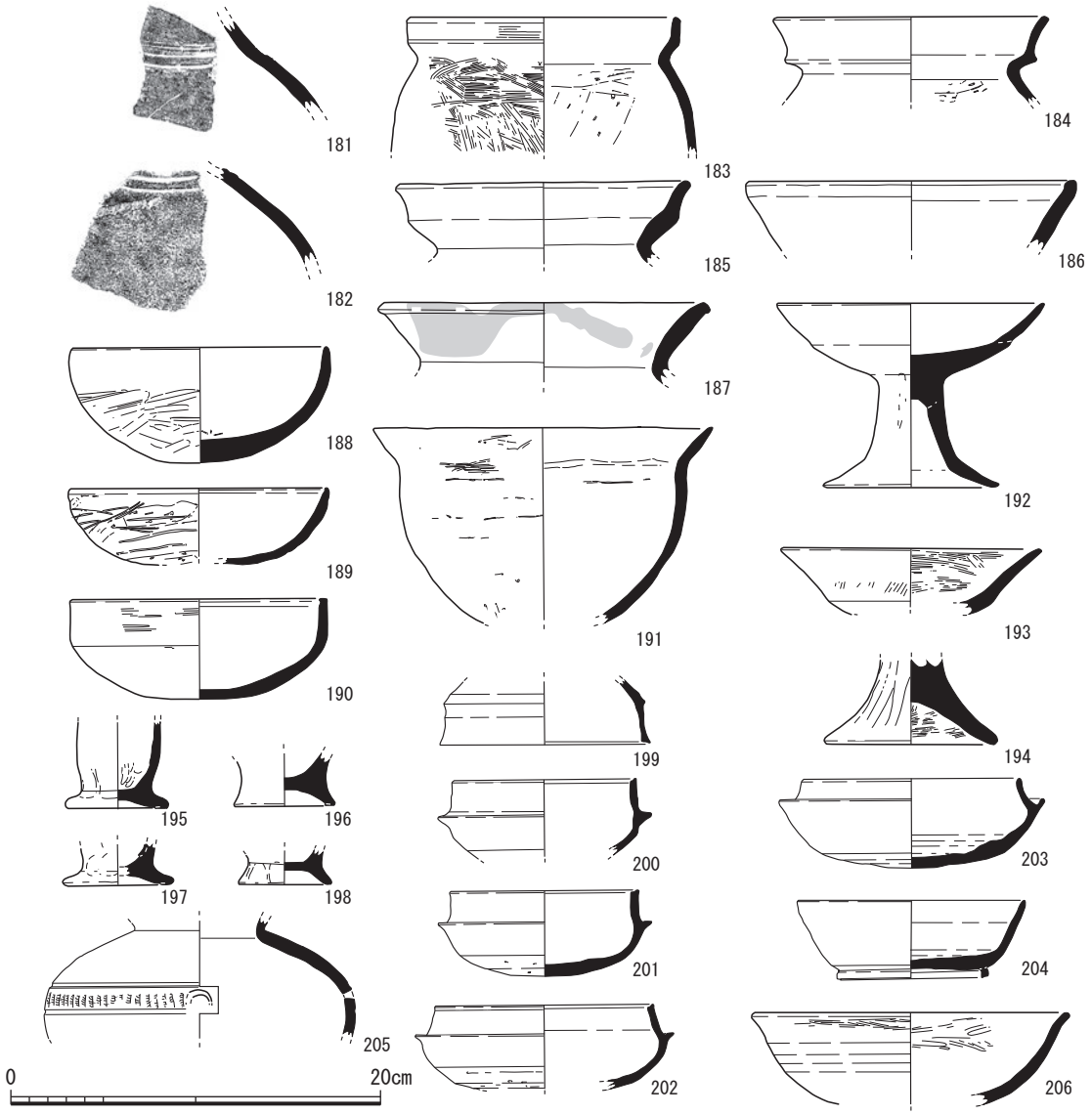
179は蛇紋岩製の小玉である。径0.9cm、厚さ0.5cm、重さ0.8ｇを測る。179より一回り小さく表面が一部剝離する蛇紋岩製の小玉がもう１点出土している（図版23掲載）。径0.7cm、厚さ0.3cm、重さ0.3ｇを測る。180は、長さ3.9cm、最大径0.8cm、重さ3.5ｇを測るクロム白雲母製の管玉である。孔径は0.2～0.3㎝を測り、孔内には両面から穿孔した痕跡が観察できない。（面　将道）

５）第７次調査出土遺物

（１）弥生時代以降の土器（第22図181～204）

181～183は弥生土器である。181・182は遠賀川式の壺で、181は削り出しの段の上から３条の沈線を施し、182は、削り出し突帯１条を付す。ともに前期中段階に位置づけられる。183は壺である。弥生時代末期から古墳時代初頭頃と考えられる。

184～194は土師器である。184～187は土師器甕の口縁である。184は土師器の山陰系の二重口縁壺で古墳時代初頭頃と考えられる。186は口縁端部が肥厚する布留式土器である。古墳時代中期中頃と考えられる。187の口縁部内外面には煤が付着する。188～190は土師器の椀である。189・190は内外面、188は外面に丹が塗られる。古墳時代中期後半頃と考えられる。191は土師器



第22図　第７次調査出土土製品１

の鉢または台付鉢である。胴部に２cm程度の粘土紐痕が見られる。古墳時代初頭頃と考えられる。192～194は土師器の高杯である。192は脚部内面も丁寧にナデを施す。193は高杯の杯部である。杯底部に薄く粘土を貼り付けた痕が見られる。194は脚部である。幅約５mm程度に面取りし、裾部はナデて成形する。外面に丹が塗られる。195～198は宇川型の製塩土器である。195・198は２mm程度のヘラ状工具でナデを施す。195～197は底部の裾部を内側に折り曲げて成形する。

199～205は須恵器である。199は杯蓋である。田辺編年ＴＫ23・47併行期と考えられる。200～203は杯身である。田辺編年ＴＫ23・47併行期と考えられる。203は外面に自然釉が付着する。田辺編年ＴＫ15併行期と考えられる。204は杯Ｂである。底部外面に幅５mm程度の３条の沈線が見られる。８世紀半ば頃と考えられる。205は大型の瑳である。外面に自然釉が付着する。田辺編年ＴＫ23・47併行期と考えられる。

206は黒色土器である。12世紀前半頃と考えられる。　（菅　博絵）

（２）**縄文土器**（第23～30図）

挿図では遺構と包含層に分けて提示したが、群ごとに報告する。

①**１群**（第29図291～294）

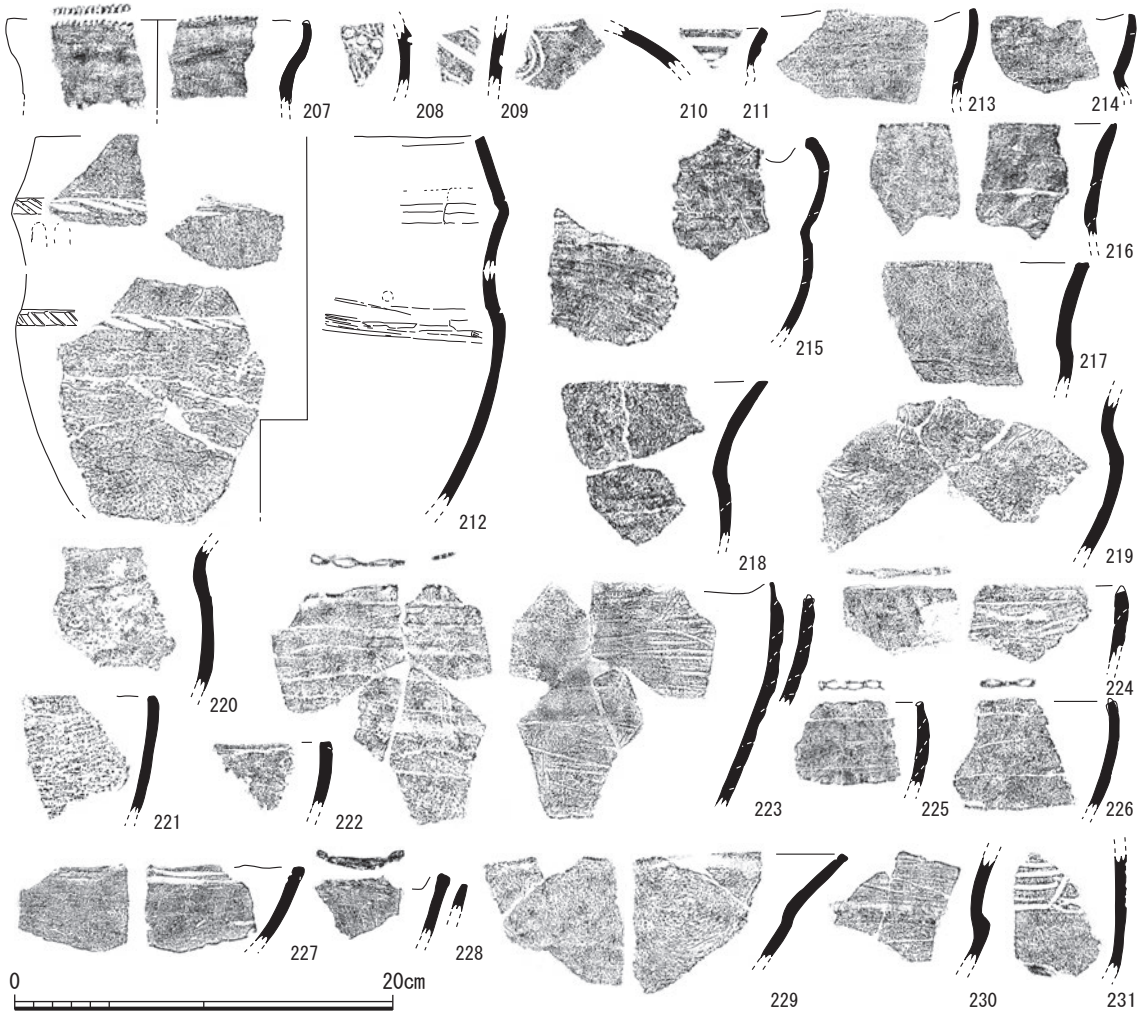
すべて大歳山式である。291は口縁部内面を肥厚させ、口唇部を刻む。293・294は底面側面を抉り、底面を花弁状にする。

②**２群**（第23図207・208・第29図295～301）

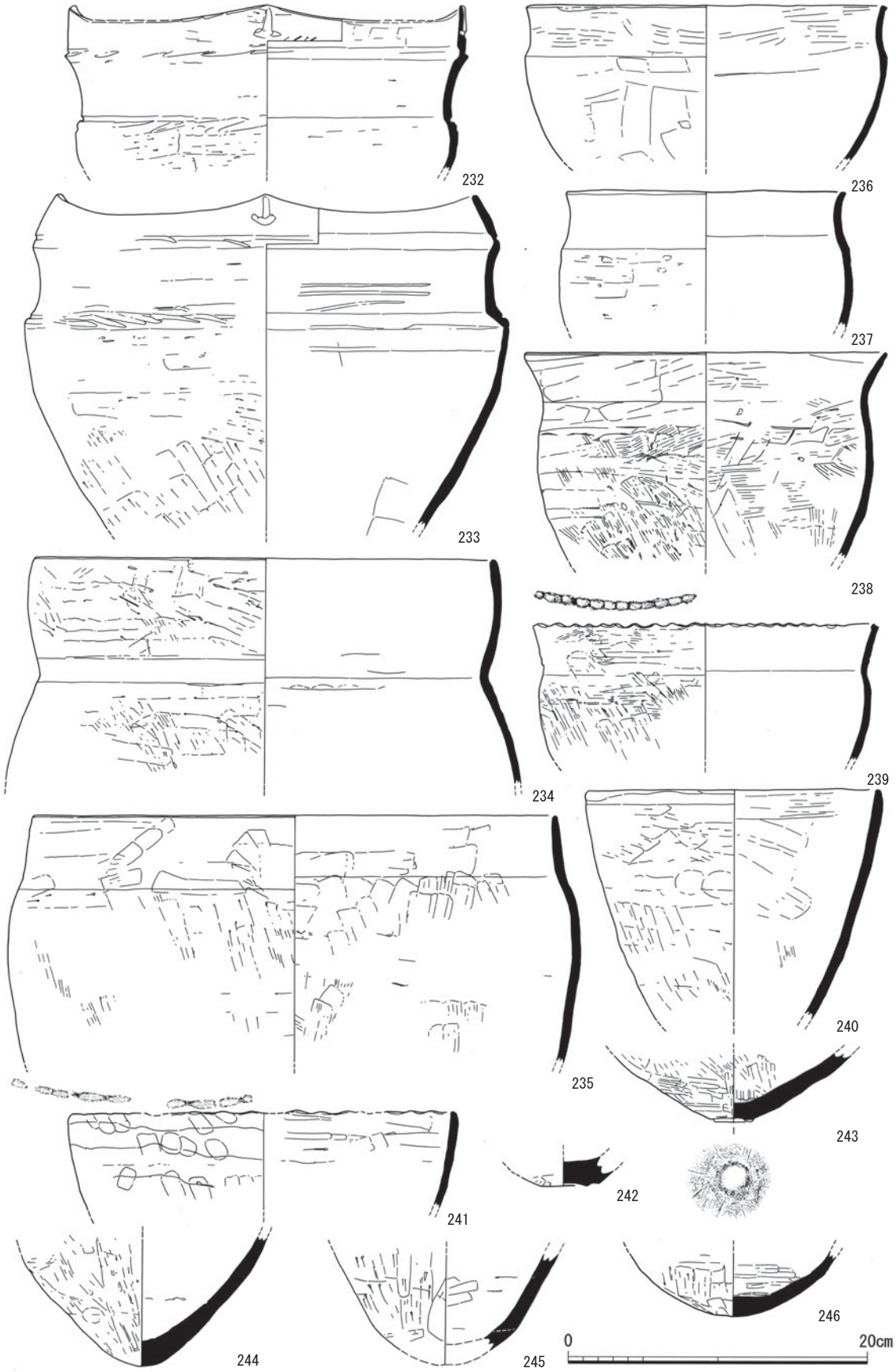
207は平縁で緩く内湾する口縁を持ち、口唇部を刻む小型キャリパー形の深鉢である。器形から２群にしたが、正確な時期については不明である。208は縄文地に円形刺突隆帯を貼付する。船元Ⅰ～Ⅱ式である。295は条線地に突帯を貼付する。船元Ⅲ式である。296・297は縄文地の胴部で、297は押引刺文を施す。船元Ⅱ式～里木Ⅱ式である。298～301は口唇部に縄文を施し、口縁部外面に渦巻き隆帯を貼付する。加曾利Ｅ３式の影響を受けたものである。

③**３群**（第23図209・210・第29図302～307）

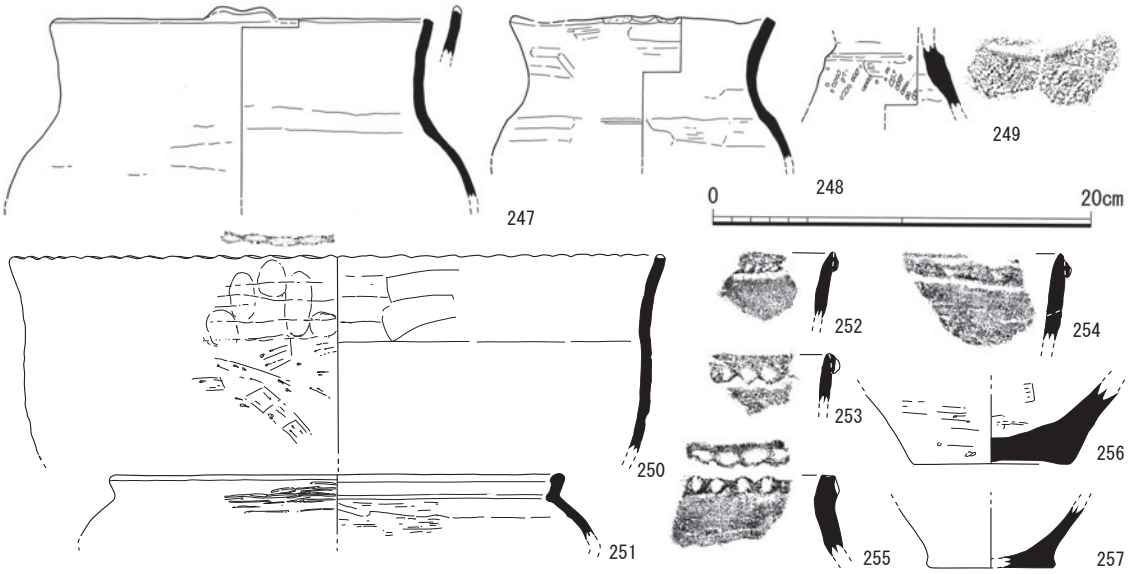
209・302・303は平式である。302は口唇部に縄文を施し、外面に太沈線を巡らせる。304は磨消縄文を施す。縄文時代後期初頭である。305・306は縄文地に沈線で曲線の意匠を施す。307は



第23図　第７次調査出土土製品２（第６図23層出土）



第24図　第７次調査出土土製品３（第６図23層出土）



第25図　第７調査出土土製品４（第６図23層出土：247～249、ＮＲ14出土：250～257）

６条の太沈線を垂下させる。これらは縄文時代後期前半頃の可能性がある。210は沈線で円文を描く。正確な時期および器種は不明である。

④４群（第23図211・第29図308～310）

308は口縁部内面に凹線を巡らせ、その上に斜刻を施す。309は内屈口縁で外面に４条の凹線を、211・310は外反口縁で口縁部に２条の凹線を巡らせる。

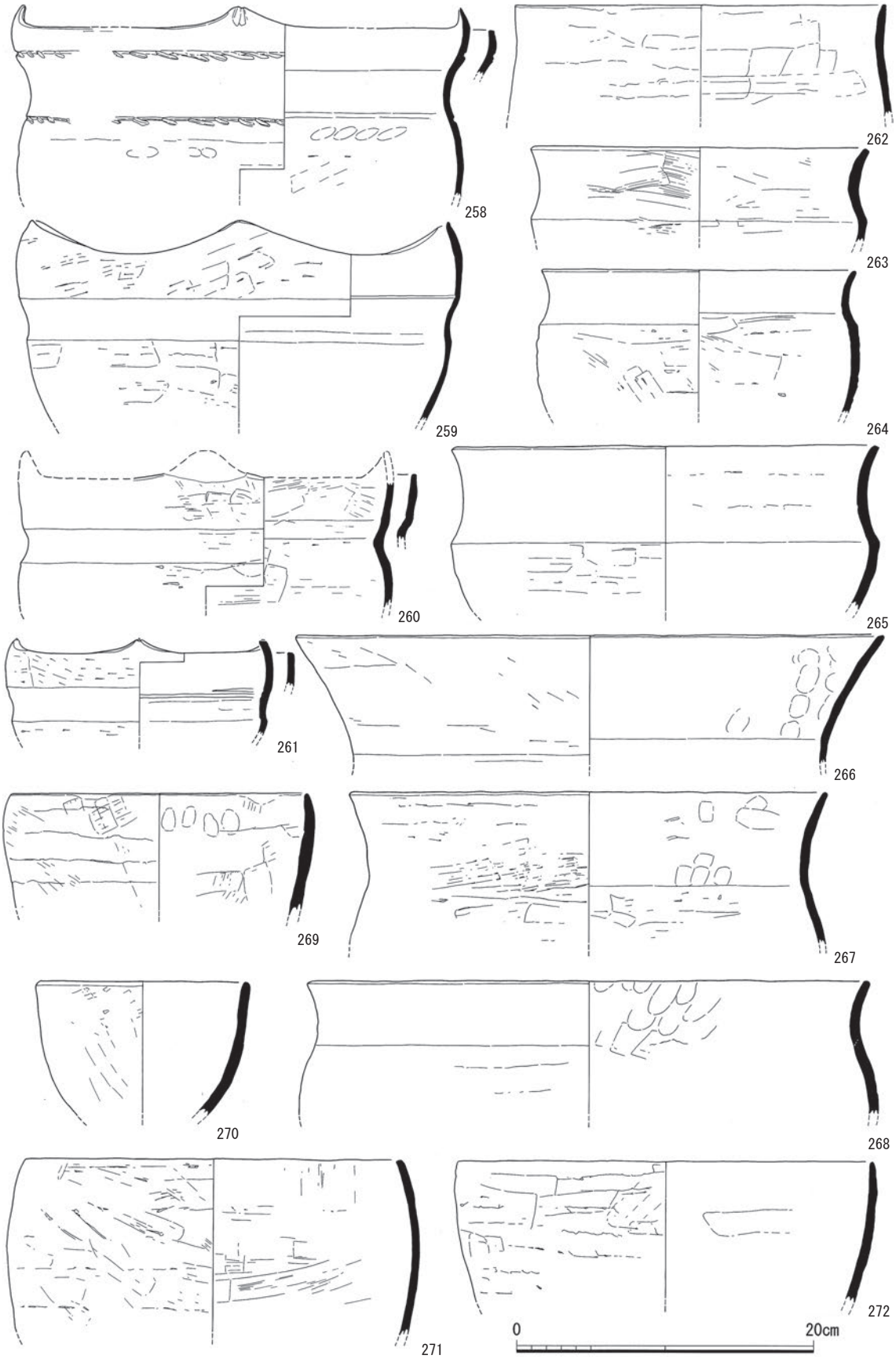
⑤５群（第23図212～231・第24図232～241・第25図247～251・第26図258～272・第27図273～277・第28図284～290・第29図311～365）

深鉢Ａ類（第29図311～326）　311は口縁部外面に１条、内面に２条の凹線を口縁部に沿って巡らせる。波頂部内面と胴部外面の波頂部からやや右にずれた位置に巻貝殻頂刺突を施す。312はV字単位文を施す。これらは滋賀里Ⅰ式である。316～318は波状口縁を呈し、口縁部に２条、頸部に３条の沈線を巡らせ、２個一対の縦長凹点を施す。319～321は５条沈線により弧線文を描き、４条沈線を垂下させる。結節部に２個一対の凹点を施す。323・324は平行沈線により菱形文を描き、結節部に凹点を施す。326は２条の平行沈線を巡らせ、２個一対の小さい凹点を施す。315は胎土がやや白色で、北陸地方からの搬入品の可能性がある。

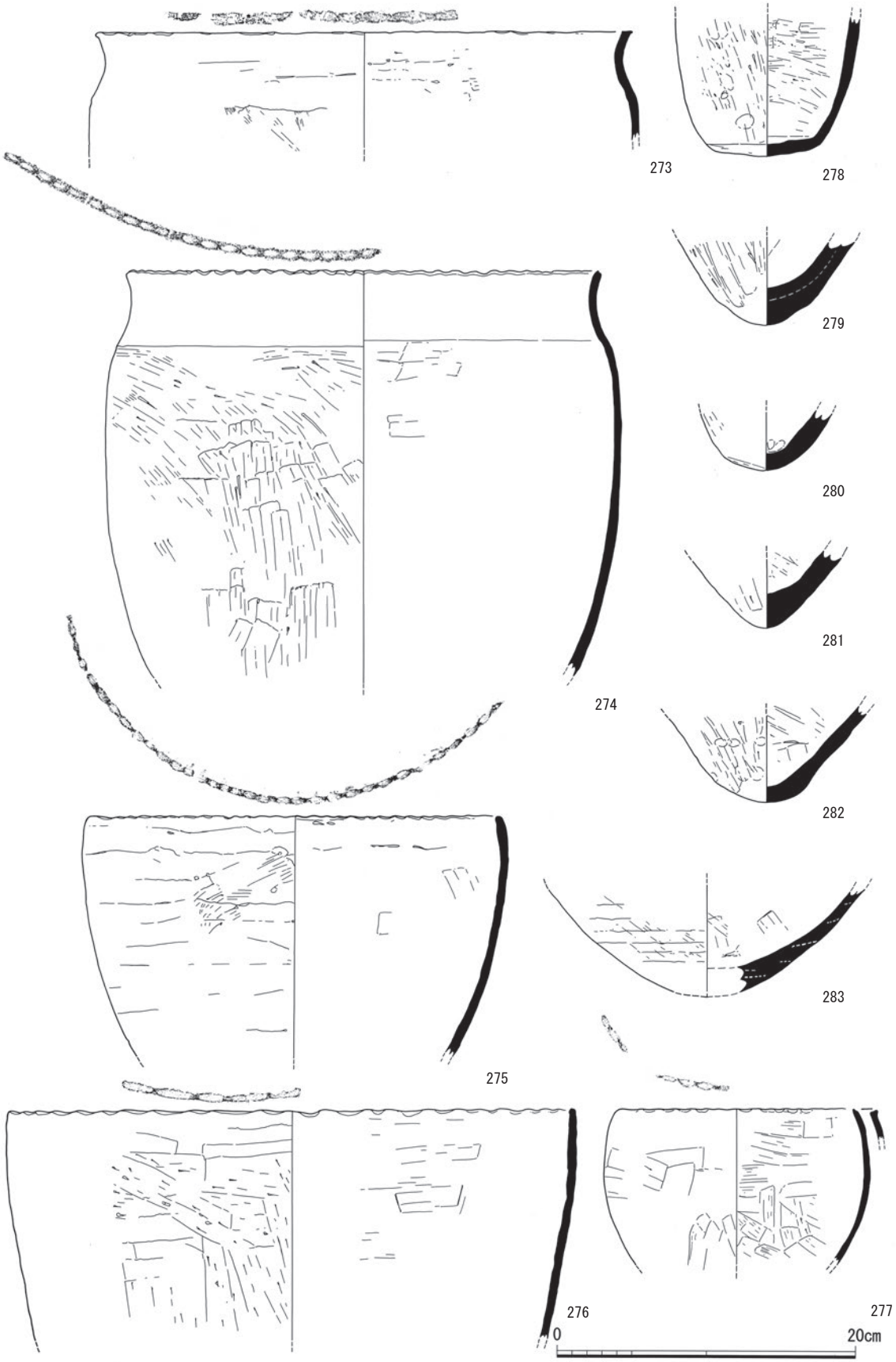
深鉢Ｂ類（第23図212・第24図232・233・第26図258・第29図327～330）　232・233・328～330は波頂部に逆Ｔ字状文を施す。 258は口唇部を丸くおさめ、口縁部を内湾気味にし、波頂部には逆Ｖ字状文を施す。

深鉢C類（第23図213～215・第24図234・第26図259～261・第29図331～333）　234を除き波状口縁である。213は波頂部が台形状を呈する。215・261は先が尖る。259は頸部内面に沈線を１条巡らせる。214・215・234・259～261は頸部に強いナデを施し、滋賀里Ⅲa式併行と考えられる。

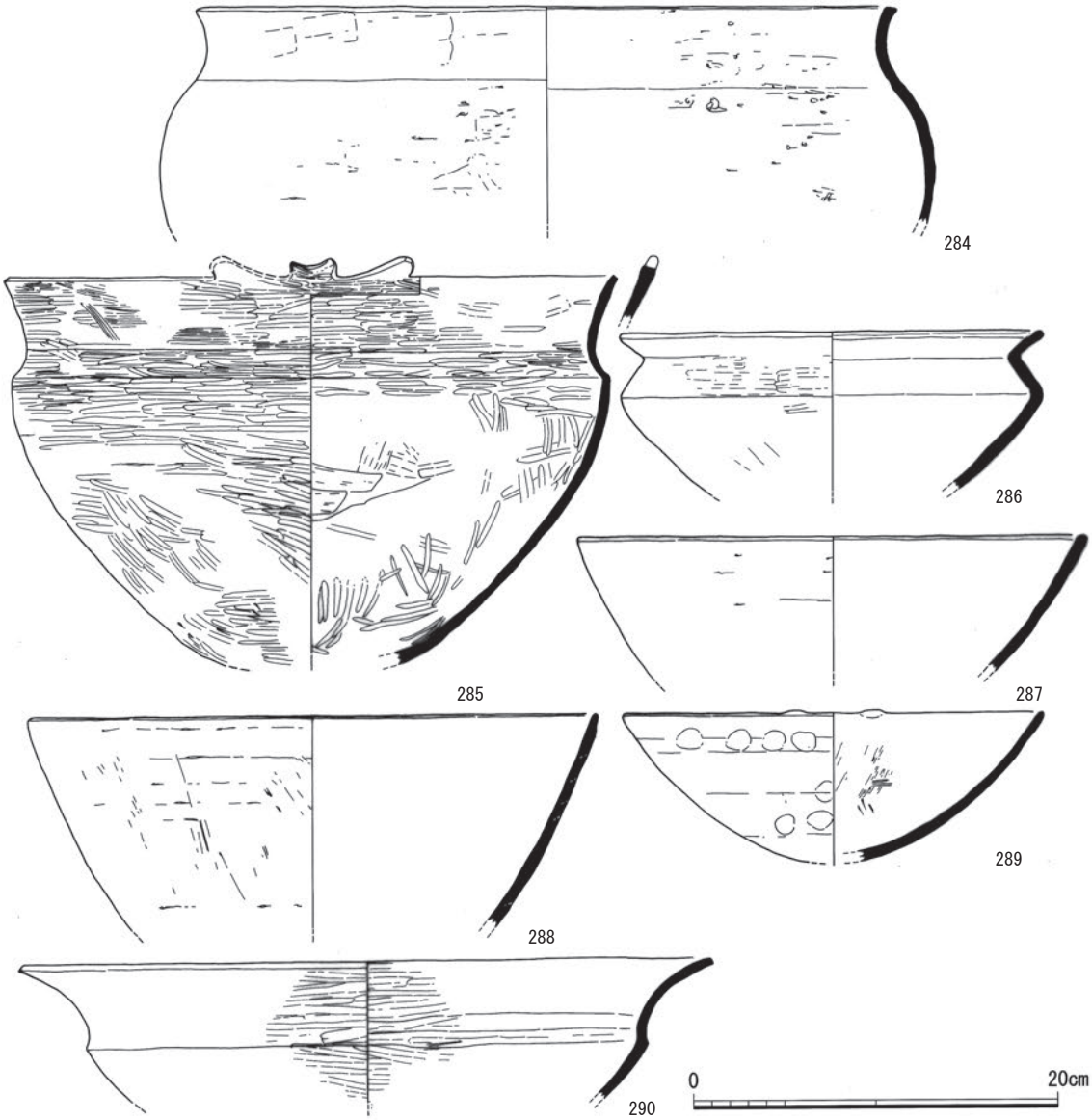
深鉢D類（第23図216～220・第24図235～239・第25図250・第26図262～268・第27図273・274・第28図284・第29図334～337・341）　217・237・263～265は外面に稜を残す。262は屈曲が緩く、



第26図　第７次調査出土土製品５（第６図21層出土）



第27図　第７次調査出土土製品６（第６図21層出土）



第28図　第７次調査出土土製品７（第６図21層出土）

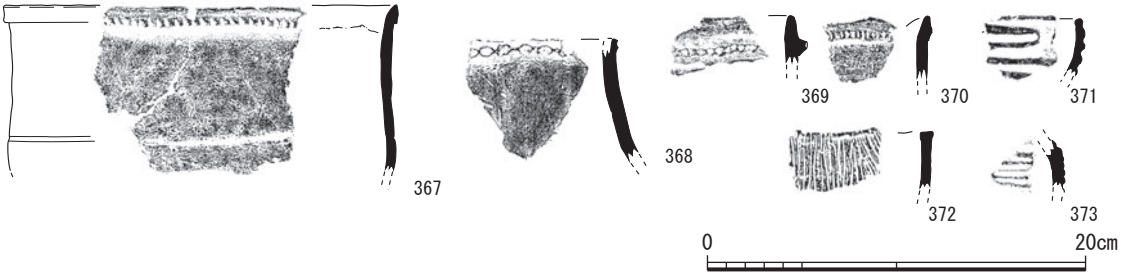
284は胴部が強く張る。235・236は滋賀里Ⅱ式併行と考えられる。235は内傾気味である。236は外面に巻貝条痕調整を残す。267は頸部に斜位方向の強い板ナデを、266は強い指ナデを施し、滋賀里Ⅲa式併行と考えられる。238・239・250・273・274・335～337は口唇部を刻み、篠原式中～新段階平行である。341は頸部に刺突列を施す篠原式新段階平行である。

深鉢E類（第23図221～226・第24図240・241・第26図269～272・第27図275～277・第29図338～340）　223は粘土紐が細く、口縁端部が極端に薄い。338は胴部外面に特に粗いケズリを施す。339は口唇部を刻み、口縁部内面に粘土瘤を貼付する。粘土瘤頂部で刻みが一番深くなる。

壺（第25図247～249）　247・248は口縁部に二山状の突起を付す。篠原式である。249は１条の指凹線を巡らせ、その下段に縄文を施す。東日本系の可能性がある。

浅鉢（第23図227～230・第25図251・第27図285～290・第29図342～352・356・357）　342～345

第29図　第７次調査出土土製品８（第６図21層出土）



第30図　第７次調査出土土製品９（第６図21層）

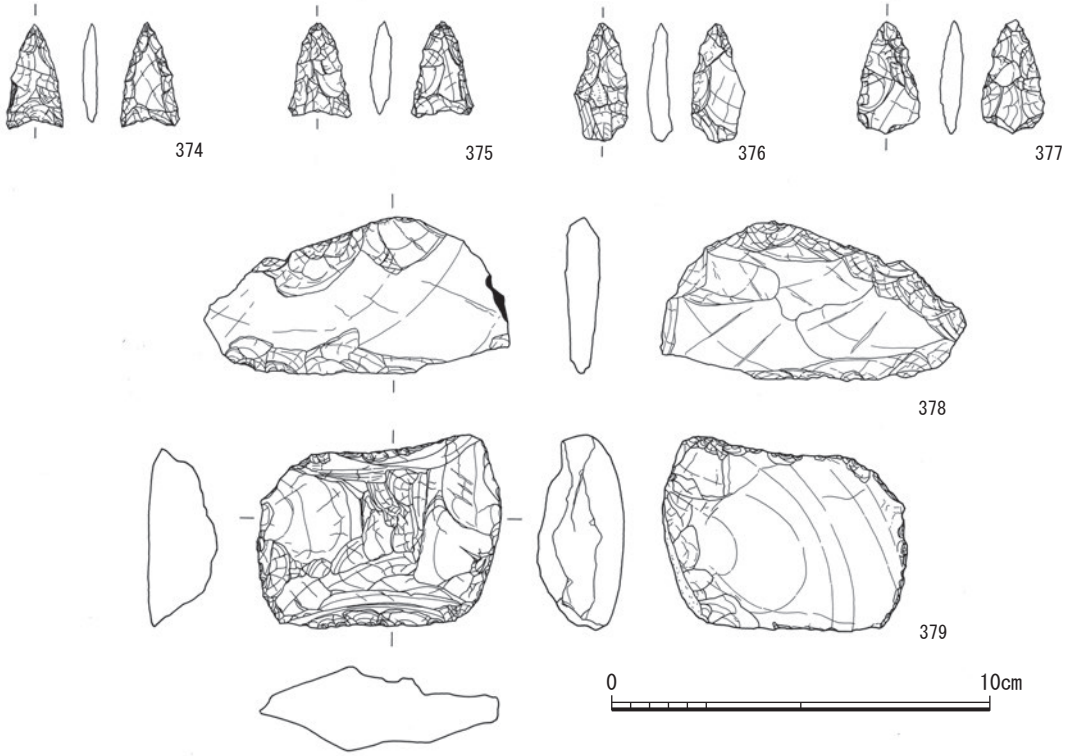
は縄文時代晩期前～中葉に位置付けられる。342・343は椀形を呈し、外面に粗雑な沈線で文様を描く。344は橿原文様を持つ。345は口縁部が肥厚し短く立ち上がり、外面に１条沈線を巡らせる。227・228・287～289・346～349はやや内湾して口縁部に至る。外面に粘土紐接合痕を残すものが多い。227は口縁部が緩やかな波状を呈し、内面に沈線を２条巡らせる。228は口縁部に上面が幅広で平らな突起を付す。289は口縁部に小突起を付す。２個一対になる可能性がある。346は山形突起、348は先が尖った突起、349は二瘤状突起を有する。229・230・285・290・350～352は口縁部が長く外反する器形で、229は口縁端部をやや肥厚させ、その下を抉る。350・351は口縁部を肥厚させずに段状に抉る。352は内面に沈線を巡らせる。290は素縁で篠原式古～中段階であろう。285は口縁部にリボン状突起を付す。篠原式新段階である。 286は屈曲する胴部に外屈する口縁をのせ、内面に抉り状沈線を巡らせ、篠原式中段階である。251は胴部が張る器形で口縁部を玉縁状に肥厚する。篠原式新段階である。357は胴屈曲部外面に中央が凹む横長楕円形突起を持つ。

東日本系土器（第24図231・第29図353～355・358～365）　231は平行沈線を巡らせ、ハ字状沈線で区切る。八日市新保式に類似する。353～355・359～365は亀ヶ岡系である。 353～355は口縁端部に２個一対の突起を持つ。359・360は胴部に入組三叉文を描く。大洞Ｂ式である。362は羊歯状文を描く。大洞BC式である。364・365は結節縄文を施す。358は破片上部に沈線と列点を巡らせ、以下に粘土紐接合痕を残す。中屋式に類似している。

⑥６群（第25図252～255・第29図366・367・第30図367～373）　252～254・367・368・370は長原式である。255は口縁部に刻目突帯を巡らせ、その上に指押圧を加える。弥生時代に下る可能性がある。367は口縁部に突帯、胴部に沈線を巡らせる。369は口縁端部の少し下に突帯を巡らせる船橋式である。370は口縁部が波状を呈し、口縁端部に突帯を巡らせる。371は浮線により変形工字文風の文様を描き、大洞A'式に類似する。372は口唇部を幅広く面取りし、口縁部外面に鋭利な工具による多条沈線を垂下させる。北陸系の可能性がある。373は外面に段を作り、沈線を多条に巡らせる。北陸地方でみられる大洞Ａ式に類似する。

⑦底部（第24図242～246・第25図256・257・第27図278～283・第29図366）

256は浅い凹底、257は平底で縄文時代中期末葉～後期前半頃に位置づけられる。242は凹底、243は矮小な上げ底、244～246･279～283は厚手の丸底、278は薄手の丸底、366は高台付の平底で、縄文時代後期末～晩期中葉に位置付けられる。　（渡辺幸奈）



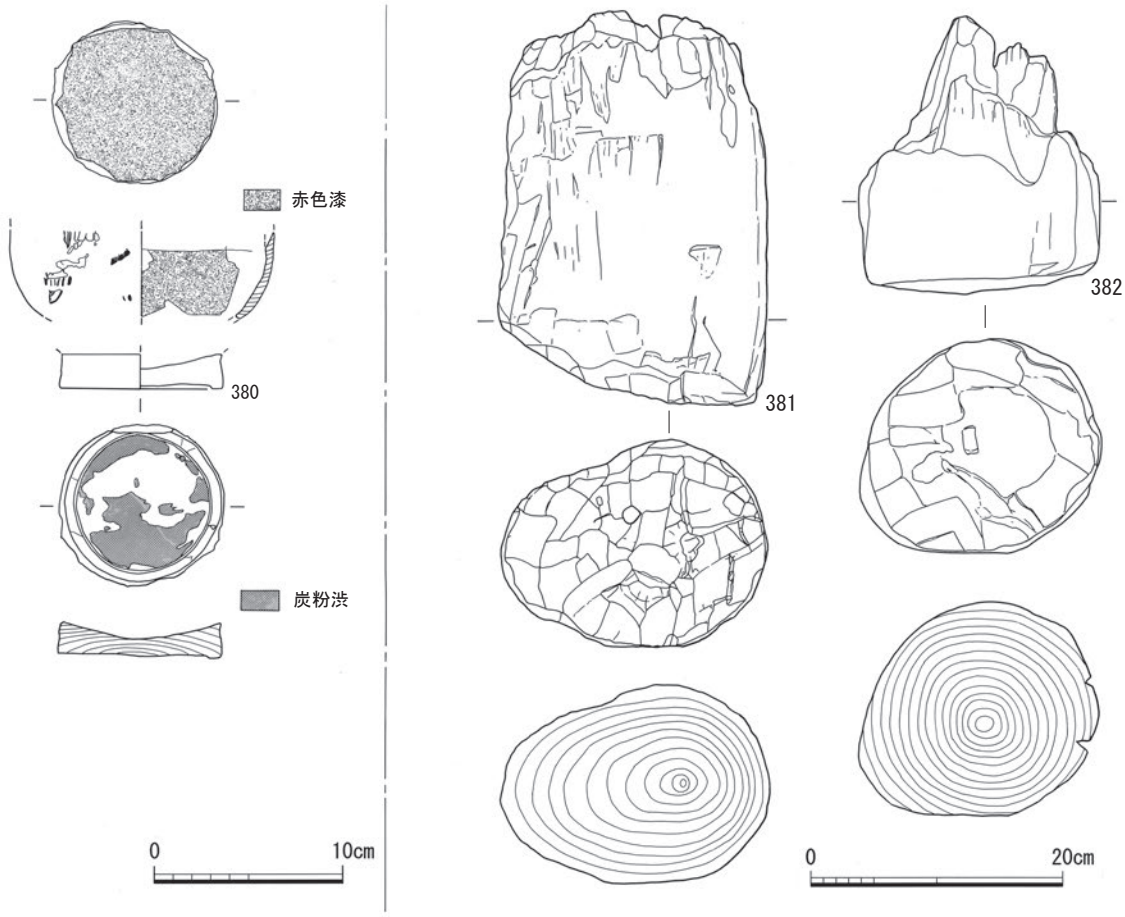
第31図　第７次調査出土石製品

（３）石製品（第32図374～379）

374～377は石鏃である。374・375・377は金山産サヌカイトを用いた石鏃である。374は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃で、最大長2.9cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重さ1.3ｇを測る。375は基部の抉りが浅い凹基無茎の石鏃、最大長2.5cm、最大幅1.6cm、最大厚0.5cm、重さ1.4ｇを測る。377は尖基の石鏃で、最大長3.0cm、最大幅1.6cm、最大厚0.6cm、重さ2.0ｇを測る。376は凝灰岩を用いた、平基無茎の石鏃で、両面の側縁加工が十分ではないため未成品の可能性がある。最大長3.2cm、最大幅1.4cm、最大厚0.6cm、重さ1.9ｇを測る。

378は金山産サヌカイトの剥片を素材とした石核である。上下の端部に対向する剥離痕が確認できるため、両極打法に関連する資料と考えられる。最大長4.2cm、最大幅8.6cm、最大厚0.8cm、重さ28.5ｇを測る。379は凝灰岩の円礫を素材とした石核である。器形の全周にツブレが観察でき、主要な剥離痕が対向することから、両極打法に関連すると考えられる。最大長6.3cm、最大幅4.7cm、最大厚1.7cm、重さ70.1ｇを測る。（面　将道）

木製品（第32図380～382）　380～382は掘立柱建物ＳＢ１を構成する柱穴内で検出した木製品である。380は柱穴ＳＰ２から出土した漆器椀である。内面は赤色漆が塗られ、外面は透明漆の上に赤色漆で絵が施される。381は掘立柱建物を構成する柱穴ＳＰ２から出土した柱根である。芯持材であり、底部に加工痕が残る。自然科学分析の結果（付表８参照）、14世紀前半から15世紀前半に伐採されたナシ亜科の柱根である。382はＳＰ17から出土した柱根である。芯持材であり、底部に加工痕が残る。（菅　博絵）



第32図　第７次調査出土木製品

８．自然科学分析

１）平遺跡第７次の骨分析

（１）はじめに

平遺跡は、宇川河口左岸の日本海に面した砂丘上に立地する。これまでの調査によって、縄文時代前期から中期、後期、晩期の遺構・遺物、古墳時代の石敷遺構や製塩土器等が検出されており、縄文時代から中世にかけての集落遺跡であることが明らかにされている。本分析調査では、出土した骨を対象として同定を実施する。また、砂丘とビーチから採取された砂粒を対象として、砂粒組成分析、粒度分析を実施し、両者の比較を実施する。

（２）試料

試料および分析項目一覧を付表２に示す。骨同定の対象試料は、Ｖ25区NR12（第６図23層）のNo.215・216の２試料である。No.215は、比較的大きな破片が７点みられる。No.216は微小な破片が多数含まれる。

（３）骨同定

①分析方法

一部の骨については、乾いた筆で骨に付着する土壌を可能な限り除去した後、試料を肉眼およ

付表２　試料および分析項目一覧

試料の質	試料番号・資料名	地区名	遺構・層位	年月日	土色	分析項目		
						骨同定	薄片鑑定	粒度分析
骨	215	V25	ＮＲ12(第６図23層)	2023.11.16	－	○		
骨	216	V25	ＮＲ12(第６図23層)	2023.11.16	－	○		
砂	砂丘	－	－	－	10YR7 /2　にぶい黄橙		○	○
砂	ビーチ	－	－	－	10YR6 /2　灰黄褐		○	○

注）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）

び実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

②結果

検出分類群一覧を付表２、結果を付表３ に示す。２試料から軟骨魚綱２種類(メジロザメ目?・エイ類)、硬骨魚綱３種類(ニシン科・アユ属・サケ属)、哺乳綱１種類(ニホンジカ?)が確認される。以下、試料別に記す。

＜No.215＞

ニホンジカ？　角の可能性がある破片が１点検出される。焼けている。現長34.08mmを測り、加工品の可能性もある。

獣類　部位不明破片が１点検出される。種類を判断できない。焼けている。

その他　礫５点である。

＜No.216＞

いずれも小型の破片で、大半は焼けている。

メジロザメ目？　尖った円錐状の歯が検出される。ただし、長さ５mm 程度と極めて小型であるため、断定できない。サメ類は、世界中の海洋に広く分布し、一部の種は汽水・淡水域にも進出し、食用、皮の加工品、歯の装飾品など様々な利用がある。

エイ類　椎骨が１点検出される。直径約2.5mmであり、小型の個体に由来するとみられる。エイ類は、海域に棲息するが一部淡水域にも侵入することがある。食用のほか、革や棘などが利用される。

ニシン科　腹椎が１点検出される。世界の海域に分布し、重要な水産資源(食用魚)で、ウルメイワシ、キビナゴ、マイワシ、サッパ、ニシン、コノシロなどが含まれる。

アユ属　尾椎が２点検出される。この他、アユ属の可能性がある尾椎破片が１点検出される。アユ属は、アユ、リュウキュウアユの２種が含まれるが、地理的分布を考えると、アユ(Plecoglossus altivelis)に由来すると考えられる。アユは川で生活し、川で産卵するが、仔稚魚期には海で生活する。

サケ属　椎骨の破片が４点検出される。サケをはじめとして、ニジマス、マスノスケ、サクラマス(ヤマメ)などが含まれる。一般的には川で産まれ海に下り、海で数年生活し、産まれた川に戻る母川回帰で、産卵後に死亡する。

大型魚類　種類を特定できないが椎骨の破片が検出される。

魚類　基底後頭骨の可能性がある破片・歯骨・歯・上咽頭骨・腹椎・椎骨が検出される。歯骨

は、ハゼ科の可能性もあるが破片のため特定できない。歯は、ベラ科の咽頭歯にみられるような切歯状、魚類の前上顎骨・歯骨の正中部にみられる犬歯状、タイ科にみられる円形の臼歯状、フエフキダイ科にみられる楕円形の臼歯状など、様々な形態を示す歯がみられる。ただし、今回の試料では保存状態が良好な前上顎骨や歯骨が検出されないため特定できない。なお、焼けた痕跡が明瞭に残らない歯も検出される。

鳥類？　種類、部位を特定できないが、緻密質が極めて薄い骨が検出される。

小型獣類　尾椎、近位端が欠損した中手骨/中足骨が検出される。ネズミ類程度の大きさである。

獣類　部位不明破片が75 点検出される。

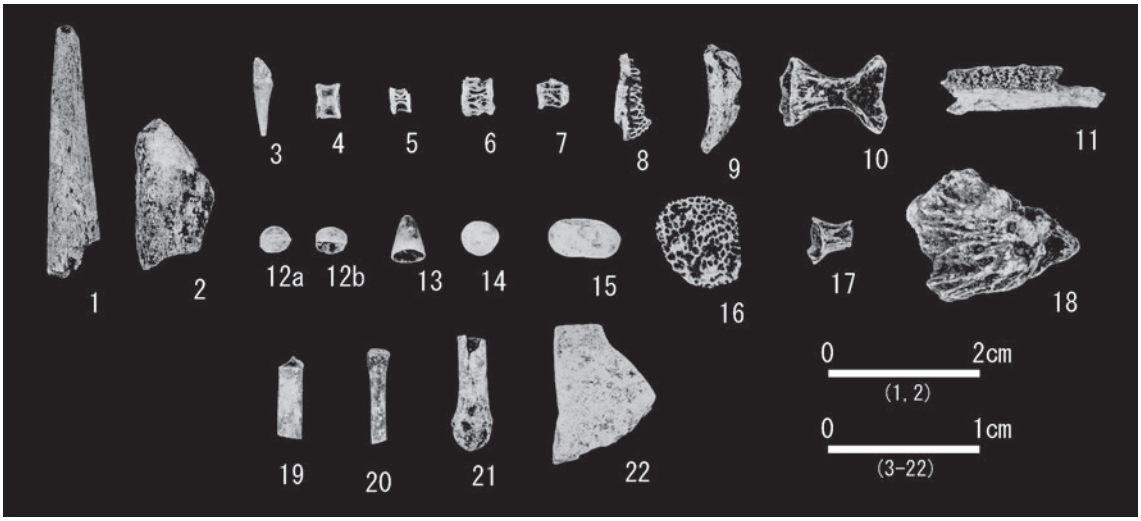
種類不明　魚類、鳥類、哺乳類の区別できない破片である。

付表３　検出分類群一覧

脊椎動物門　Phylum　Vertebrata
　軟骨魚綱　Class　Chondrichthyes
　　板鰓亜綱　Subclass　Elasmobranchii
　　メジロザメ目？　Order　Carcharhiniformes?
　　メジロザメ目？　Order　Carcharhiniformes?
　　エイ目　Order Rajiformes
　　エイ目　Order Rajiformes
硬骨魚綱　Class　Osteichthyse
　条鰭亜綱　Subclass　Actinopterygii
　　ニシン目　Order　Clupeiformes
　　ニシン科　Family　Clupeidae
　　ニシン科　Family　Clupeidae
　　サケ目　Order　Salmoniformes
　　アユ科　Family　Plecolossidae
　　アユ属　Genus　Plecoglossus
　　サケ科　Family　Salmonidae
　　サケ属　Genus　Oncorhynchus
鳥綱？　Class　Aves?
　　鳥類？　Ord. et. fam. indet.
哺乳綱　Class　Mammalia

（３）考察

今回検出された骨をみると、魚類が多く検出されており、海水魚だけでなく、淡水魚あるいは淡水域に侵入する魚類が検出されている。このことから当時の平遺跡で生活していた人々は、沿岸域に棲息する海水魚、宇川を遡上あるいは棲息していた淡水魚などを漁獲し、食料資源等とし



１．ニホンジカ?角?(215)　２．獣類部位不明(215)　３．メジロザメ目?歯(216)　４．エイ類椎骨(216)
５.ニシン科腹椎(216)　６．アユ属尾椎(216)　７．アユ属?尾椎(216)　８．サケ属椎骨(216)
９．大型魚類椎骨(216)　10．魚類基底後頭骨?(216)　11.魚類歯骨(216)　12．魚類歯（切歯状）(216)
13．魚類歯（犬歯状）(216)　14．魚類歯（臼歯状（円形））(216)　15．魚類歯（臼歯状（楕円形））(216)
16.魚類上咽頭骨(216)　17．魚類腹椎(216)　18．魚類部位不明(216)　19.鳥類?部位不明(216)
20.小型獣類尾椎(216)　21.小型獣類中手骨/中足骨(216)　22.獣類不明(216)

写真３　出土骨

て利用していたことが考えられる。検出された魚類の歯をみると複数のタイプが検出されている。おそらくは今回検出された種類以外にも多くの魚類が利用されていたと考えられる。

哺乳類では、ニホンジカの角の可能性がある破片がみられた。ニホンジカは、縄文時代以降の遺跡で多くの検出事例があり、角以外にも多くの部位が骨角器の素材として利用されていることが明らかになっている。今回検出された骨も、骨角器の素材として用いられていた可能性がある。

（パリノ・サーヴェイ株式会社＝松元美由紀・坂元秀平・金井慎司・芝口　怜）

２）平遺跡の砂粒組成分析

（１）はじめに

平遺跡は、宇川河口左岸の日本海に面した砂丘上に立地する。これまでの調査によって、縄文時代前期から中期、後期、晩期の遺構・遺物、古墳時代の石敷遺構や製塩土器等が検出されており、縄文時代から中世にかけての集落遺跡であることが明らかにされている。また、砂丘やビーチを構成する砂を対象として、粒度分析や砂粒組成分析を実施している。

本分析調査では、その他（性格不明）遺構から採取された砂粒を対象として、砂粒組成分析、粒度分析を実施する。以下にその結果を報告する。

（２）試料

薄片鑑定および粒度分析の対象試料は、ＮＲ12より採取された黒褐色（10YR3/2）を示す土壌１点である。土色は、マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修1967）による。

（３）分析方法

①薄片作製・薄片鑑定（ポイントカウント）

試料をペトロポキシにより包埋処理し、固化後、ダイヤモンドカッターにより切断、整形して薄片用のチップを作製する。チップの片面は#180～#2500の研磨剤を用いて研磨する。研磨された面をプレパラートに貼り付けた後、チップ側を厚さ5mm程度に薄く切断する。薄くなったチップを#180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整する。プレパラート上で薄くなった岩石薄片の上にカバーガラスを貼り付け完成とする。砂粒の同定は、メカニカルステージを取り付けた偏光顕微鏡を用い、ライン法により200粒を上限として同定・計数する。

②粒度分析

粒度分析（礫、砂1/4ϕ、泥）は公文・立石編（1998）、上杉（1971、1972）を参考に礫画分・砂粒子画分は篩別法、泥分をなすシルト以下（シルト、粘土）の粒子画分はピペット法で行った。また、粒径区分はWentworth（1922）に従った。以下に各項目の操作工程を示す。

分析試料の調製　試料を風乾後、土塊を軽く崩して２mmの篩でふるい分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。風乾細土試料については、105℃で４時間乾燥し、分析試料水分を求める。

粒度分析　今回の粒度分析の目的の１つとして、粒度特性による風成砂の区分を行うことにあ

る。この環境解析を行う指標の１つとしては歪度があるが、これを求めるには2/4φ間隔以下のせまい間隔で計算する必要があることが、砂分における粒度間隔と粒径頻度分布の精度に関する統計学的検証を行った上杉（1971）によって明らかにされている。この上杉（1971）にもとづき、今回採用する砂分の篩の粒度間隔については1/4φ間隔とする。以下に粒度分析の具体的な手順を示す。

試料を風乾して２mmφ篩でふるい分ける。２mmφ（-1.00φ）篩上粒子は水洗・乾燥させた後重量を測定する。一方、２mmφ篩下粒子は20.00gをビーカーに秤量し、蒸留水と30％過酸化水素水を加え、熱板上で有機物分解を行う。分解終了後、蒸留水と分散剤（４％カルゴン）を加え、撹伴しながら30分間音波処理を行う。沈底瓶にこの懸濁液を移し、往復振とう機で１時間振とうする。振とう終了後、水で全量を1000mlにする。この沈底瓶を１分間手で激しく振り、直ちに静置する。ピペット法に準じて所定時間に所定深度から粗粒シルト（0.063mmφ（4φ）＞、粘土（0.0039mmφ（8φ）＞）を10ml採取し、105℃で24時間乾燥させた後、重量を測定し加積通過率（質量％）を求める。ピペット法終了後、懸濁液を0.063mm篩で水洗いする。

0.063mm篩残留物を105℃で24時間熱乾後、1.70mmφ（-0.75φ）、1.40mmφ（-0.5φ）、1.18mmφ（-0.25φ）、1.00mmφ（0φ）、0.85mmφ（0.25φ）、0.71mmφ（0.5φ）、0.60mmφ（0.75φ）、0.5mmφ（1φ）、0.425mmφ（1.25φ）、0.355mmφ（1.5φ）、0.30mmφ（1.75φ）、0.25mmφ（2φ）、0.212mmφ（2.25φ）、0.180mmφ（2.5φ）、0.150mmφ（2.75φ）、0.125mmφ（3φ）、0.106mmφ（3.25φ）、0.088mmφ（3.5φ）、0.075mmφ（3.75φ）篩でふるい分け、各篩毎に篩上残留物の重量を測定し、加積通過率（重量％）を求める。重量計測は下２桁まで読みとる。ピペット法およびふるい分けで求められる加積通過率（質量％）から粒径加積曲線を描き、Wentworth（1922）の粒径区分毎の質量を算出する。なお、ふるい分けに用いた篩は内径200mm、深さ60mmである。

（４）分析結果

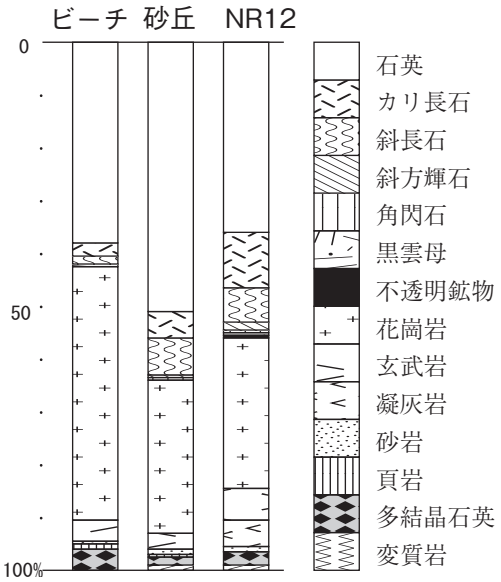
①薄片作製・薄片鑑定（ポイントカウント）

結果を付表４・第33図に示す。偏光顕微鏡で撮影した写真を写真４に示す。付表４・第33図には、砂丘およびビーチの組成を参考として付記する。

砂粒組成は、鉱物片の石英、岩石片の花崗岩が多く、鉱物片のカリ長石および斜長石、岩石片

付表４　砂粒組成

上段：個数 下段：％	鉱物片							岩石片								
試料名	石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	黒雲母	不透明鉱物	花崗岩	玄武岩	凝灰岩	砂岩	頁岩	多結晶石英	変質岩	合計	備考
NR12	72	21	13	3	1	1	1	57	12	10	2	0	5	2	200	
	36.0	10.5	6.5	1.5	0.5	0.5	0.5	28.5	6.0	5.0	1.0	0.0	2.5	1.0	100.0	
砂丘	102	10	14	1	1	0	0	58	6	0	2	1	3	2	200	黒雲母、貝片あり
	51.0	5.0	7.0	0.5	0.5	0.0	0.0	29.0	3.0	0.0	1.0	0.5	1.5	1.0	100.0	
ビーチ	76	5	3	0	0	1	0	96	8	0	1	2	8	0	200	変質岩、貝片あり
	38.0	2.5	1.5	0.0	0.0	0.5	0.0	48.0	4.0	0.0	0.5	1.0	4.0	0.0	100.0	



第33図　砂粒組成

の玄武岩、凝灰岩、砂岩、頁岩、多結晶石英を伴う組成を示す。

ＮＲ12は、石英が36.0%、花崗岩が28.5%であり、砂丘およびビーチと類似する組成を示すが、凝灰岩を5.0%程度含まれる点が特徴となっている。

②粒度分析

結果を付表５、付表６に示す。付表６については、Folk＆Ward（1957）による粒度係数の評価も併せて示す。また、粒径頻度分布を示したヒストグラムと粒径累積加積曲線を第34図に示す。付表５、付表６、第34図に砂丘およびビーチの結果を参考として付記する。

分析試料は、淘汰度が悪いに分類される。試料

付表５　粒度分析結果１

試料名	粒度組成（%）													
	礫						砂							
	大礫	中礫				細礫	極粗粒砂				粗粒砂			
	<-6 φ	-6 ～ -5 φ	-5 ～ -4 φ	-4 ～ -3 φ	-3 ～ -2 φ	-2 ～ -1 φ	-1 ～ -0.75 φ	-0.75 ～ -0.5 φ	-0.50 ～ -0.25 φ	-0.25 ～ 0 φ	0 ～ 0.25 φ	0.25 ～ 0.5 φ	0.5 ～ 0.75 φ	0.75 ～ 1 φ
	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm
	>64	64 ～ 32	32 ～ 16	16 ～ 8	8 ～ 4	4 ～ 2	2.00 ～ 1.70	1.70 ～ 1.40	1.40 ～ 1.18	1.18 ～ 1.00	1.00 ～ 0.85	0.85 ～ 0.71	0.71 ～ 0.60	0.60 ～ 0.50
NR12	0.00	0.00	0.00	9.06	2.16	3.81	0.55	0.84	1.07	1.47	3.69	7.08	13.30	15.73
砂丘	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.03	0.16	0.34	1.51	3.27	8.07	14.04
ビーチ	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.98	0.97	1.52	3.43	5.55	10.83	16.63	23.01	18.78

試料名	砂												泥	
	中粒砂				細粒砂				微粒砂				シルト	粘土
	1 ～ 1.25 φ	1.25 ～ 1.50 φ	1.50 ～ 1.75 φ	1.75 ～ 2 φ	2 ～ 2.25 φ	2.25 ～ 2.5 φ	2.50 ～ 2.75 φ	2.75 ～ 3 φ	3 ～ 3.25 φ	3.25 ～ 3.5 φ	3.50 ～ 3.75 φ	3.75 ～ 4 φ	4 ～ 8 φ	8 φ <
	mm	mm	mm	mm	μm	μm	μm	μm	μm	μm	μm	μm	μm	μm
	0.50 ～ 0.425	0.425 ～ 0.355	0.355 ～ 0.300	0.3 ～ 0.250	250 ～ 212	212 ～ 180	180 ～ 150	150 ～ 125	125 ～ 108	106 ～ 88	88 ～ 75	75 ～ 63	63 ～ 3.9	3.9>
NR12	13.41	9.23	4.68	2.92	1.41	0.92	0.87	0.55	0.67	0.33	0.30	0.36	3.03	2.53
砂丘	19.44	23.18	16.85	8.94	1.89	0.57	0.36	0.13	0.12	0.06	0.05	0.06	0.80	0.10
ビーチ	10.67	4.49	1.41	0.46	0.12	0.06	0.06	0.04	0.05	0.04	0.03	0.04	0.80	0.01>

付表６　粒度分析結果２

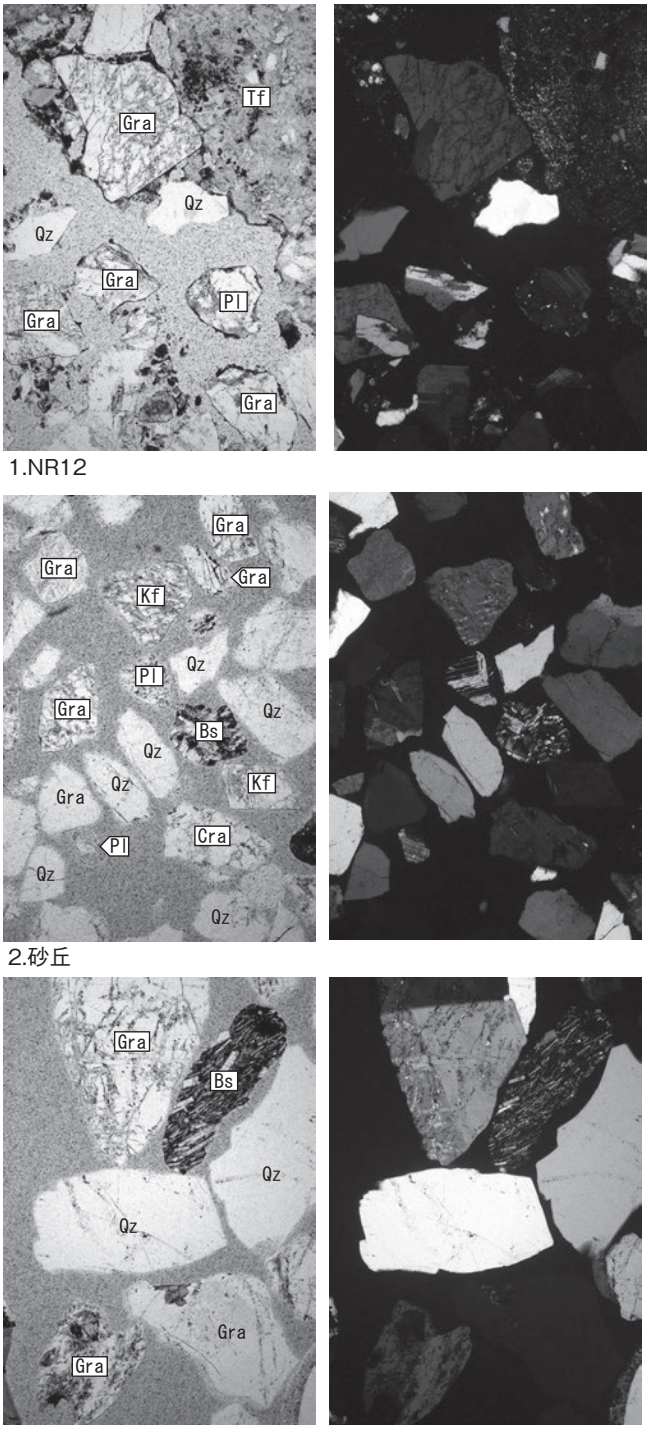
試料名	粒径区分							
	礫 gravel	極粗粒砂 very coarse sand	粗粒砂 coarse sand	中粒砂 medium sand	細粒砂 fine sand	微粒砂 very fine sand	シルト silt	粘土 clay
	<-1 φ	-1 ～ 0 φ	0 φ ～ 1 φ	1 φ ～ 2 φ	2 φ ～ 3 φ	3 φ ～ 4 φ	4 φ -8 φ	8 φ <
NR12	15.03	3.94	39.81	30.24	3.75	1.67	3.03	2.53
砂丘	0.01>	0.54	26.88	68.42	2.96	0.30	0.80	0.10
ビーチ	0.98	11.48	69.25	17.03	0.28	0.17	0.80	0.01>

試料名	粒度係数											
	中央値（Md）			平均値（Mz）			淘汰度（ｓｄ）		歪度（ｓｋ）		尖度（ｓｇ）	
	（φ）	（mm）	粒径	（φ）	（mm）	粒径						
NR12	0.91	0.532	粗粒砂	0.66	0.633	粗粒砂	1.85	悪い	-0.19	負の歪み	3.03	極めて突出
砂丘	1.31	0.403	中粒砂	1.36	0.390	中粒砂	0.62	やや良い	0.10	ほぼ対称	1.13	突出
ビーチ	0.68	0.624	粗粒砂	0.62	0.651	粗粒砂	0.59	やや良い	-0.12	負の歪み	1.06	中間的

の中央値、平均値は共に粗粒砂に分類される。歪度は負の歪みに分類され、尖度は極めて突出に分類される。次に粒度組成についてみていくと、礫が15.0％と含まれ、シルト含量は3.03％、粘土含量は2.53％と若干含まれる。砂分では粗粒砂が39.8％と優占する。次いで中粒砂が30.2％と多く、粗粒な成分で構成される試料である。

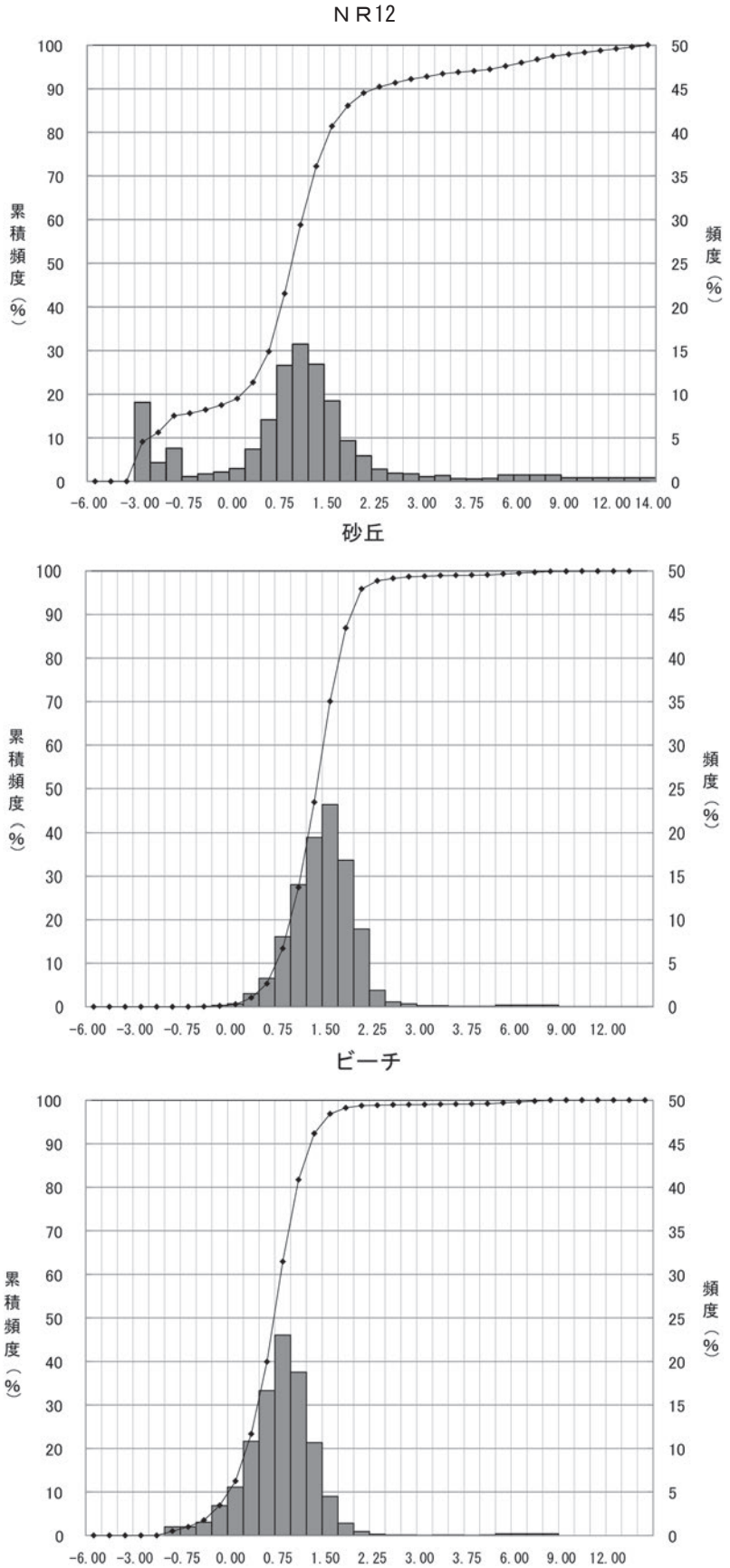
（５）考察

平遺跡が所在する丹後半島先端部付近は、火山岩を主とする新第三系が分布する。丹後半島先端部の地質は、中江ほか（2022）および日本地質学会編（2009）に詳述されている。遺跡近傍を流れる宇川の上流域には、粗粒の黒雲母花崗岩を主とし、花崗閃緑岩や石英閃緑岩もみられる宮津花崗岩が分布している。宮津花崗岩は、カリ長石が桃色を呈するなどの特徴を有する。丹後半島先端部に分布する中新統は、下位から、八鹿累層、豊岡累層、網野累層、丹後累層が区分されている。さらに同半島にはこれらを不整合に覆う鮮新世の火山岩類も分布し、伊根層群と経ヶ岬安山岩と称される（日本地質学会編2009）。遺跡周辺に分布する中新統は、玄武岩～安山岩溶岩および火山砕屑岩、流紋岩火山砕屑岩類、デイサイト貫入岩等からなる。以上の地質背景を考慮すると、薄片で観察されたＮＲ12は、砂丘およびビーチの砂粒と同様に、主要粒子である花崗岩の岩片、石英の鉱物片は宮津花崗岩や流紋岩火山砕屑岩類に由来すると考えられる。ＮＲ12に含まれる凝灰岩の岩片は、遺跡周辺に分布する丹後半島先端部に分布する八鹿累層、豊岡累層、網野累層、丹後累層などの中新統に由来するとみられ、ＮＲ12は、遺跡周辺の地質に由来する砂礫から構成される堆積物である。



Qz:石英.Kf:カリ長石.Pl:斜長石.
Bs:玄武岩.Gra:花崗岩.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

写真４　剥片



第34図　粒度図

他方、Friedman(1961)によると、一般的に砂丘の砂は、粗粒な部分を運ぶ力がないため、粗粒部は選択的に置き去りにされ、その効果が、細粒部の選択的除去よりも強く作用される結果、正の歪み度を持ち、ビーチ(海岸)の砂よりもやや細粒である。ビーチの砂は、海岸における波浪や風の作用により堆積物の細粒部分を洗い流すため、歪み度が負で淘汰度が良いことが特徴である。

今回の分析結果から、試料は純粋な砂丘砂やビーチ砂のような特徴を示さない試料である。第34図に示すように、砂丘やビーチの試料に比較して礫が多く、若干の泥成分が含まれることから、海岸堆積物のみではなく、河川など他の堆積物の影響が含まれる可能性があり、砂粒組成で確認された凝灰岩の岩片の混在が原因として考えられる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社＝松元美由紀・坂元秀平・山川夏樹・芝口　怜）

３）平遺跡第７次の放射性炭素年代測定・珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析

（１）はじめに

平遺跡は、宇川河口の左岸に位置する砂丘上に立地する。なお、立地する地形については周辺の地形や調査区内の堆積構造から、地滑り移動体末端の緩斜面上に立地するとの見解もある。これまでの発掘調査により、縄文時代前期から古墳時代にかけての遺構・遺物が認められる。第７次調査区では、中世の掘立柱建物１棟、複数の谷堆積、土石流跡、溝跡などが検出されている。

付表７　分析試料

試料	性質	分類項目				備　　考
		年代測定	珪藻	花粉	植物珪酸体	
柱ＳＰ２	木材	●				木材（ナシ亜科）
ＮＲ 16	土壌	●	●	●	●	土壌より抽出した種実（トチノキ種子）を測定
ＮＲ 14	土壌		●	●	●	
ＮＲ 12	土壌		●	●	●	
合計		2	3	3	3	

本分析調査では、出土した木質遺物や種実、遺構覆土を対象として、放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を実施し、遺構の年代観や古環境に関する情報を得る。

（２）試料

分析試料を付表７に示す。

放射性炭素年代測定は、ＮＲ16の土壌より抽出した種実遺体と、ＳＰ２柱より採取した木材（ナシ亜科）の計２点を対象に実施する。なお、ＮＲ16の種実はトチノキの種子、ＳＰ２の樹種はナシ亜科に同定された。

珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析は、ＮＲ16、ＮＲ14、ＮＲ12の土壌３点を対象に実施する。

（３）分析方法

①放射性炭素年代測定

分析試料はAMS 法で実施する。試料表面の汚れや付着物を、ピンセットや超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸（HCl）により炭酸塩など酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸などアルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩など酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理：ＡＡＡ）。濃度はHCl、NaOH共に最大1mol/Lである。一方、試料が脆弱で1mol/L では試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度のNaOHの状態で処理を終える。その場合はAaAと記す。

精製された試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus 社のAge３を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC 社製のハンドプレス機を用いて内径１mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS 専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C６など）、バック

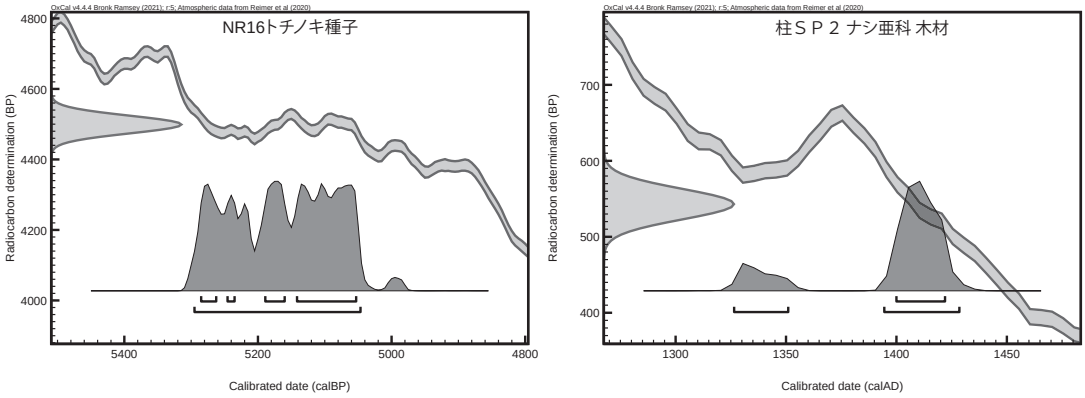
グラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

$\delta^{13}C$ は試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBY の半減期5568 年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4（Bronk,2009）、較正曲線はIntCal20（Reimer et al.,2020）である。

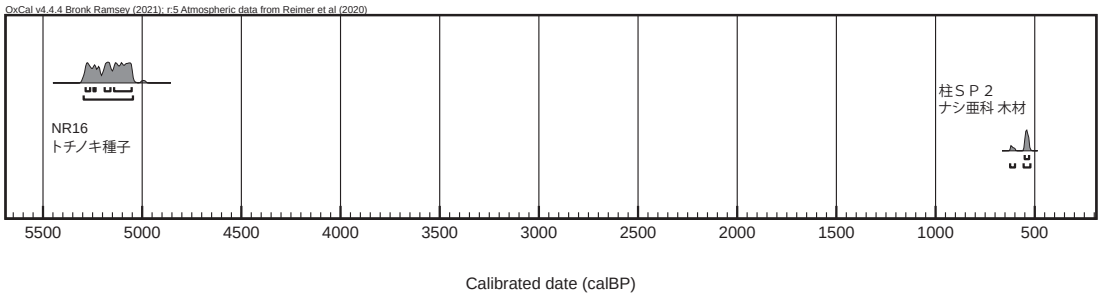
付表８　放射性炭素年代測定結果

試料	性状	分析方法	測定年代 BP（暦年較正用）	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正年代 年代値		確率	Code No
NR16	種実（トチノキ種子）	AAA	4500 ± 30（4499 ± 25）	-24.72 ± 0.19	σ cal BC 3336 - cal BC 3314	5285 - 5263 calBP	0.101	IAAA-241780
					cal BC 3297 - cal BC 3286	5246 - 5235 calBP	0.044	
					cal BC 3240 - cal BC 3211	5189 - 5160 calBP	0.137	
					cal BC 3193 - cal BC 3104	5142 - 5053 calBP	0.401	
					2 σ cal BC 3346 - cal BC 3098	5295 - 5047 calBP	0.954	
柱ＳＰ２	木材（ナシ亜科）	AAA	540 ± 20（543 ± 20）	-30.2 ± 0.18 2	σ cal AD 1400 - cal AD 1422	550 - 528 calBP	0.683	IAAA-241781
					σ cal AD 1326 - cal AD 1351	624 – 599calBP	0.158	
					cal AD 1394 - cal AD 1428	556 - 522 calBP	0.796	

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
２）yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
３）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
４）AAAは酸－アルカリ－酸処理、AaAはアルカリの濃度を薄くした処理を示す。
５）暦年の計算には、Oxcal4.4を使用。
６）暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
７）１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１目を丸めていない。
８）統計的に真の値が入る確率はσ は68%、2σ は95%である。



第35図　暦年較正結果１



第36図　暦年較正結果２

②珪藻分析

湿重約５ｇをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を４～５回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行うが、原則として珪藻殻が半分以上破損したものについては誤同定を避けるため同定・計数は行わない。

③花粉分析

試料約15gについて、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液（臭化亜鉛，比重（2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。

④植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水･塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土１ｇあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土１ｇあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表（付表10）で示す。その際、100個/g 未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め（100単位にする）。

（４）結果

①放射性炭素年代測定

結果を付表８、第35・36図に示す。２点は定法での処理が可能であり、測定に必要なグラファイトは十分得られている。同位体補正を行った値は、ＮＲ16（トチノキ種子）が4500±30BP、木-18（ナシ亜科木材）が540±20 BP である。

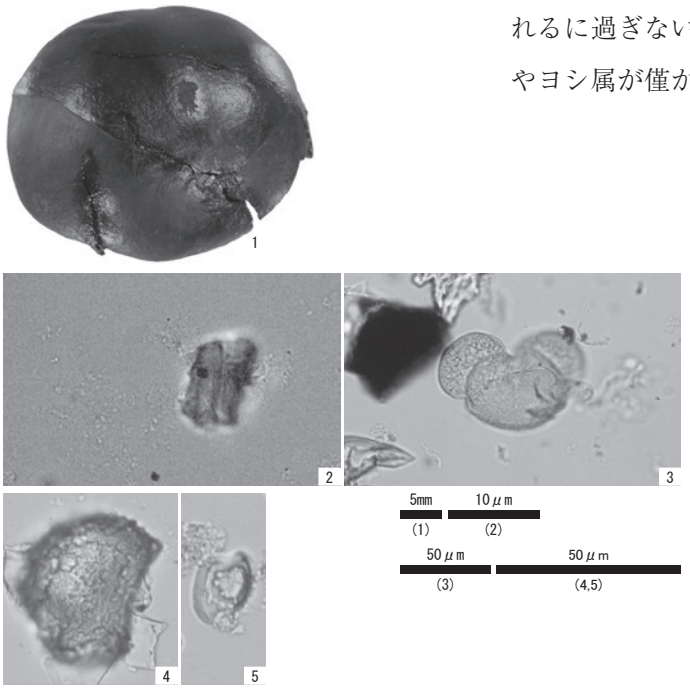
暦年較正は、大気中の^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。２σの値は、暦年

付表９　花粉分析結果

種　　類	NR16	NR14	NR12
木本花粉			
モミ属	1	-	-
マツ属	1	1	-
スギ属	-	1	-
コナラ亜属アカガシ亜属	1	-	-
トチノキ属	1	-	-
草本花粉			
イネ科	1	-	-
シダ植物胞子			
シダ植物胞子	3	1	-
合　計			
総花粉・胞子	8	3	0

付表10　植物珪酸体分析結果　（個/g）

分類群	NR16	NR14	SR12
イネ科葉部短細胞珪酸体			
タケ亜科短細胞珪酸体	-	-	<100
ヨシ属短細胞珪酸体	-	-	<100
不明	-	<100	<100
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
タケ亜科機動細胞珪酸体	-	-	<100
不明	-	<100	<100
合　計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	-	<100	200
イネ科葉身機動細胞珪酸体	-	<100	<100
植物珪酸体含量	0	<100	200



１．トチノキ 種子（年代測定）（NR16）、２．珪藻分析プレパラートの状況状況（NR16）、３．花粉分析プレパラートの状況（NR14）、４．タケ亜科機動細胞珪酸体（NR12①）、５．ヨシ属短細胞珪酸体（NR12①）

写真５　種実・珪藻分析と花粉分析プレパラートの状況写真・植物珪酸体

較正年代は、測定誤差を2σとして計算させた結果、ＮＲ16（トチノキ種子）が5295～5047calBP、柱ＳＰ２（ナシ亜科木材）がcal AD1326～1428である。

②珪藻分析

調査対象とした３点の土壌試料からは、珪藻化石が認められない。

③花粉分析

結果を付表９ に示す。

ＮＲ16やＮＲ15では、マツ属などの樹木花粉や草本花粉のイネ科などが僅かに認められるに過ぎない。ＮＲ12では、花粉・胞子が認められない。

④植物珪酸体分析

結果を付表10と写真５に示す。

ＮＲ16では、植物珪酸体が認められない。ＮＲ14とＮＲ12では植物珪酸体が認められるものの、保存状態が概して悪い。また検出される分類群の数と含量も少ない。

ＮＲ14では、分類群が明確にならない不明が認められるに過ぎない。ＮＲ12では、不明の他に、タケ亜科やヨシ属が僅かに認められる。

（５）考察

①遺構の年代観

ＮＲ16から出土したトチノキ種子の年代は、縄文時代中期を示し、柱ＳＰ２（ナシ亜科）の年代は、14世紀前半～15 世紀前半の値を示した。

②遺構内や周辺の環境

調査対象とした遺構（ＮＲ14、ＮＲ15、ＮＲ12）は、いずれも粘土～礫を含む、淘汰の悪い堆積物であった。これらの遺構覆土からは珪藻化石が認められなかった。また花粉化石は保存状態の悪い中で残りやすいもの（マツ属）が認められ、植物珪酸体も産出が悪かった。この点は、砕

屑物が流入したために遺構内が速やかに埋積し、微化石が取り込まれにくい状態にあったことを示唆する。遺構内外で安定した滞水が有った痕跡や植物の安定的な生育が有った痕跡は見られず、今回の結果から遺構内の水質や周辺の古植生に関する情報を得ることは難しい。今後さらに、遺構の埋積状態や周囲の微地形などの発掘調査所見を含めて検討する必要があろう。

なお検出された分類群からは、ＮＲ16ではマツ属などの樹木や草本類のイネ科、ＮＲ15ではマツ属などの樹木、ＮＲ12ではタケ亜科やヨシ属などイネ科の生育がうかがえる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社＝松元美由紀・馬場健司・井上智仁・田中義文）

４）平遺跡出土木製品の樹種調査結果

（１）試料

試料は平遺跡から出土した漆器１点である。

（２）観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。顕微鏡はNikon DS-Fi1を使用した。

（３）結果

樹種同定結果（広葉樹１種）は、ブナ科クリ属クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）である。

顕微鏡写真（写真６）を示し、以下に主な解剖学的特徴を記す。

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

５）平遺跡出土漆製品の塗膜構造調査

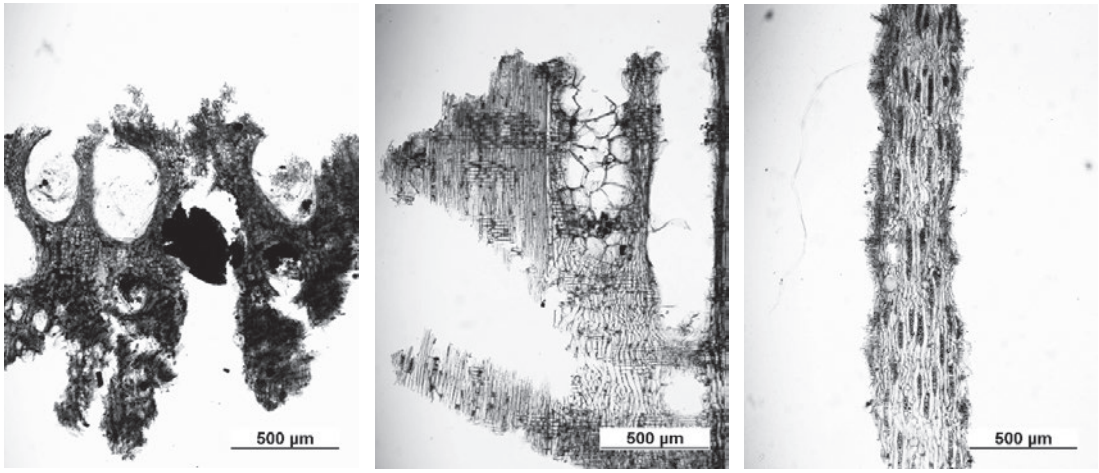
（１）はじめに

京都府に所在する平遺跡から出土した内面は赤色。外面は黒色地に赤色で文様を施した漆製品１点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行った。

（２）調査方法

試料本体の塗膜付着部分から数ｍｍ四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。また当該箇所で蛍光X線分析も併せて行い、赤色顔料の元素を同定した。装置はAMETEK製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置SPECTRO MIDEX04を用いた。測定条件は以下の通りである。測定雰囲気：大気、対陰極：モリブデン（Mo）、管電圧：40kV、管電流：0.2mA、オートコリメータ：0.10～0.50mm、測定時間：180秒、対象元素：チタン（Ti）～ビスマス（Bi）である。定量はＦＰ法を用いて行った。

（３）結果



P-1

木口　　柾目　　板目

写真６　漆器椀顕微鏡写真

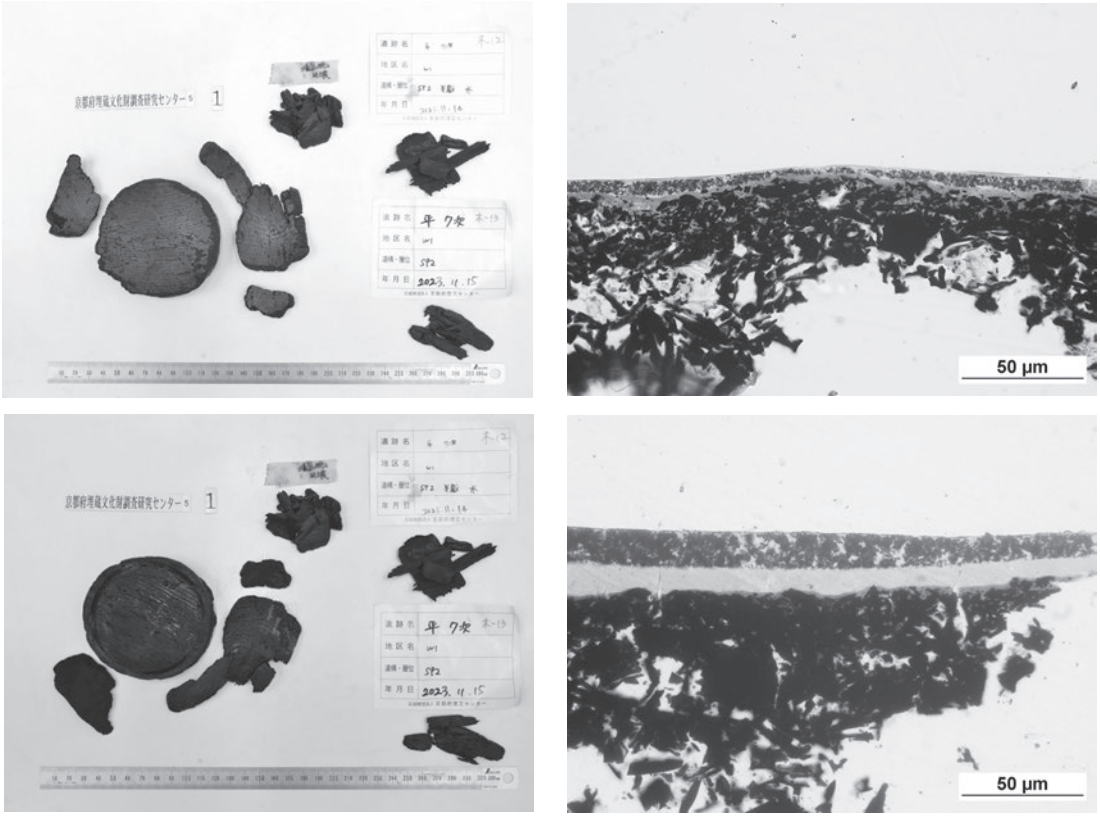
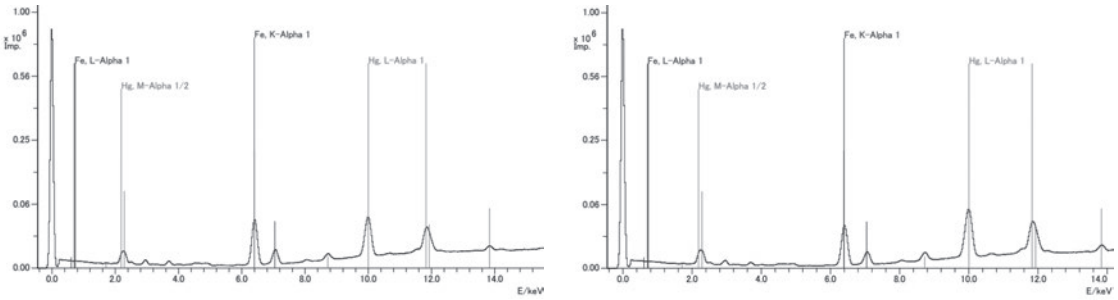


写真７　調査対象試料内外面（左）と漆膜内外面の断面（右）

付表11　漆膜断面観察結果

器　種	部　位	塗　膜　構　造（下層から）			
		下　地		漆　層　構　造	顔　料
		膠着剤	混和材		
椀	内　面	柿　渋	木炭粉	赤色漆１層	朱
	外面	柿　渋	木炭粉	透明漆１層／赤色漆１層	朱



第37図　漆膜蛍光Ｘ線分析スペクトル図（左：内面、右：外面）

付表12　蛍光X線分析結果表

元素	内面赤色	外面赤色
Fe	24.83	19.22
Hg	27.61	35.09

①断面観察

塗膜断面の観察結果を、付表11と以下の文章に示す。

塗膜構造：下層から、木胎、下地、漆層が観察された。

下地：内外両面ともに、濃褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地が施されていた。

漆層：内面には下地の上に赤色漆が１層見られた。外面には下地の上に淡黄褐色を呈する透明漆が１層、その上に加飾（漆絵）の赤色漆が１層重なっていた。

顔料：内面の赤色漆層及び外面加飾部の赤色漆層には、透明度が高い粒子状の朱が混和されていた。

②蛍光Ｘ線分析

分析結果のスペクトル図（第37図）と分析結果表（付表12）をそれぞれ記す。

内外面ともに水銀（Hg）が検出されていることから、内面、外面紋様部ともに朱が使用されたと考えられる。これは断面観察の結果と矛盾しない。なお、共に検出されている鉄（Fe）については、遺物に付着した土壌由来と考えられる。

（４）摘要

京都府に所在する平遺跡から出土した漆椀１点の塗膜構造調査を実施した。

クリの木胎に炭粉渋下地を施し、内面には赤色漆を１層塗布して、外面には透明漆を１層塗布した上に赤色漆で紋様が施されていた。内外面の赤色漆にはともに透明度の高い朱が混和されていた。

（株式会社　吉田生物研究所）

９．まとめ

１）調査区周辺の地形的特徴

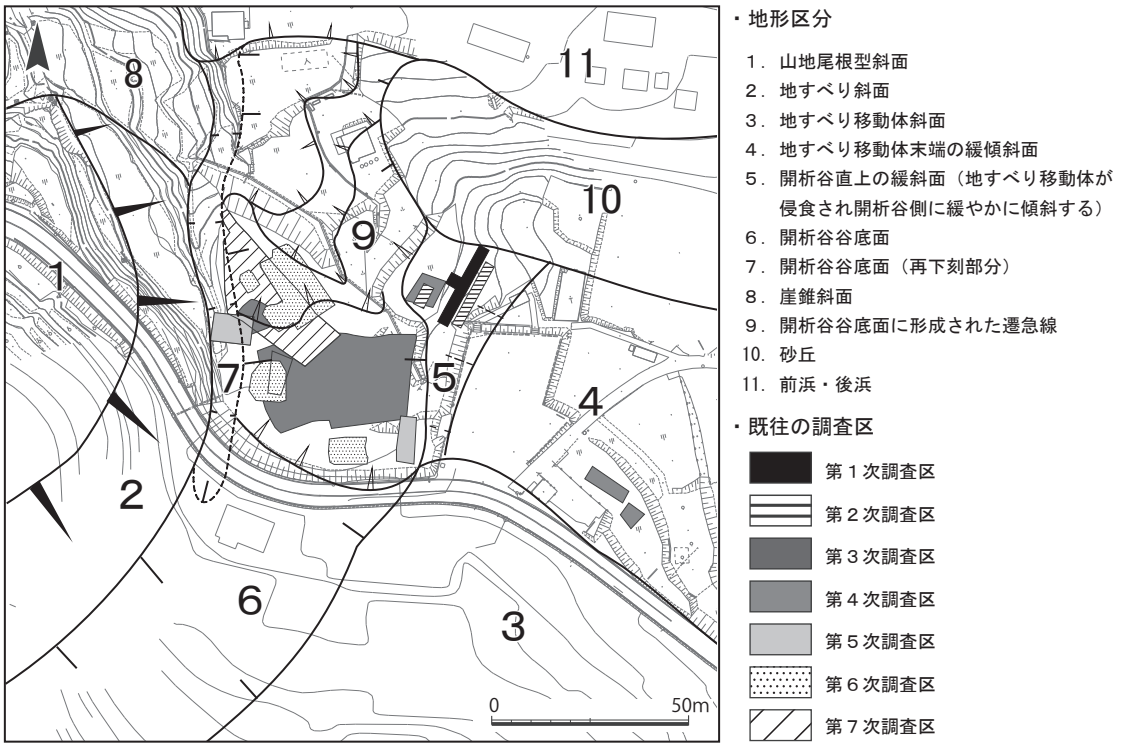
今回報告した第４～７次の調査区では、第５次調査以外のすべての調査区が開析谷内に位置している（第38図）。第４次調査区では、１トレンチが開析谷直上の緩傾斜面、２トレンチおよび３トレンチは地すべり移動体上に位置する。開析谷内には、谷底に複数の遷急線が確認される。第６次調査の発掘成果にもとづくと、谷底の遷急線は、土石流による堆積地形や、谷底の下刻を伴う侵食作用によって形成されたと推測される。

多くの縄文土器が出土し、学史上重要な成果が得られた第２次調査は、開析谷直上の緩傾斜面に位置する。本調査では、南北方向に掘削されたトレンチ西壁断面の詳細な岩質記載が報告され

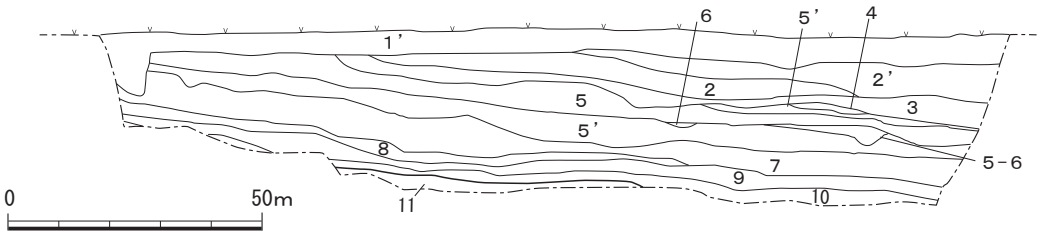
ている（堅田編1966）。このトレンチの最下部には、「含砕岩」として記載された11層、10層、９層が堆積している（第39図）。岩質記載および第６次調査の発掘調査結果から、これらの層は基盤岩の風化層と考えられる。したがって、第２次調査区では、トレンチ掘削の最下部が基盤岩（地山）に達していると判断する。

風化した基盤岩の直上には、縄文時代前期末の大歳山式から中期末葉～後期初頭の平式に至る堆積層（８層、７層、５'層、５-６層）が積層する。これらの堆積層は「非常に粗い砂」と記載される。また、土色は黒色の程度が強い土色記載がなされており、腐植含量が多いと推定される。このため、８層、７層、５'層、５-６層は、土壌生成作用を受け、暗色帯を形成していると考えられる。平式のみを含む５-６層の直上には、中津式と平式を含む５層から弥生土器以降の遺物を含む１層（５層、４層、３層、２層、１層）が堆積する。ただし、これらの層については、砂の粒径に関する記載がなく、詳細な情報は得られていない。土色に関しては、黄褐色と記載される５層を除き、他の層は黒色化の程度が高い記載が示されており、土壌生成作用による暗色帯が発達する層準が多いと推測される。

以上の地形判読結果および既往調査と今回の発掘調査成果から、これまでの調査地は地すべり移動体末端の緩傾斜面および移動体を侵食して形成された開析谷内に位置していると考えられる。また、後述する発掘調査および自然科学分析の結果から、地すべり移動体および開析谷内に位置する調査区では、風成砂からなる砂丘砂に見られる非常に淘汰の良い中粒砂主体の砂層の堆積が認められないことが明らかとなった。この堆積状況は、昭和40年度調査区の岩質記載からも推定される。



第38図　調査区周辺の地形分類図



1'．黒褐色砂層
2'．淡黒色砂層〈土師器・須恵器・弥生式土器・志賀里式土器（縄文晩期）〉
2．黒色砂層〈滋賀里式土器（縄文晩期）〉
3．灰黒色砂層〈宮瀧式土器（縄文後期）〉
4．黒色砂層〈元住吉山式土器（縄文後期）〉
5．黄褐色砂層〈中津式土器（縄文後期）・平式土器（縄文中期）〉
5-6．黒褐色砂層〈平式土器（縄文中期）〉
6．灰白色―暗灰色砂層〈里木Ⅱ式土器（縄文中期）・船元式土器（縄文中期）〉
5'．淡黒褐色砂層
7．灰黒色砂層〈船元式土器（縄文中期）〉
8．黒色砂層〈大歳山式土器（縄文前期）〉
9．含砕石黒色粘土層〈大歳山式土器（縄文前期）・北白川下層Ⅲ式土器（縄文前期）〉
10．含砕石暗褐色粘土層
11．含砕石黄褐色粘土層

第39図　第２次調査のトレンチ断面図（堅田1966図を再トレース）

平遺跡については「砂丘上に立地する遺跡」と説明される場合がある。しかし、今回の発掘調査成果にもとづくと、これまでの平遺跡の調査範囲では、砂丘とは異なる堆積環境下で遺跡形成過程が進行した可能性が高いと考えられる。（辻　康男）

２）出土遺物の概要

平遺跡のこれまでの発掘調査では縄文時代早期から晩期後半中葉までの土器が出土し、突帯文土器が出現するとされる縄文時代晩期末から弥生時代初頭を迎えることなく終焉したと考えられていた。(注９) しかしながら、今回の調査では、縄文時代前期から晩期末までの縄文土器が出土し、過去に出土していた早期の土器は皆無であった。また、突帯文土器や遠賀川式土器が出土したことは、平遺跡の継続時期が従来よりも長く、縄文時代晩期末や弥生時代初頭まで続くことを明らかになった。出土する土器群は、ほぼ摩耗をしておらず、調査区近辺から流入したと考えられる。出土範囲が第７次調査区の南東側や北側に集中することから、復元された旧地形にみられる北東側の緩傾斜面付近などに遺構が展開するものと考えられる。また、縄文時代後期後半から晩期末の土器群には、能登などの北陸地方や東北地方からの搬入品と考えられる土器やそれら地域の影響を受けたとみられる土器が含まれることから、広域での交易が行われていた可能性を示す資料とも考えられる。

弥生時代末から古墳時代初頭にかけての遺物は少量含まれるが、全容は不明瞭である。第２次調査では、古墳時代中期末には漁具などが出土しており、何らかの祭祀が行われた可能性が指摘されている。(注10) 今回の調査では、それらはほとんど出土しておらず、古墳時代の祭祀の可能性については、積極的に指摘することはできないが、包含層中資料ではあるものの、田辺編年ＴＫ23・47併行期の須恵器や丹塗りされた土師器などが一定数出土することから古墳時代中期末頃に、何らかの人間活動が周辺で行われていたものと推察される。

３）遺構の概要

今回の調査では、明確な遺構としては中世の掘立柱建物を検出したにとどまる。建物を構成する柱穴や包含層は北へ行くほど残存状態が良好でないことから、中世段階では周囲は平坦面が形成されていたと考えられる。建物の性格であるが、１つは第３次調査において、中世の柵列を伴う水田造成が確認されていることからそれに伴う建物の可能性、１つは調査地を含む周辺は、小湊という小字名であり、包含層内から輸入陶磁器が少量ながら出土することから、中世段階の日本海貿易の関わる建物の可能性などがあげられる。

調査区内では、複数の後背山地からの斜面崩壊土堆積や、下層を侵食してできた小谷堆積を検出した。第１～３次調査で検出した遺物包含層は、開析谷直上の緩斜面地および開析谷底面に形成された緩斜面の上部に位置していたことからの下刻の影響を受けずに層位的堆積の包含層が残存していたが、第６・７次調査で検出した包含層は、開析谷の中心であることから下刻により下層が消失、または遺物を包含する小谷の方向が各時期で異なるために今回の調査では縄文時代中期、縄文時代後期末～晩期末の時期的まとまりをもつ包含層のみが検出されたものと推定する。

１０．おわりに

これまでの調査の結果、平遺跡は縄文時代早期から晩期末にかけて続く集落であることが明らかとなった。縄文時代後期末～晩期中葉の包含層（23層）から出土した動物遺体から海洋生物だけでなく、付近の宇川の淡水魚も利用して生活していたことが明らかとなった。

弥生時代の遺跡の様相は不明瞭であるが、古墳時代中期末になると開析谷底部面上部において丹塗土器やミニチュア土器、桃種など祭祀色の強い礫敷遺構が造られる。包含層内から古墳時代後期の土器が含まれることから周辺で何らかの活動が行われていたことが示唆される。14世紀～15世紀前半になると開析谷の谷底面がある程度平坦になり、水田や掘立柱建物が造られる。遺構は長期間の遺物を包含する中粒砂質粗粒砂層（20・21層）が開析谷の広範囲で堆積し、遺構が認められないことから開析谷内の利用が終息する。

今回の調査は、既往の調査成果を補強する資料を得ることができたが、平式土器の出土が少なく、平式土器の位置付けに迫るまでには至らなかった。特に平遺跡は砂丘上に形成された遺跡と考えられてきたが地滑り移動体上に形成された遺跡であることが明らかとなった。　（菅　博絵）

注１　『令和６年度　丹後土木事務所　主要事業』 23-25.民安関連道路事業　主要地方道浜丹後線（上野平バイパス）（京丹後市丹後町久僧～平）、主要地方道網野岩滝線（外村バイパス）（京丹後市弥栄町外村）、一般府道間人大宮線（丹後弥栄道路・丹後工区）（京丹後市丹後町三宅～弥栄町国久）https://www.pref.kyoto.jp/tango/tango-doboku/documents/r6tango232425.pdf　最終アクセス令和７年１月８日）

注２　「地すべり地形分布図日本全国版」は、国土交通省国土地理院のweb地図閲覧サービスの「地理院地図」で閲覧した。

注３　石田志朗・小滝篤夫・糸本夏実2019「京都府，丹後半島の海成段丘堆積物」『地球科学』第73巻４号

地学団体研究会

注４　京都府教育委員会2001『京都府遺跡地図〔第３版〕』第１分冊

注５　京都府教育委員会2012『京都府中世城館跡調査報告書』第１冊

注６　面 将道ほか2024「上野遺跡（第１～４次）発掘調査報告」『京都府遺跡調査報告集』第194冊　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

注７　源 博1964「平縄文遺跡について」『同志社考古』３・４　同志社大学考古学研究会、堅田直編1966『平遺跡調査概要』考古学シリーズⅠ　帝塚山大学考古学研究室

注８　河野一隆1997「１．平遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第79冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

注９　注８と同様

注10　堅田 直編1966『平遺跡調査概要』考古学シリーズⅠ　帝塚山大学考古学研究室

＜参考文献＞

Fork, R. L. and Ward, W.1957 Brazons river bar,a study in the significance of grain size parameters. J.Sed. Petrol,27,3-26.

Friedman,G.M1961.Distinction between dune, beach, and river sands from their textural characteristic. J.sed.Petrol,31,514-529.

F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S. ,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere

Wentworth, C. K.,1922,A scale of grade and class terms for clasticsediments. J.Geol,30,377-392.

Bronk, R. C.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

近藤錬三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich

M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R.,

Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C., Wacker L.,

Adolphi F., Büntgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake

F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S. ,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere

radiocarbon age calibration curve（0–55 cal kBP）. Radiocarbon, 62（4）, p.725-757.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

石田志朗・小滝篤夫・糸本夏実2019「京都府，丹後半島の海成段丘堆積物」『地球科学』第73巻4号　地学団体研究会

伊東隆夫1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所

上杉 陽1971「ふるいを用いた粒度分析法の吟味」『地理学評論』44　pp.839-857

上杉 陽1972「粒径頻度分布からみた風成砂・海成砂の諸特徴」『第四紀研究』11　pp.49-60.

面 将道ほか2024「上野遺跡（第１～４次）発掘調査報告」『京都府遺跡調査報告集』第194冊（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

堅田直編1966『平遺跡調査概要』考古学シリーズⅠ 帝塚山大学考古学研究室

河野一隆1997「１．平遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第79冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

北村四郎･村田 源1979『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ･Ⅱ』保育社
公文富士夫・立石雅昭編1998「新版砕屑物の研究法」『地学双書』29　地学団体研究会 p.399
島地 謙･伊東隆夫1988『日本の遺跡出土木製品総覧』』雄山閣出版
日本中世時研究会編2002『新版　概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
奈良国立文化財研究所1985『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』
奈良国立文化財研究所1993『奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇』
中江 訓・辻野 匠・小松原琢・高木哲一・宮川歩夢2022『20万分の1地質図幅「宮津（第2版）』』産総研地質調査総合センター.
日本地質学会編2009『日本地方地質誌」５近畿地方　朝倉書店　p.472
農林省農林水産技術会議事務局監修1967『新版標準土色帖』
林 昭三1991『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
平尾正幸2019「土師器再考」『洛史　研究紀要』第12号（公財）京都市埋蔵文化財研究所
源 博1964「平縄文遺跡について」『同志社考古』３・４ 同志社大学考古学研究会

付表13　第４次調査１トレンチ出土土製品観察表

〈凡例〉※以下土器・土製品観察表に共通
口径欄の記号　　復元径；(　　)　　・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
器高欄の記号　　残存高；(　　)　　・/；計測不能、－；該当部位なし
底径欄の記号　　復元底径；(　　)　　・残存率；特に表記のないものは口縁部、底）は底部

番号	出土地	器種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
1	21層	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	1/12以下	褐灰色（7.5YR 4/2）	やや密（径0.5mm以下の白色、半透明粒）	内）ナデ外）RL縄文	
2	21層	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	1/12以下	にぶい赤褐色（2.5YR 4/4）	粗（径1.5mm以下の白色、半透明粒）	内）ケズリ外）RL縄文	
3	21層	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	1/12以下	黒褐色（7.5YR 3/2）	やや粗（径1mm以下の白色砂粒、雲母、径1.5mm以下の半透明粒）	内）板ナデ外）板ナデ	
4	21層	縄文土器	深鉢	18.3	(4.4)	1/12	内）黒色（7.5YR 2/1）外）褐灰色（7.5YR 4/2）～黒色（7.5 YR 2/1）	やや粗（径1mm以下の白色粒）	内・外）ミガキ	巻貝扇状圧痕文・巻貝貝殻刺突
5	21層	縄文土器	浅鉢	9	4..6	12/12	にぶい橙色（5YR 6/4）	粗（径1mm以下の白、半透明砂粒、径７mm以下の白色粒	内）ユビオサエ後ナデ外）ケズリ	
6	21層	土師器	製塩土器	底）5.4	(2.2)	低）12/12	橙色（5YR 6/6）	密（径1.5mm以下の白･茶色粒少量）	内）ナデ外）ケズリ	

付表14　第５次調査１トレンチ出土土製品観察表

番号	出土地	器種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調整	備考
7	20層	須恵器	杯身	10.3	2.8	1/12	灰白（7.5Y 7/1）	密（径2mm以下の白色粒少量）	内）回転ナデ外）回転ナデ・回転ヘラケズリ	
8	20層	瓦	桟瓦	-	5.9	1/12以下	暗灰色（N 3/0）	密（径1mm以下の半透明・白色粒少量）		

付表15　第６次調査３トレンチ出土土製品観察表

番号	出土地	器　種	器形	径(cm)	器高(cm)	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
9	20 層	須恵器	杯身	10.9	(2.7)	2/12	灰白色（2.5Y 8/2）	密（1ｍｍ以下の半透明・白色粒微量）	内・外）回転ナデ	
10	19 層	須恵器	杯身	11.2	(3.6)	1/12	灰色（N 6/0）	密（径 0.5ｍｍ大の白色粒少量）	内・外）回転ナデ	
11	21 層	須恵器	杯身	10.4	(2.6)	1/12	灰白色（2.5Y 7/1）	密（径 2㎜以下の白色粒少量）	内・外）回転ナデ	
12	19 層	須恵器	高杯	底）8.8	(2.7)	1/12	灰色（N 3/0）	密（径１ｍｍ以下の白色粒少量）	内・外）回転ナデ	
13	21 層	土師器	高杯	－	(6.4)	1/12 以下	明黄褐色（10YR 6/6）	密（径１ｍｍ以下の黒・白色粒微量）	内）ナデ外）ハケメ	
14	19 層	土師器	高杯	－	(3.2)	1/12 以下	橙色（5YR 6/6）	密（径 0.5ｍｍ大の半透明粒）	外）ユビオサエ、頸）ハケメ	
15	19 層	土師器	甕	14.4	(4.2)	1/12	明赤褐色（5YR 5/8）	密（0.5ｍｍ以下の白色粒、径１ｍｍ大の半透明粒微量）	口）ナデ内）ナデ、外）ハケメ	
16	21 層	土師器	製塩土器	底）5.2	(3.2)	3/12	橙色（2.5YR 6/6）	やや密（径２ｍｍ以下の半透明粒、径 0.5ｍｍ大の白色粒微量）	内・外）ケズリ、底部）ナデ	
17	21 層	土師器	移動式竈	底）9.9	4.8	1/12 以下	にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径 2㎜以下の褐・白色粒）	内・外）ハケメ、底部）ナデ	
18	21 層	土師器	皿	7.7	1.7	2/12	にぶい橙色（7.5YR 6/4）	密（雲母微量）	口）ヨコナデ内）ナデ、外）ナデ、ユビオサエ	
19	20 層	土製品	－	幅）2.9	3.1	－	明赤褐色（2.5YR 5/6）	粗(径１㎜以下の石英、白色粒多量)	ユビオサエ	
20	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや粗（径１ｍｍ大の灰・白色粒）	内・外）ナデ	
21	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.0)	1/12 以下	内）橙色（5YR 7/6）外）褐色（7.5YR 4/3）	粗（径４ｍｍ大の灰褐色、１～２ｍｍの黒色粒・石英・長石）	内）指痕外）LR 縄文	
22	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.1)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	やや粗（径１ｍｍ大の石英少量、雲母多量）	内）ナデ外）RL 縄文	
23	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰黄色（10YR 6/2）	やや密（径１ｍｍ大の石英・長・黒色粒）	内）ナデ外）ナデ・RL 縄文	
24	19 層	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	やや粗（径１～４ｍｍの石英・黒・赤色粒）	内）ヨコナデ、外）LR 縄文	
25	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい赤褐色（5YR 5/4）	やや粗（径１～２ｍｍ大の石英・長石）	内）ナデ外）LR 縄文	
26	21 層	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径１ｍｍ以下の黒色粒少量、径１ｍｍの石英）	内）ナデ外）LR 縄文	
27	21 層	縄文土器	深鉢	3.4	(5.3)	7/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径１～２ｍｍの透明・灰・褐色粒）	内）ナデ外）ナデ・LR 縄文	28 と同一個体、Σ状押圧突帯、C 字形爪形文突帯
28	21 層	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径１～２ｍｍの灰色透明・橙色粒）	内）ナデ外）ナデ・LR 縄文	27 と同一個体、Σ状押圧突帯、C 字形爪形文突帯
29	19 層	縄文土器	－	－	(4.8)	1/12 以下	内）にぶい黄褐色（10YR 5/3）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや粗（径１～３ｍｍ大の長石・石英多量、径１ｍｍ以下の黒・赤粒少量）	内・外）マメツ	斜刻突帯

番号	出土地	器　種	器形	径(cm)	器高(cm)	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
30	21層	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	1/12以下	内・外）にぶい褐色(7.5YR 5/3)～黒褐色(7.5YR 3/1)	密（径2mm大の石英・長石）	内）ナデ 外）LR縄文	Σ状押圧突帯、C字形爪形文突帯
31	19層	縄文土器	深鉢	－	(1.6)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）灰黄褐色(10YR 4/2)	やや粗（径1～2mmの石英・黒色粒）	内）RL縄文、外）RL縄文	ハイガイ押圧突帯
32	21層	縄文土器	深鉢	－	(2.2)	1/12以下	内）にぶい黄橙色(10YR 7/3）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径1～2mm大の石英、径1mm以下の黒色粒少量）	内・外）LR縄文	C字形爪形文突帯
33	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	1/12以下	内）にぶい黄橙色(10YR 7/2）外）褐灰色（10YR 6/1）	やや密（径1～2mmの石英・長石・黒色粒）	内）ナデ 外）RL縄文	Σ状押圧突帯、C字形爪形文突帯
34	21層	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	1/12以下	内）にぶい黄橙色(10YR 6/3）外）黄灰色（2.5YR 4/1）	やや粗（径1～2mmの石英多量、黒色粒少量）	内）ナデ 外）LR縄文	Σ状押圧突帯、C字形爪形文突帯
35	19層	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	1/12以下	内）灰白色（2.5YR 8/2）外）灰黄褐色(10YR 6/2)	やや粗（径1～2mmの黒色粒多量、径1mm以下の透明、赤色、白色粒少量）	内）ナデ 外）LR縄文	C字形爪形文突帯
36	21層	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	1/12以下	内）灰黄色（10YR 5/2）外）にぶい黄褐色（10YR 5/3）	やや粗（径1～2mmの石英・長石・灰黒・赤色粒）	内）ナデ 外）RL縄文	Σ状押圧突帯
37	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	1/12以下	内）浅黄橙色（10YR 8/3）～褐灰色（10YR 4/1）外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径1～3mmの白色粒、1mm以下の黒色粒）	内）ナデ 外）RL縄文	
38	21層	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	1/12以下	内）黄灰色（2.5YR 5/1）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径1～3mmの石英・長石、黒色粒）	内）指痕 外）LR縄文	Σ状押圧突帯、貝押圧突帯
39	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	1/12以下	内）にぶい黄橙色(10YR 7/3）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径1mm大の白色粒少量、黒色粒）	内）ナデ 外）LR縄文	Σ状押圧突帯
40	21層	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色(10YR 6/3)	やや粗（径1～3mm大の石英・灰色・赤褐色粒）	内）ナデ・ユビオサエ、外）LR縄文	Σ状押圧突帯
41	21層	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	1/12以下	内）にぶい黄橙色(10YR 7/3）外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（1mm以下の透明粒）	内）指痕・ナデ外）LR縄文	Σ状押圧突帯
42	21層	縄文土器	深鉢	－	(8.2)	－	内）灰褐色（7.5YR 4/1）外）にぶい黄褐色（10YR 5/3）	粗（径0.5～2mm大の灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	連続爪形文
43	19層	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（1~5mmの石英多量、径1mm大の金雲母）	内）ナデ・ユビオサエ、外）RL縄文	C字爪形文突帯
44	21層	縄文土器	深鉢	－	(2.2)	1/12以下	内）褐灰色（10YR 5/1）外）灰黄褐色(10YR 5/2)	やや粗（径1mm以下の白色鉱物）	内）ナデ 外）RL縄文	連続爪形文
45	21層	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい褐色(7.5YR 5/3)	やや粗（径1~2mmの石英・透明粒、灰色透明粒）	内）ナデ 外）RL縄文	円形刺突文
46	21層	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	1/12以下	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）黒褐色（7.5YR 3/1）	粗（径0.5～1mm以下の灰・白色粒多量）	内）マメツ 外）RL縄文	
47	21層	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	1/12以下	内）灰褐色（7.5YR 4/2）外）にぶい黄褐色（10YR 6/3）	やや粗（径1～2mmの石英・赤色粒、黒色粒）	内）ナデ 外）ナデ・RL縄文	連続爪形文
48	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい褐色(7.5YR 5/4)	やや粗（径1~3mm大の石英・長石多量）	内）ナデ 外）RL縄文	半截竹管押引文
49	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	1/12以下	内）浅黄橙色（10YR 8/4）外）にぶい橙色(7.5YR 6/4)	やや粗（径1～2mmの石英、黒色粒）	内）マメツ 外）ナデ	

番号	出土地	器　種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
50	19 層	縄文土器	深鉢	－	（2.8）	1/12 以下	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径１mm大の石英・長石）	内）ナデ 外）半截竹管地	内面炭化物付着
51	21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.7）	－	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	粗（径0.5～1mmの黒・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
52	21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.5）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	粗（径１～３mmの石英・長石、黒色細長粒・赤色粒）	内）条痕 外）条線	
53	21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.2）	－	内）褐灰色（10YR 4/1）外）灰褐色（7.5YR 5/2）	粗（径 0.5~1 mm大の白色粒多量）	内）ナデ 外）RL 縄文	
54	19 層	縄文土器	深鉢	－	（3.2）	1/12 以下	内）にぶい橙色（7.5YR 5/3）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径 1~2 mmの白色透明粒灰・赤色粒・金雲母）	内）マメツ 外）LR 縄文	
55	21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.7）	1/12 以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	粗（径１～２mmの白色粒）	内）ナデ 外）付加条縄文か	
56	21 層	縄文土器	鉢	－	（2.6）	－	内）褐灰色（10YR 5/1）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	やや粗（径 0.5 mm大の白色粒少量）	内）ナデ 外）付加条縄文か	
57	19 層	縄文土器	深鉢	－	（7.9）	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）橙（5YR 6/6）	粗（径１～２mmの石英・黒・灰粒・淡橙色粒）	内）ナデ 外）網目状撚糸文か	
58	21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.6）	1/12 以下	内）にぶい橙色（5YR 5/4）外）橙色（5YR 7/4）	粗（径１～2mm 大の石英赤褐・黒・橙色粒・金雲母）	内）ナデ 外）ナデ	
59	19 層	縄文土器	深鉢	－	（3.2）	1/12 以下	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	粗（径１～２mm大の石英・黒・赤色粒子多量）	内・外）マメツ	
60	19 層	縄文土器	深鉢	－	（2.5）	1/12 以下	内）橙色（5YR 6/8）外）橙色（5YR 7/8）	粗（径１mm大の長石・石英・黒色粒）	内）ナデ 外）マメツ	
61	19 層	縄文土器	深鉢	－	（2.1）	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径 1mm 大の石英・透明粒・黒色粒）	内）ナデ 外）マメツ	
62	19 層	縄文土器	深鉢？	－	（3.7）	1/12 以下	内）にぶい褐色（7.5YR 5/3）外）にぶい赤褐色（5YR 5/4）	粗（径１mm大の黒・赤色粒・石英）	内）マメツ 外）ナデ	
63	21 層	縄文土器	深鉢	－	（5.6）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	粗（径1mm大の黒・赤・白色粒少量）	内）マメツ 外）LR 縄文	
64	19 層	縄文土器	深鉢	－	（3.7）	1/12 以下	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	粗（径１mm大の赤色粒子多量、径１mm大の石英・黒色粒）	内）マメツ 外）ナデ	65 と同一個体
65	19 層	縄文土器	深鉢	－	（3.3）	1/12 以下	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	粗（径１mm大の赤色粒子多量、１mm大の石英、１mm以下の黒色粒）	内）マメツ 外）ナデ	64 と同一個体
66	21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.3）	－	内）黒色（10YR 2/1）外）にぶい赤褐色（5YR 4/4）	粗（径 0.5 mm大の白色粒多量）	内・外）条痕のちナデ	LR 縄文
67	21 層	縄文土器	深鉢	－	（1.4）	－	内）黒褐色（10YR 3/1）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	粗（径0.5～1mmの茶・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ・条痕	RL 縄文
68	21 層	縄文土器	注口土器	－	（9.7）	胴）2/12	内・外）灰色（5Y 4/1）	粗（径１～２mmの石英・長石多量）	内）ナデ 外）ミガキ	巻貝回転擬縄文
69	21 層	縄文土器	注口土器	－	（3.0）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	密（径 0.5 mm大の白色粒・雲母を少量）	内）巻貝条痕外）ミガキ	巻貝回転擬縄文
70	21 層	縄文土器	注口土器	－	（3.4）	－	内）褐灰色（10YR 4/1）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	粗（径 0.5 mm大の白色粒）	内）ナデ 外）ミガキ・巻貝条痕	R 刻
71	21 層	縄文土器	注口土器	－	（3.1）	－	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや密（径 0.2 mm以下の白色粒）	内）条痕 外）ミガキ	R 刻

番号	出土地	器　種	器形	径(cm)	器高(cm)	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
72	21層	縄文土器	注口土器	−	(2.2)	−	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	密（径0.5mm大の白色粒少量）	内）条痕のちナデ 外）ミガキ？	L刻
73	21層	縄文土器	浅鉢	(29.0)	(3.3)	1/12以下	内）褐灰色（10YR 4/1）外）褐灰色（10YR 5/1）	やや粗（径1mm以下の白・黒色粒）	内・外）ミガキ 口）ナデ	R刻
74	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.4)	1/12以下	内）黒褐色（10YR 3/1）～にぶい黄橙色（2.5Y 6/2）外）灰黄色（2.5YR 6/2）	粗（径1mm大の石英・長石・灰色粒）	内・外）ミガキ 口）ナデ	巻貝側面圧痕
75	21層	縄文土器	注口土器	(12.0)	(4.4)	−	内・外）黒色（2.5YR 2/1）	粗（径0.5mm大の白色粒多量）	内）ミガキ 外）ミガキ	
76	21層	縄文土器	広口鉢	−	(4.7)	−	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5mm大の粒多量）	内）ミガキ 外）ミガキ	
77	21層	縄文土器	深鉢	−	(5.3)	−	内・外）灰褐色（7.5YR 5/2）	やや密（径0.5mm大の白色粒・雲母）	内）ナデ 外）ミガキ	
78	21層	縄文土器	深鉢	−	(4.4)	−	内）黒色（10YR 2/1）外）褐灰色（10YR 4/1）	粗（径0.5mm大の粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
79	19層	縄文土器	深鉢	−	(2.8)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）灰褐色（7.5YR 5/2）	やや粗（径1mm大の赤・灰色粒少量）	内）ナデ・ミガキ 外）ナデ	巻貝扇状圧痕、巻貝殻頂刺突
80	21層	縄文土器	深鉢	(28.0)	(4.7)	1/12	内）褐灰色（10YR 5/1）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	粗（径0.5～1mmの白色粒多量）	内）ミガキ 外）巻貝条痕のちミガキ	
81	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.7)	1/12以下	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5~1mm位の白色・白灰色の粒多量）	内・外）ミガキ	
82	19層	縄文土器	浅鉢	−	(4.4)	−	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5~1mmの白色粒多量）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	
83	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.4)	−	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5mm大の白色粒多量）	内・外）ミガキ	
84	19層	縄文土器	深鉢	−	(5.4)	−	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5mm大の白色粒多量）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	
85	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.3)	1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径1～2mmの石英、径1mm以下の黒色粒・金雲母）	内）ミガキ 外）巻貝条痕のちミガキ	
86	19層	縄文土器	深鉢	(22.0)	(4.1)	2/12	内）褐灰色（10YR 4/1）外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5mm大の白色粒）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	巻貝扇状圧痕
87	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.9)	−	内・外）黒色（2.5Y 2/1）	粗（径0.5～1mm大の半透明・白色粒多量）	内・外）ミガキ	巻貝扇状圧痕
88	21層	縄文土器	深鉢	−	(3.6)	1/12以下	内）黒褐色（2.5YR 3/1）外）黄灰色（2.5YR 4/1）	やや密（径1mm以下の石英少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
89	19層	縄文土器	深鉢	−	(7.4)	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）褐灰色（10YR 4/1）	やや粗（径1～2mm大の石英多量、径1mm以下の灰白・透明粒少量）	内・外）巻回条痕のちナデ	
90	21層	縄文土器	深鉢	−		1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	粗（径0.5mm大の白色粒多量）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	巻貝扇状圧痕
91	21層	縄文土器	深鉢	−	(2.6)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	やや粗（径1mm大の金雲母、径1mm以下の白色粒）	内）ミガキ 外）ミガキ	
92	19層	縄文土器	深鉢	−	(2.9)	1/12以下	内・外）灰黄褐色（10YR 4/2）	やや粗（径1mm大の石英、径1mm以下の黒色粒・金雲母）	内）マメツ 外）ナデ	縦位垂下文
93	19層	縄文土器	深鉢	−	(2.8)	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）黄灰色（2.5YR 5/1）	やや密（1mm以下の赤・白色粒）	内）ナデ・ケズリ、外）ナデ	凹点

番号	出土地	器　種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
94	21 層	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	内・外）黒色（5YR 2/1）	粗（径 0.5 mm大の灰・白色粒多量）	内・外）マメツ	刺突文・垂下文
95	21 層	縄文土器	深鉢	－	(2.1)	－	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	粗（径 0.5 ～ 1 mmの白色粒多量）	内・外）マメツ	巻貝扇状圧痕文
96	19 層	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい赤褐色（7.5YR 5/4）	やや密（径１～２mmの石英・透明多量、赤色粒少量）	内）巻貝条痕 外）ナデ	L 刻
97	19 層	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	1/12 以下	内）暗灰黄色（2.5Y 5/2）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや密（径１～２mmの石英・透明・黒色粒）	内）巻貝条痕 外）ナデ	L 刻
98	19 層	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	1/12 以下	内）褐灰色（10YR 4/1）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや粗（径１～３mmの石英・透明・白色粒、径1mm以下の黒色粒）	内）ミガキ 外）ミガキ	巻貝扇状圧痕文、巻貝殻頂刺突
99	21 層	縄文土器	－	－	(1.7)	－	内）黒褐色（10YR 3/1）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	粗（径 0.5 ～ 1 mm以下の透明・白色粒多量）	内・外）マメツ	凹点
100	21 層	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径 1~2 mmの石英・赤・黒色粒、透明片）	内）ナデ 外）ミガキ	凹点、内面炭化物付着
101	19 層	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	やや粗（径１～２mmの石英多量、径１mm以下の黒色粒少量）	内）巻回条痕、外）巻回条痕のちナデ	凹点
102	19 層	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	胴）2/12	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや粗（径５mm以下の灰色粒、径２mm以下の石英・黒色粒）	内）ミガキ 外）ナデ・ミガキ	巻貝扇状圧痕、内面炭化物付着
103	19 層	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	内）黒褐色（10YR 2/1）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	粗（径 0.5 mm大の白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
104	19 層	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	やや粗（径５mm以下の石英・透明・黄灰・赤・黒色粒）	内）ナデ・ミガキ 外）ナデ	
105	19 層	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	1/12 以下	内）灰（N 4/）外）にぶい黄橙（10YR 6/3）	やや粗（径１～２mmの石英・長石、径１mm以下の黒色粒）	内）ナデ 外）ナデ	内面炭化物付着
106	19 層	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）にぶい黄褐色（10YR 5/3）	やや粗（径１～２mmの石英・透明・黄灰・赤・黒色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
107	21 層	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	粗（径 0.5 ～ 1 mmの灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
108	21 層	縄文土器	深鉢	－	(5.05)	－	内）にぶい赤褐色（5YR 4/4）外）褐灰色（10YR 4/1）	粗（径 0.5~1 mm大の灰・半透明・白色粒多量）	内）ナデ 外）ミガキ	
109	21 層	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	内）黒色（10YR 3/1）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	粗（径 0.5~1 mmの白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
110	19 層	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	1/12 以下	内）黒褐色（10YR 3/2）外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径 1mm 大の石英・透明片多量、径１mm 大の赤褐・黒色粒少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
111	21 層	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	1/12 以下	内・外）褐色（7.5YR 4/3）	やや粗（径２mm大の透明粒・石英多量、径１mm以下の褐色粒少量）	内）ナデ 外）マメツ	２個一対の凹点
112	19 層	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	1/12 以下	内）褐灰色（10YR 4/1）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径１mm大の石英・透明粒）	内）ナデ 外）ナデ・ミガキ	
113	21 層	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	内・外）黒色（5YR 2/1）	やや粗（径 0.5 mm大の白色粒）	内）ミガキ 外）ミガキ	R 刻か
114	19 層	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	内）灰褐色（7.5YR 4/2）外）黒褐色（10YR 3/1）	粗（径 0.5 mm大の白色粒多量）	内）ミガキ 外）ミガキ	逆 T 字状文 R 刻

番号	出土地	器　種	器形	径(cm)	器高(cm)	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
115	21層	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	内)黒色(10YR 2/1)外)灰黄褐色（10YR 5/2）	粗（径0.5～1mm大の白色粒多量）	内）ミガキ外）ミガキ・ケズリ	R刻
116	19層	縄文土器	深鉢	－	(9.2)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	やや粗（径1mm大の灰白・白色粒）	内・外）ナデ	逆T字状文
117	20層	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）褐色（10YR 4/4）	やや粗（径1～2mmの石英・透明・白色粒）	内・外）ナデ	口唇部刻み
118	19層	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）褐灰色（10YR 5/1）	やや密（径1mmの海綿骨針、径1mm以下の石英、透明粒）	内・外）ミガキ	円文、刺突列
119	19層	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	内）黒褐色（10YR 3/1）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	粗（径0.5mm大の黒灰・白色粒多量）	内・外）ナデ	
120	19層	縄文土器	深鉢	－	(20.5)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径1～3mmの石英・長石・金雲母多量）	内）ナデ外）巻貝条痕のちナデ・ミガキ	
121	19層	縄文土器	深鉢	－	(11.6)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや粗（径2mm以下の石英・透明・赤透明・黒・赤色粒）	内）巻回条痕、外）巻回条痕のちナデ	
122	19層	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	1/12以下	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	やや粗（径1～2mmの灰・白色粒、径1mm以下の透明・赤透明、赤色粒）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	
123	19層	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径1mm大の石英・黒・灰色粒、金雲母）	内・外）ミガキ	
124	19層	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	1/12以下	内・外）褐灰色（10YR 4/1）	やや粗（径1～3mmの白色粒、1mm以下の透明粒）	内）ナデ・条痕外）条痕	
125	21層	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	内・外）橙色（7.5YR 6/6）	粗(径0.5～1mmの黒・透明・白色粒多量)	内・外）マメツ	
126	21層	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	－	内・外）黒色（10YR 2/1）	粗（径0.5～1mmの白灰・白色粒多量）	内・外）マメツ	口唇部面取り
127	21層	縄文土器	深鉢	(14.0)	(5.3)	2/12	にぶい橙色（7.5YR 6/4）	密（径0.5mm大の白色茶褐色・赤色粒少量）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	
128	19層	縄文土器	深鉢	－	(26.0)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	粗（径3mmの灰白色粒多量、径1~2mmの石英・金雲母・赤色粒）	内）巻回条痕のちナデ、外）ヨコナデ	
129	21層	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	1/12以下	内）にぶい褐色（7.5YR 5/4）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	やや粗（径1mm大の白・黒・透明粒）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り
130	19層	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）褐色（7.5YR 4/3）	粗（径0.5mm大の黒灰・白色粒多量）	内・外）ナデ・ケズリ	
131	21層	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰白色（10YR 8/2）	やや粗（径3mm大の石英、1mm以下の金雲母多量）	内・外）ナデ	口唇部D字刻み
132	21層	縄文土器	浅鉢	－	(6.2)	－	内・外）褐灰色（10YR 6/1）	粗(径0.5～1mmの茶・黒灰・白色粒多量)	内・外）ミガキ	
133	21層	縄文土器	浅鉢	－	(6.1)	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい黄橙色（7.5YR 6/3）	やや密（径1～2mmの石英・黒・灰・白粒）	内・外）ミガキ	
134	19層	縄文土器	注口土器	－	(9.5)	－	内）黄灰色（2.5YR 5/1）外）浅黄橙色（10YR 8/4）	粗(径1~2mmの石英・長石、径1mmの灰色細砂を多量)	内・外）ミガキ	
135	21層	縄文土器	浅鉢	－	(2.8)	1/12以下	内)橙色(5YR 6/6)外)にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径1mmの石英・長石少量）	内・外）ナデ	

番号	出土地	器　種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
136	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（10.3）	1/12 以下頸）2/12	内）黄灰色（2.5YR 5/1）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	粗（径 1~2 mmの石英・長石多量、径１mm大のクサリ礫・金雲母、黒色粒少量）	内・外）ミガキ	
137	21 層	縄文土器	浅鉢		（4.8）	1/12	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	粗（径２mm以下の透明粒、石英・長石多量）	内）ナデ 外）ナデのちミガキ	
138	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（3.4）	－	内・外）灰褐色（5YR 5/2）	粗（径 0.5 mm大の白色粒多量）	内）ミガキ 外）ミガキ	
139	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（2.3）	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）にぶい黄褐色（10YR 7/3）	やや粗（径１mm大の石英・透明粒）	内）巻回条痕外）ナデ	
140	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（1.8）	1/12 以下	内・外）黄灰色（2.5Y 4/1）	やや密（1 mm大の白色粒、透明片）	内）ナデ・ミガキ、外）ミガキ	口唇部面取り
141	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（2.0）	1/12 以下	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや密（径 1mm 大の灰・白色粒、径１mm以下の褐色粒）	内）ミガキ 外）ミガキ	
142	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（2.1）	－	内・外）褐灰色（10YR 4/1）	粗（径 0.5 mm大の白色粒多量）	内）ミガキ 外）マメツ	
143	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（3.2）	1/12 以下	内）黒褐色（10YR 3/1）外）にぶい黄褐色（10YR 4/3）	やや密（1 mm大の白色粒）	内・外）ミガキ	
144	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（9.9）	胴）2/12	内）黒褐色（2.5YR 3/1）外）灰褐色（7.5YR 5/1）	粗（径１～２mm大の石英・長石多量・灰色粒）	内）ナデ・ユビオサエ・ミガキ 外）ナデのちミガキ、ケズリ	
145	21 層	縄文土器	浅鉢	（14.0）	（5.0）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	やや粗（径１mm大の灰黒色粒、径１mm以下の金雲母）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	
146	19 層	縄文土器	鉢	－	（2.7）	1/12 以下	内・外）灰白色（2.5YR 8/2）	やや粗（径１mm大の石英・長石多量、径１mm以下の赤色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	
147	19 層	縄文土器	－	－	（2.0）	1/12 以下	内・外）褐灰色（10YR 4/1）	やや密（径１～２mmの海綿骨針多量、径１mm大の石英・金雲母少量）	内）ミガキ 外）ナデ	
148	21 層	縄文土器	－	－	（3.5）	1/12 以下	内）黒褐色（10YR 3/2）外）褐色（7.5YR 4/3）	粗（径１～２mmの白色粒多量、径１mm大の黒色流多量）	内）ミガキ 外）LR 縄文・結節縄文	
149	21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.9）	1/12 以下	内）褐灰色（10YR 4/1）外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径２～３mm大の石英・長石、径１mm大の赤色粒）	内）ナデ 外）ナデのちミガキ	
150	21 層	縄文土器	深鉢	（18.0）	（2.5）	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径 1~2 mmの石英・透明粒、径１mm 以下の黒色粒）	内）ナデ 外）ナデ・ミガキ	突帯上Ｄ字刻み
151	21 層	縄文土器	深鉢	－	（1.7）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径１mm以下の石英・長石・金雲母）	内）ミガキ	突帯上Ｄ字刻み
152	21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.1）	1/12 以下	内）橙色（5YR 6/6）外）明赤褐色（5YR 5/6）	やや粗（３～４mmの桃色粒、径１～２mmの石英・金雲母）	内）ナデ 外）ナデ	突帯上Ｄ字刻み
153	19 層	縄文土器	深鉢	－	（1.9）	1/12 以下	内）にぶい赤褐色（5Y 4/2）外）橙色（5YR 6/6）	やや粗（径１～２mm大の石英多量）	内）ナデ 外）ナデ	突帯上小刺突
154	21 層	縄文土器	浅鉢	－	（2.2）	－	内・外）灰褐色（7.5YR 4/2）	粗（径 0.5 mm大の白色粒少量）	内）ミガキ	
155	21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.8）	1/12 以下	内）灰褐色（7.5YR 4/2）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	粗（径２mm以下の灰色粒、石英・長石多量）	内・外）マメツ	
156	21 層	縄文土器	底部	底）2.0	（1.2）	－	内・外）にぶい橙色（10YR 2/1）	粗（径0.5～１mmの茶・灰・白色粒多量）	内・外）ナデ	

番号	出土地	器　種	器形	径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
157	21層	縄文土器	底部	底）3.0	（1.8）	底）12/12	内）黄灰色（2.5YR 6/1）外）黄灰色（2.5YR 5/1）	やや粗（径1～2mmの石英・長石、径1mm以下の赤色粒子）	内）ミガキ 外）ミガキ	
158	19層	縄文土器	底部	底）2.7	（2.7）	底）9/12	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）黒褐色（10YR 3/1）	やや密（径1～2mmの石英・白色粒・透明片多量、灰色片少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
159	19層	縄文土器	深鉢底部	底）3.6	（2.5）	底）12/12	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）にぶい橙色（5YR 6/4）	やや粗（径1～2mmの石英多量）	内・外）巻貝条痕のちナデ	
160	19層	縄文土器	深鉢底部	－	（1.7）	底）6/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径1～3mmの石英・金雲母多量、径1mm以下の黒色粒少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
161	19層	縄文土器	深鉢底部	－	（1.5）	底）12/12	内）黒色（10YR 1.5/）外）明赤褐色（2.5YR 5/6）	やや粗（径1～4mmの白色鉱物、灰色粒）	内）ナデ 外）ケズリ	
162	21層	縄文土器	深鉢底部	－	（3.4）	底）5/12	内）灰色（5Y 4/1）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径1～3mmの石英・長石）	内）ナデ 外）マメツ 底）ナデ	
163	19層	縄文土器	深鉢底部	－	（7.45）	底）12/12	内）橙色（5YR 6/6）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	密（径1~3mmの黒・半透明・白色粒	内）ケズリ 外）ケズリ・ユビオサエ	
164	21層	縄文土製品	土偶か	－	（2.8）	－	正面）にぶい黄（10YR7/2）背面）褐灰（10YR5/1）	やや密（径1～5mmの白色粒）	ナデ	

付表16　第6次調査3トレンチ出土石製品観察表

番号	層位	器　種	石　材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	備　　考
165	19層	石鏃	凝灰岩	2.9	1.4	0.4	1.0	脚部欠損
166	21層	石鏃	サヌカイト	3.0	1.9	1.0	3.1	二上山産（肉眼鑑定による）
167	19層	石鏃	サヌカイト	1.4	1.7	0.5	0.3	二上山産（肉眼鑑定による） 脚部欠損
168	20層	石鏃	チャート	1.6	1.1	0.3	0.4	脚部および先端部欠損
169	21層	石鏃	サヌカイト	2.4	1.6	0.4	1.1	金山産（肉眼鑑定による） 先端部欠損
170	21層	石鏃	サヌカイト	3.4	1.9	0.8	3.0	二上山産（肉眼鑑定による） 先端部および脚部欠損
171	21層	石鏃	サヌカイト	2.0	1.6	0.4	0.9	金山産（肉眼鑑定による） 片面に自然面に残存
172	21層	石鏃	サヌカイト	1.8	1.5	0.6	0.8	金山産（肉眼鑑定による） 先端部欠損
173	－	石鏃	凝灰岩	2.1	1.9	0.4	1.0	先端部欠損
174	21層	石鏃	サヌカイト	2.1	1.6	0.5	1.0	金山産（肉眼鑑定による） 先端部欠損
175	20層	石鏃	凝灰岩	2.1	2.0	0.4	0.6	基部を大きく欠損
176	20層	磨製石斧	泥質頁岩	6.7	4.2	1.5	67.9	基部欠損
177	21層	石匙	サヌカイト	3.2	3.4	0.8	5.7	二上山産（肉眼鑑定による）
178	19層	剝片	サヌカイト	6.4	4.8	1.8	49.8	二上山産（肉眼鑑定による） 自然面が多く残存
179	19層	小玉	蛇紋岩	0.55	径0.9	－	0.8	
180	21層	管玉	クロム白雲母	3.9	最大径0.8	－	3.5	

付表17　第７次調査出土土製品観察表

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
181	w1 21 層	弥生土器	壺	－	（7.5）	－	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや密（径 2mm 以下の半透明・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
182	w1 21 層	弥生土器	壺	－	（6.9）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 6/3）	やや密（径 2mm 以下の半透明・淡褐色粒）	内）ナデ外）ミガキ	
183	u1 21 層	弥生土器	壺	‘14.4	（7.3）	1/12	赤褐色（2.5YR 4/6）	密（径１～3mm の石英・赤褐・灰・半透明・白色粒）	内）ヨコナデ・ハケメ 外）ナデ・ケズリ	
184	w1 21 層	土師器	甕	14.4	（4.7）	1/12	明赤褐色（5YR 5/6）	密（径 1mm 大の石英・茶褐・白色粒）	内）ヨコナデ・ケズリ 外）ヨコナデ	外面に煤付着
185	t4 21 層	土師器	甕	15.5	（4.4）	1/12 以下	明赤褐色（5Y 5/8）	粗（径 4mm の半透明・白・灰色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
186	w1 21 層	土師器	甕	17.6	（3.8）	2/12	橙色（2.5YR 6/8）	粗（径 3.5mm 以下の茶・褐・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
187	t4 21 層	土師器	甕	17.2	（4.4）	4/12	色調	やや粗（径 4mm 以下の半透明・白・褐色・黒色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	内外面に煤付着
188	k・r4 21 層	土師器	椀	13.8	（6.4）	9/12	橙色（5YR 6/6）	密（径 1mm 以下の灰・白色粒）	内）ナデ 外）ケズリ	内外面に丹
189	t4 21 層	土師器	杯	13.9	（4.2）	1/12 以下	にぶい橙（7.5YR 7/4）～明赤褐色（5YR 5/6）	やや粗（径 2mm 以下の白・灰色粒を多量）	内）ナデ 外）ケズリ	
190	x25 21 層	土師器	椀	13.8	（5.4）	2/12	明赤褐色（2.5YR 5/6）	密（径 1mm 以下の赤褐・黒・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）ミガキ	
191	x25 21 層	土師器	壺	18.4	（10.8）	3/12	赤（10YR 4/6）	密（径 1~2mm の赤褐・茶褐・白色粒・雲母）	内）ミガキ・ケズリ	粘土紐接合痕
192	w1 D－D ’3 層	土師器	高杯	14.4	10.0	2/12	内）黒色（N 2/0）外）にぶい黄橙（10YR 7/3）	密（径 3mm 以下の赤褐・茶褐・白色粒）	内）ケズリ 外）ナデ・ケズリ	
193	w1 21 層	土師器	高杯	13.9	（3.5）	3/12	褐灰色（10YR 6/1）	密（径 1mm 大の黒・白色粒・雲母）	内）ハケメ 外）ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケ
194	r4 21 層	土師器	高杯	低）9.0	（4.6）	低）1/12	橙色（2.5YR 6/6）	密（径 1mm 以下の赤褐・灰・半透明・白色粒）	内）ナデ・・ケズリ、外）ヨコナデ・ハケメ	ハケ
195	r~t 3～5 21 層	土師器	製塩土器	底）5.3	（4.7）	底）9/12	にぶい橙（7.5YR 6/4）	粗（径 1.5mm の白・灰色粒多量）	内）ナデ・ケズリ外）ナデ	工具による成形痕
196	u2 精査中	土師器	製塩土器	底）5.0	（2.9）	底）2/12	橙色（5YR 6/8）	密（径 1mm 大以下の白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	
197	w1 D－D ’3 層	土師器	製塩土器	底）5.0	（2.2）	底）6/12	橙色（2.5YR 6/6）	密（径 1mm 以下の茶・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
198	t4 21 層	土師器	製塩土器	底）4.95	（1.8）	底）完形	にぶい橙（7.5YR 6/4）	密（径 1mm 以下の茶・白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	
199	t4 21 層	須恵器	杯蓋	11.3	（3.5）	3/12	明赤褐色（5Y 5/6）	密（径 1 mm 以下の粒少量）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	
200	s・t4 21 層	須恵器	杯身	9.8	（4.2）	4/12	明紫灰（5YR 7/1）	密（径 1mm 以下の黒・白色粒）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	
201	t4 21 層	須恵器	杯身	10.2	（4.7）	3/12	灰（N 5/0）	密（径 1mm 大の白色粒）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	
202	t4 21 層	須恵器	杯身	11.1	4.7	1/12	褐灰色（10YR 4/1）	密（径 4mm 以下の粒少量）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
203	r4 21層	須恵器	杯身	11.8	4.9	2/12	橙色（5YR 6/6）	密（径1mm大の白色粒）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	
204	21層	須恵器	杯B	12.3	4.3	7/12 底）3/12	橙色（7.5YR 6/6）	やや粗（径1mm以下の白色粒多量）	内）回転ナデ、外）回転ナデ・回転ヘラ削り	
205	t4 21層	須恵器	瓶	頸）7.0	（6.4）	頸）2/12	褐灰色（10YR 4/1）	密（径2mm以下の白色粒少量）	内・外）回転ナデ	外面に自然釉付着
206	w1 D－D'3層	黒色土器	椀	'17.0	（5.0）	2/12	灰（5Y 6/2）	密（径4mm以下の黒・半透明・白色粒・雲母）	内・外）ヨコナデ・ミガキ	
207	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（4.5）	1/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/4）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや密（径1~2mmの石英多量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部刻み
208	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（3.1）	1/12以下	内）黒褐色（10YR 3/1）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径1～2mmの石英・白色粒多量）	内）ナデ外）RL縄文	
209	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（2.9）	1/12以下	内）黒褐色（10YR 3/1）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径1～2mmの石英・白色粒多量、径1mm以下の赤・黒色粒）	内・外）マメツ	
210	v1 23層	縄文土器	－	－	（2.1）	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや粗（径1～2mmの白色粒。灰・黒・赤色粒）	内）ナデ 外）マメツ	
211	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（2.1）	1/12以下	内・外）橙（5YR 6/6）	やや密（径1mm以下の黒色粒・金雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	
212	v24 23層	縄文土器	深鉢	－	（19..9）	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径1~5mmmp石英多量、径1mm以下の黒色片粒、金雲母、クサリ礫）	内）ナデ 外）板ナデ・ケズリ	口唇部面取り・R刻
213	x25 23層	縄文土器	深鉢	－	（4.6）	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径1mm大の石英・白色粒多量、径1mm以下の赤褐・黒色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	粘土紐接合痕
214	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（4.0）	1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径1mm大の金雲母多量、径1mm以下の白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部面取り
215	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（10.4）	1/12以下	内）灰黄褐色（10YR 5/1）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	やや密（径1~2mmの石英多量、径1mm以下の金雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	粘土紐接合痕
216	v1 23層	縄文土器	深鉢	－	（5.9）	1/12以下	内・外）にぶい赤褐色（5Y 4/4）	やや密（径1~2mmの石英、径1mm以下の黒透明粒）	内）粘土紐接合痕、外）粘土紐接合痕・ケズリ	
217	v1 23層	縄文土器	深鉢	－	（6.3）	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや粗（径1mm大の橙・灰・白色粒）	内・外）ナデ	口唇部面取り
218	v25・24 23層	縄文土器	深鉢	－	（8.4）	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 5/3）	やや粗（径1～3mmの白粒多量、径1mm大の黒色粒・金雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部面取り、粘土紐接合痕
219	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（8.3）	1/12以下	内）灰白色（2.5YR 8/2）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや密（径1～2mmの透明粒多量、径1mm大の赤・黒色粒）	内・外）ナデ・ケズリ	
220	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（7.6）	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径1～3mmの石英多量、径1mm以下の黒色粒・金雲母）	内）板ナデ 外）ケズリ	
221	v25 23層	縄文土器	深鉢	－	（6.2）	1/12以下	内）黒褐色（10YR 3/2）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	やや粗（径1～3mmの石英・白色粒・黒色粒・金雲母）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	
222	v1 23層	縄文土器	深鉢	－	（3.4）	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや粗（径2~5mmの石英多量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部面取り

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
223	v1 23 層	縄文土器	深鉢	（35.0）	（11.8）	1/12 以下	内）黒褐色（10YR 3/1）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや粗（径１～2mm の石英多量、径 1mm 以下の赤・黒色粒少量）	内）板ナデ 外）指頭圧痕	口唇部Ｏ字刻み、粘土紐接合痕
224	v1 23 層	縄文土器	深鉢	－	（4.0）	1/12 以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや粗（径１～2mm の石英、径 1mm 以下の赤・黒灰色粒・金雲母少量）	内）板ナデ 外）ケズリ	口唇部Ｄ字刻み、粘土紐接合痕
225	v25 23 層	縄文土器	深鉢	－	（4.4）	1/12 以下	内・外）浅黄橙（10YR 8/3）	やや粗（径１～5mm の石英多量、径 1mm 以下の黒色透明粒・金雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部Ｏ字刻み、粘土紐接合痕
226	x25 23 層	縄文土器	深鉢	－	（5.8）	1/12 以下	内）にぶい黄褐色（10YR 5/3）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径１～2mm の赤・白色粒多量、径 1mm 大の黒・褐色粒少量）	内）マメツ 外）ナデ	口唇部Ｏ字刻み、粘土紐接合痕
227	v25 23 層	縄文土器	浅鉢	－	（4.0）	1/12 以下	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	やや密（径 1mm 大の金雲母多量、径１ｍｍ以下の石英・黒・白色粒少量）	内）ミガキ 外）ミガキ	
228	v25 23 層	縄文土器	浅鉢？	－	（3.3）	1/12 以下	内）黒褐色（10YR 3/2）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや密（径 1mm 以下の白色粒・金雲母多量、赤色粒少量）	内）ナデ外）ミガキ	
229	v24 23 層	縄文土器	浅鉢	－	（5.4）	1/12 以下	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径１～2mm の白色粒・灰色粒・金雲母）	内）マメツ 外）ミガキ	
230	v25 23 層	縄文土器	浅鉢	－	（5.5）	1/12 以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや密（径 1mm 大の金雲母多量、径１ｍｍ大の黒・白色粒）	内・外）巻貝条痕のちミガキ	
231	v25 23 層	縄文土器	深鉢	－	（6.2）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径 1mm 大の石英・透明粒多量、径 1mm 以下の黒色粒少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
232	v24 23 層	縄文土器	深鉢	26.2	（8.2）	1/12 以下	内・外）にぶい褐色（7.5YR 6/3）	密（径 1mm 大の黒褐・白色粒・雲母）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り、逆Ｔ字状文・粗雑なＬ刻
233	v24 23 層	縄文土器	深鉢	胴）32.4	（22.5）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/3）外）灰黄褐色（10YR 5/2）	密（径 1mm 大の橙・黒・白色粒）	内）ナデ・板ナデ 外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り、逆Ｔ字状文・粗雑なＲ刻、内面炭化物付着
234	v24・25 23 層	縄文土器	深鉢	30.8	（15.2）	3/12	内・外）にぶい赤褐色（5Y 5/4）	やや粗（径 3mm 以下の半透明・暗褐・明褐色粒）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	粘土紐接合痕
235	v24～1 23 層	縄文土器	深鉢	‘（35.0）	（16.6）	4/12	内）にぶい赤褐色（5Y 5/4）外）暗赤褐色（5Y 3/2）	やや密（径 2mm 以下の半透明・白色粒少量）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	
236	v24・25 23 層	縄文土器	深鉢	23.5	（10.4）	2/12	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径 2mm 以下の褐・灰・白色粒多量）	内）板ナデ・ナデ、外）巻貝条痕のちナデ？	
237	v25 23 層	縄文土器	深鉢	－	（9..2）	5/12	外）灰白色（10YR 8/2）内）灰白色（10YR 8/2）	密（径 1mm 大の茶褐・白色粒・雲母）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	
238	v25 23 層	縄文土器	深鉢	（24.0）	（13.9）	4/12	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	密（径 3mm 以下の半透明、白色粒少量）	内）板ナデ 外）板ナデ・ケズリ	口唇部面取り、粘土紐接合痕
239	v24 23 層	縄文土器	深鉢	22.4	（9.2）	2/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 7/3）	やや粗（径 1mm 以下の白色粒少量、径 1mm 以下半透明粒多量）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	口唇部Ｏ字刻み
240	v24 23 層	縄文土器	深鉢	19.4	（15.5）	1/12 以下	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径 4mm 以下の褐・黒・白色粒多量）	内）板ナデ 外）指頭圧痕・板ナデ・ケズリ	粘土紐接合痕

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
241	v1 23層	縄文土器	深鉢	25.4	（6.6）	2/12	内）明黄褐色（10YR 6/6）外）にぶい赤褐色（5YR 5/3）	やや密（径1mm大の半透明粒多量）	内）ナデ 外）指頭圧痕	口唇部O字刻み、粘土紐接合痕
242	v25 23層	縄文土器	底部	－	（2.0）	底）8/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	やや密（径1~2mmの灰・白色粒多量、径1mm大の黒色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	
243	v25 23層	縄文土器	底部	－	（4.5）	底）完形	内）にぶい橙色（7.5YR 4/2）外）灰褐色（7.5YR 4/2）	やや粗（径1mm大の透明片多量、径1～2mmの石英、白色粒）	内・外）巻貝条痕のち ナデ	
244	v1 23層	縄文土器	深鉢 底部	－	（8.9）	底）12/12	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/4）	密（径1～6mm大の半透明・褐・白色粒・雲母）	内）板ナデ 外）ケズリ	
245	NR12 v25 23層	縄文土器	深鉢 底部	－	（6.5）	底 1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい黄橙色（10YR 6/4）	粗（径1～3mm大の石英多量、径1mm大の金雲母）	内）ナデ 外）ケズリ	
246	NR12 v25 23層	縄文土器	深鉢 底部	底）3.0	（4.5）	底）12/12	内）黒褐色（10YR 3/1）外）橙色（7.5YR 7/6）	やや密（径1~3mmの石英・長石多量）	内）ナデ 外）ケズリ・ナデ	
247	NR12 v24 23層	縄文土器	深鉢	19.5	（10.15）	4/12	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	粗（径2mm以下の褐・灰・黒・白色粒多量）	内）板ナデ 外）粘土紐接合痕・板ナデ	
248	v24 23層	縄文土器	壺	14.0	（7.6）	2/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径1~2mmの赤・黒色粒多量、径1mm大の白色粒・金雲母少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
249	v25 23層	縄文土器	壺	－	（3.4）	1/12以下	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや粗（径1～2mmの石英多量、黒色粒・金雲母）	内）粘土紐接合痕、外）LR縄文	
250	NR14	縄文土器	深鉢	34.4	（10.5）	1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	粗（径5mm以下の褐・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ケズリ	口唇部O字刻み、粘土紐接合痕
251	NR14	縄文土器	浅鉢	23.5	（3.45）	1/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）浅黄橙（10YR 8/3）	粗（径2mm以下の白色粒多量）	内）板ナデ 外）ミガキ	
252	NR14	縄文土器	深鉢	－	（3.5）	1/12以下	内）にぶい黄橙色（10YR 6/4）外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径4mm以下の淡褐色粒、1mm以下の半透明粒）	内）ナデ・ 外）ナデ	D字刻み
253	NR14	縄文土器	深鉢	－	（2.5）	1/12以下	内）にぶい赤褐色（5YR 5/4）外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径2mm以下の白色粒少量）	内）ナデ 外）マメツ	D字刻み
254	NR14	縄文土器	深鉢	－	（4.6）	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや粗（径3mm以下の半透明、淡褐、白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	無刻目突帯、粘土紐接合痕
255	NR14	縄文土器 or 弥生土器	－	－	（4.3）	1/12以下	内）にぶい褐色（7.5YR 6/3）外）暗褐色（7.5YR 3/3）	やや粗（径4mm以下の半透明、白色粒）	内）ナデ・ 外）ナデ	口唇部指押圧・突帯上D字刻み
256	NR14	縄文土器	深鉢 底部	－	（4.7）	底）4/12	内・外）にぶい褐色（7.5YR 6/3）	やや粗（径3mm以下の半透明、白粒）	内）ナデ・ 外）ナデ	
257	NR14	縄文土器	深鉢 底部	－	（6.5）	底）5/12	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/3）	やや粗（径2mm以下の半透明、暗灰、淡褐、白色粒）	内）ナデ・ 外）ナデ	
258	w1・24・25 21層	縄文土器	深鉢	29.6	（12.4）	3/12	内）橙色（2.5YR 6/8）外）灰白色（10YR 8/2）	密（径1mm大の黒・赤褐・白色粒）	内）ナデ・指頭圧痕 外）ナデ・ケズリ・指頭圧痕	逆V字縄文
259	w1・v25 21層	縄文土器	深鉢	28.0	（13.75）	3/12	内・外）白灰色（10YR 8/2）	やや粗（径2mm以下の白色粒）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り・内面炭化物付着
260	v25 21層	縄文土器	深鉢	25.3	（9.1）	頸）2/12	内・外）灰褐色（7.5YR 4/2）	密（径3mm以下の褐・白色粒・ガラス質）	内）板ナデ 外）粘土紐接合痕・板ナデ・ケズリ	内面炭化物付着

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
261	x25 21 層	縄文土器	深鉢	16.4	（6.5）	3/12	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	粗（径 1mm 以下の褐・黒・白色粒）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り
262	v24 21 層	縄文土器	深鉢	25.0	（7.6）	1/12	内・外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径 2mm 以下の半透明・暗灰色・白色粒少量）	内）板ナデ外）ナデ	粘土紐接合痕
263	w 25・v1 21 層	縄文土器	深鉢	22.2	（6.8）	1/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）褐灰色（10YR 4/1）	密（径 1mm 大の半透明・茶褐・黒褐・白色粒）	内）板ナデ外）板ナデ・ケズリ	
264	w 25 21 層	縄文土器	深鉢	21.2	（9.7）	1/12 以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	密（径 1mm 以下の半透明・黒・茶褐・白色粒・雲母）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	
265	v25・x24・25 21 層	縄文土器	深鉢	28.2	（11.2）	3/12	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）灰白色（10YR 8/2）	密（径１～４ｍｍの半透明・白色粒）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り、内面炭化物付着、粘土紐接合痕
266	v24 21 層	縄文土器	深鉢	39.4	（8.7）	1/12	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	粗（径 2mm 以下の褐灰・茶・灰色粒多量）	内）マメツ外）ナデ・ケズリ	粘土紐接合痕
267	v25 21 層	縄文土器	深鉢	32.0	（10.6）	1/12	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径 3mm 以下の半透明・暗灰・白色粒少量）	内）板ナデ外）板ナデ	粘土紐接合痕
268	u25 21 層	縄文土器	深鉢	37.2	（9.1）	1/12	内・外）暗褐色（7.5YR 3/3）	粗（径 3mm 以下の白色粒・石英・雲母多量）	内）ナデ・ユビオサエ外）粘土紐接合痕・ナデ	口唇部面取り
269	v25 21 層	縄文土器	深鉢	20.0	（8.3）	1/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや粗（径 2mm 以下の半透明・白色粒少量）	内）板ナデ・指頭圧痕外）板ナデ	粘土紐接合痕
270	w 25 21 層	縄文土器	深鉢	13.8	（9.1）	1/12 以下		密（径１～ 5mm の半透明・茶・白色粒・雲母）	内）マメツ外）ケズリ	
271	x25 21 層	縄文土器	深鉢	25.4	（11.8）		内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径１～3mm の茶褐・黒褐・白色粒・石英・雲母）	内）板ナデ外）ケズリ	粘土紐接合痕
272	x25 21 層	縄文土器	深鉢	28.0	（9.7）	2/12	内・外）にぶい赤褐色（5YR 5/4）	やや粗（径 2mm 以下の半透明・白色粒・金雲母）	内）ナデ外）板ナデ	粘土紐接合痕
273	v24 21 層	縄文土器	深鉢	35.6	（7.4）		内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	粗（径 4mm 以下の半透明・淡褐・白色粒）	内・外）ナデ	口唇部Ｏ字刻み
274	v24 21 層	縄文土器	深鉢	31.6	（27.3）	3/12	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径 3mm 以下の灰・白色粒含む）	内）板ナデ外）ナデ・ケズリ	口唇部Ｏ字刻み
275	v25 21 層	縄文土器	深鉢	27.4	（16.2）	5/12	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや粗（径 3mm 以下の半透明・白色粒多量、径 2mm 以下の灰色粒少量）	内）マメツ外）ケズリ	口唇部Ｏ字刻み、粘土紐接合痕
276	v25 21 層	縄文土器	深鉢	37. 8	（15. 5）	1/12	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）明褐色（7. 5YR 5/6）	粗（径 3㎜ 以下の灰褐・茶・黒・白色粒多量）	内）板ナデ外）板ナデ・ケズリ	口唇部０字刻み
277	x・v25 21 層	縄文土器	深鉢	15.6	（10.5）	2/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	密（径１～ 5mm の半透明・黒・白・雲母）	内）板ナデ・ケズリ外）ナデ	口唇部Ｏ字刻み
278	v24 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	（12.4）	底）12/12	内）にぶい橙色（5YR 6/4）外）黒褐色（5YR 2/1）	密（径１～ 5mm の半透明・黒・灰・白色粒）	内）ケズリ外）ケズリ	
279	v25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	（5.9）	底）12/12	内・外）明褐灰色（7.5YR 7/2）	密（径 1~3mm の半透明・白色粒）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	
280	v25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	（4.1）	底）12/12	内・外）にぶい黄褐色（10YR 4/3）	粗（径 2mm 以下の透明・褐・白色粒少量）	内）ナデ・指頭圧痕外）ケズリ	
281	v25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	（4.7）	底）12/12	内・外）灰褐色（7.5YR 5/2）	密（径 1~3mm の半透明・黒・白色粒・雲母）	内）ナデ外）ナデ・ケズリ	

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
282	v25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	(3.5)	底）12/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	密（径 1~4mm の半透明・黒・赤褐・白色粒・雲母）	内）板ナデ 外）板ナデ・指頭圧痕	
283	x25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	(6.9)	底）1/12	内）にぶい黄橙色（10YR 7/4）外）にぶい橙色（7.5YR /3）	密（径 2mm 大の半透明・黒・白色粒）	内）板ナデ 外）ケズリ	内面炭化物付着、粘土紐接合痕
284	v25 21 層	縄文土器	深鉢	37.4	(12.0)	2/12	内）褐灰色（10YR 6/1）外）灰白色（10YR 8/2）	密（径 1 ～ 5mm の半透明・白色粒）	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ケズリ	口唇部面取り、粘土紐接合痕
285	x・v25 21 層	縄文土器	浅鉢	33.2	22.5	2/12	内・外）灰黄色（10YR 6/2）	密（径 3mm 以下の薄茶・褐色粒）	内）ミガキ・ナデ 外）ミガキ	
286	w 1 21 層	縄文土器	浅鉢	(23.0)	(8.7)	3/12	内）褐灰色（10YR 4/1）外）灰黄褐色（10YR 6/2）	粗（径 0.5~1mm の灰・白灰・白色粒多量）	内）マメツ 外）ミガキ	外面スス付着
287	v24 21 層	縄文土器	浅鉢	13.8	(7.5)	1/12 以下	内・外）灰白色（10YR 8/2）	粗（径 2mm 以下の薄茶・褐色粒・石英）	内）ナデ 外）ケズリ・ナデ	粘土紐接合痕
288	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	30.8	(11.8)	2/12	内）にぶい橙色（7.5YR 7/4）外）黒褐色（7.5YR 3/1）	密（径 1 ～ 5mm の半透明・黒・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）ケズリ	粘土紐接合痕
289	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	(23.0)	(8.2)	3/12		やや密（径 1mm 以下の白色粒多量）	内）ミガキ 外）マメツ	
290	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	(37.8)	(7.7)	1/12 以下	内・外）灰黄褐色（10YR 6/2）	粗（径 0.5mm 大の茶・黒灰・白色粒多量）	内）ナデ・ミガキ 外）ミガキ	
291	v24 21 層	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	内・外）黒褐色（7.5YR 3/1）	密（径 1.5mm 以下の茶・灰・白色粒少量含む）	内）LR 縄文 外）LR 縄文・ナデ	Σ状押圧突帯、口唇部刻み
292	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	内）黒褐色（10YR 3/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	密（径 2mm 大の半透明・白色粒・石英）	内）ナデ 外）RL 縄文	素突帯
293	v24 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	(3.0)	－	内・外）黒褐色（7.5YR 3/1）	密（径 2mm 以下の半透明・白色粒少量）	内）ナデ 外）LR 縄文	
294	v25 21 層	縄文土器	深鉢底部	－	(2.7)	－	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	密（径 1mm 大の半透明・黒・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ・RL 縄文	
295	s4 21 層	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	内）灰黄褐色（10YR 5/2）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	やや密（径 2mm 以下の半透明・赤・白色粒）	内）ナデ 外）半截竹管による条線	
296	r~t3 ～ 5 21 層	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	内・外）浅黄橙色（7.5YR 8/3）	やや密（径 3mm 以下の半透明・白色粒）	内）ナデ 外）RL 縄文	半截竹管文による沈線
297	NR15	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	やや粗（径 3mm 以下の半透明・褐・白色粒）	内）ナデ 外）RL 縄文	押引文
298	t4 21 層	縄文土器	深鉢	－	(3. 5)	－	内・外）にぶい橙色（7. 5YR 7/4）	やや密（径 1. 5㎜ 以下の黒・赤褐色粒微量）	内）ナデ 外）ナデ	298 ～ 301 同一個体、口唇部 LR 縄文
299	t4 21 層	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	内・外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	やや密（径 1mm 以下の半透明・淡褐色・黒色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部 LR 縄文
300	s4 21 層	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径 1mm 以下の赤褐色・灰色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部 LR 縄文
301	s4 21 層	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	内・外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	やや密（径 2mm 以下の黒・赤褐色微量）	内）ナデ 外）ナデ	
302	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	(2.2)	1/12 以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	粗（径 3mm 以下の薄茶・灰色粒）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部縄文
303	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	内・外）灰褐色（7.5YR 4/2）	やや密（径 0.2mm 以下の半透明・ガラス質粒少量）	内）ナデ 外）マメツ	

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
304	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.8）	－	内・外）褐色（7.5YR 4/3）	密（径 1mm 以下の半透明粒少量）	内・外）ナデ	LR 縄文
305	s4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.1）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）橙色（7.5YR 7/6）	密（径 2mm 大の半透明・灰・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）LR 縄文	
306	v1 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.5）	－	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径 2mm 大の半透明・灰・白色粒・石英）	内）ナデ 外）LR 縄文	
307	x25 21 層	縄文土器	深鉢		（4.4）	－	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外））にぶい黄橙色（10YR 7/4）	粗（径 3mm 以下の粒少量）	内・外）ナデ	
308	u25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.8）	1/12 以下	内･外）明赤褐色（5YR 5/6）	密（径 1mm 以下の白色粒少量）	内・外）巻貝条痕・ナデ	口唇部面取り・R 刻
309	t4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.9）	－	内・外）暗褐色（10YR 3/3）	密（径 0.5mm 大の半透明粒少量）	内）巻貝条痕のちナデ 外）ナデ	スジ凹線
310	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.5）	－	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径 3mm 以下の半透明粒少量）	内）ミガキ 外）ナデ	
311	u11 21 層	縄文土器	深鉢	（30.7）	（10.0）	1/12	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	やや密（径 2mm 以下の半透明・白色粒少量）	内・外）巻貝条痕のちナデ	巻貝殻頂刺突
312	v1 21 層	縄文土器	深鉢		（3.5）	1/12 以下	内）黒褐色（5YR 3/1）外）にぶい赤褐色（5YR 5/4）	密（径 2mm 以下の半透明粒、径 0.5mm 大の白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	V 字状文
313	u25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.45）	1/12 以下	内）褐灰色（7.5YR 4/1）外）赤褐色（5YR 4/6）	密（径 0.5mm 以下の灰・褐・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
314	t4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.7）	－	内）灰黄褐色（10YR 6/2）外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	密（径 1.5 mm以下の半透明粒・ガラス質少量）	内）ミガキ 外）ナデ	
315	w1 21 層	縄文土器	鉢	－	（4.8）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）灰褐色（7.5YR 5/2）	やや密（径 1mm 以下の白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
316	r~t 3 ～ 5 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.8）	－	内･外）灰褐色（7.5YR 4/2）	やや密（径 1mm 以下の褐、白色粒、雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	316 ～ 318 同一個体、２個一対の凹点
317	r~t 3 ～ 5 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.5）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	やや密（径 1mm 以下の褐、白色粒、雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	
318	r~t 3 ～ 5 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.1）	1/12 以下	内･外）灰褐色（7.5YR 4/2）	やや粗（径 1 mm 以下の半透明、灰、白粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
319	r4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（5.4）	－	内･外）褐灰色（7.5YR 4/1）	密（径 1mm 以下の透明・白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	319 ～ 321 同一個体、２個一対の凹点、外面炭化物付着
320	r4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（5.7）	－	内･外）黒褐色（7.5YR 3/1）	密（径 1mm 以下の透明・白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	
321	r4 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.9）	－	内･外）黒褐色（7.5YR 3/1）	密（径 1mm 以下の透明・白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	
322	r~t 3 ～ 5 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.2）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 6/3）外）灰褐色（7.5YR 5/2））	密（径 1mm 大の半透明・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
323	w1 21 層	縄文土器	深鉢？	－	（5.4）	－	内･外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径 2mm 以下の半透明・橙・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	324 と同一個体 凹点
324	v25 21 層	縄文土器	深鉢？	－	（2.7）	－	内･外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや粗（径 2mm 以下の白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	323 と同一個体、凹点
325	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.4）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 7/3）外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	密（径 1mm 大の半透明、白色粒）	内）ナデ・指頭圧痕 外）ナデ	

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　調	胎　土	調　整	備　考
326	u25 21層	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	内）にぶい褐色（7.5YR 5/4）外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径1mm以下の半透明・灰・褐・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
327	x25 21層	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	内･外）灰黄褐色（10YR 5/2）	やや密（径1mm以下の半透明・橙・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	口唇部面取り
328	x24・25 21層	縄文土器	深鉢	－	－	1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/2）	やや密（径1mm以下の白色粒）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	R刻
329	x25 21層	縄文土器	深鉢	－	(8.5)	1/12以下	内･外）黒褐色（7.5YR 2/2）	やや密（径0.5mmの半透明、白色粒）	内）板ナデ 外）板ナデ･ケズリ	口唇部面取り、R刻
330	x25 21層	縄文土器	深鉢	(26.0)	(6.1)	1/12以下	内・外）にぶい黄褐色（10YR 5/4）	やや密（径1mm以下の暗灰、白色粒）	内）巻貝条痕のちナデ 外）ナデ	口唇部面取り、R刻
331	x25 21層	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	1/12以下	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	やや粗（径2mm以下の灰・白粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	
332	t4 21層	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	内・外）橙色（5YR 7/6）	密（径1mm以下の石英、白色粒少量）	内・外）ナデ、頸）強いナデ	100と同一個体、口唇部面取り
333	t4 21層	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	内･外）黒褐色（7.5YR 2/2）	密（径2mm以下の石英、白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ、頸）強いナデ	99と同一個体、内面炭化物付着
334	v25 21層	縄文土器	深鉢	28.0	(5.0)	1/12以下	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径1～5mmの石英多量、径1mm以下の黒色粒・金雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	粘土紐接合痕
335	v25 21層	縄文土器	深鉢	26.0	(5.4)	2/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	粗（径3mm以下の半透明・白色粒少量）	内・外）ナデ	口唇部D字刻み
336	u25・v1 21層	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	内）黒褐色（10YR 3/2）外）にぶい黄橙色（10YR 7/4）	やや密（径4mm以下の白色粒、2mm以下の半透明粒・雲母少量）	内）ナデ 外）板ナデ	口唇部O字刻み
337	v25 21層	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	1/12以下	内･外）褐灰色（7.5YR 4/1）	密（径1mm以下の白色粒・雲母少量）	内）板ナデ 外）ナデ・ケズリ	口唇部細かい刻み
338	v25 21層	縄文土器	深鉢	24.0	(6.9)	1/12	内）灰黄褐色（10YR 4/2）外）にぶい橙（7.5YR 6/4）	粗（径3mm以下の半透明・淡褐・白色粒少量）	内）板ナデ 外）ケズリ	口唇部O字刻み、粘土紐接合痕
339	v1 21層	縄文土器	深鉢 or 鉢		(4.6)	1/12以下	内・外）灰白（7.5YR 8/2）	やや密（径1.5mm以下の半透明・灰・白色粒少量）	内）板ナデ 外）粘土紐接合痕・マメツ	口唇部細かい刻み
340	x25 21層	縄文土器	浅鉢	－	(3.3)	－	内・外）にぶい黄褐色（10YR 5/6）	やや密（径1.5mm以下の白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	口縁端部折返し、口唇部O字刻み、粘土紐接合痕
341	x25 21層	縄文土器	深鉢	－	(9.8)	1/12以下	内・外）にぶい黄橙色（10YR 7/2）	やや粗（径1mm以下の半透明、白色粒少量）	内）板ナデ 外）ケズリ	刺突列
342	x25 21層	縄文土器	浅鉢	－	(3.4)	1/12以下	内）明赤褐色（5YR 5/6）外）灰褐色（5YR 4/2）	密（径1mm大の半透明・茶褐・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
343	x25 21層	縄文土器	浅鉢	－	(3.9)	1/12以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径1～2mmの黒褐･茶褐･白色粒･石英）	内）ナデ 外）ナデ	
344	x25 21層	縄文土器	浅鉢	－	(2.4)	－	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径1mm以下の半透明粒少量）	内）ナデ 外）ミガキ	
345	u25・v1 21層	縄文土器	浅鉢	－	(1.8)	1/12以下	内）橙色（5YR 6/6）外）にぶい橙色（7.5YR 6/3）	密（径1mm以下の半透明・白色粒）	内）ミガキ 外）ミガキ	
346	r~t 3～5 21層	縄文土器	浅鉢	－	(4.7)	－	内・外）灰白色（10YR 8/2）	やや密（径1.5mm以下の褐色粒、雲母少量）	内）ナデ 外）ナデ	
347	t4 21層	縄文土器	浅鉢	21.2	(6.0)	2/12	内･外）灰褐色（7.5YR 4/2）	やや粗（径3mm以下の石英・黒・白色粒多量）	内）ナデ 外）強い板ナデ	粘土紐接合痕

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
348	v1 21 層	縄文土器	浅鉢？	－	（6.7）	－	内・外）暗灰黄（2.5Y 5/2）	密（径 3mm 以下の半透明・白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	
349	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（4.2）	1/12 以下	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	密（径 1.5mm 以下の赤・白色粒・雲母少量）	内）ミガキ 外）ナデ・ミガキ	粘土紐接合痕
350	x25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（5.7）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/4）	密（径 1mm 以下の灰・白色粒・雲母多量）	内）ナデ 外）ナデ	
351	x25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（2.4）	1/12 以下	内）にぶい赤褐色（5YR 5/4）外）褐灰色（5YR 41/1）	密（径 1mm 以下の半透明・灰・白色粒少量）	内）ミガキ 外）ナデ	
352	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（4.2）	1/12 以下	内・外）黒褐色（10YR 3/1）	密（径 1mm 以下の半透明・白色粒少量）	内・外）板ナデ	
353	v25 21 層	縄文土器	鉢？		（2.9）	1/12 以下	内・外）灰褐色（7.5YR 6/3）	密（径 2mm 以下の半透明粒）	内）ナデ 外）ナデ	粘土紐接合痕
354	u25 21 層	縄文土器	鉢	－	（3.7）	－	内・外）灰黄褐色（10YR 6/2）	密（径 1mm 以下の白色粒少量）	内・外）マメツ	
355	v25 21 層	縄文土器	鉢	－	（2.1）	1/12 以下	内）にぶい黄橙色（10YR 7/3）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	密（径１～２mm の半透明・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）マメツ	
356	r4 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（5.3）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	密（径 1mm 大の白色粒）	内）ナデ 外）ミガキ	
357	v25 21 層	縄文土器	浅鉢	－	（4.3）	－	内）黒褐色（10YR 3/2）外）灰黄褐色（10YR 4/2）	密（径 2mm 大の白色粒・石英）	内）ナデ 外）ミガキ	
358	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（2.3）	－	内）明赤褐色（5YR 5/6）外）暗赤褐色（5YR 3/2）	密（径 2mm 大の半透明・白色・雲母）	内）ナデ 外）ナデ	粘土紐接合痕
359	v1 21 層	縄文土器	広口壺	－	（3.4）	－	内）にぶい黄橙色（10YR 7/2）外）褐灰色（10YR 4/1）	密（径 2mm 大の半透明・灰色・赤・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）ミガキ	LR 縄文
360	s4 21 層	縄文土器	注口土器か	－	（2.7）	－	内・外）灰褐色（7.5YR 4/2）	密（径 1mm 大の半透明・淡橙・白色粒・雲母）	内）ナデ 外）ミガキ	R 縄文・外面赤彩
361	t4 21 層	縄文土器	広口壺	－	（5.1）	－	内）浅黄橙色（7.5YR 8/3）外）褐灰色（7.5YR 5/1）	密（径 0.5mm 以下の半透明・雲母少量）	内）ナデ 外）ミガキ	LR 縄文
362	v25 21 層	縄文土器	深鉢	－	（4.1）	－	内）にぶい橙色（7.5YR 6/4）外）褐色（7.5YR 4/3）	密（径 2mm 大の半透明・黒褐・白色粒・雲母）	内）ミガキ 外）ミガキ	
363	t4 21 層	縄文土器	鉢か	－	（2.7）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 5/3）	密（径 1mm 大の黒・茶褐・赤・白色粒）	内）ナデ 外）ミガキ、LR 縄文	
364	v25 21 層	縄文土器	－	－	（3.3）	－	内・外）灰黄褐色（10YR 5/2）	密（径 1mm 大の半透明・黒褐・白色粒・雲母）	内）板ナデ 外）LR 縄文、結節縄文	
365	v24 21 層	縄文土器	－	－	（4.6）	－	内）明褐灰色（7.5YR 7/2）外）にぶい黄橙色（10YR 6/3）	密（径１～２mm の半透明・白色粒）	内）板ナデ 外）LR 縄文、結節縄文	
366	21 層	縄文土器	底部	底）4.0	（1.4）	底）3/12	内・外）にぶい橙色（7.5YR 7/4）	密（径 2mm 以下の灰・褐・白色粒少量）	内）ナデ 外）ケズリ	
367	r~t ３～５ 21 層	縄文土器	深鉢	20.8	（8.8）	2/12	内・外）黒褐色（7.5YR 2/2）	粗（径 5mm 以下の褐・灰・白色粒多量）	内）ナデ 外）ナデ	突帯上 D 字刻み
368	t4 21 層	縄文土器	壺	－	（6.3）	－	内・外）にぶい橙色（7.5YR 6/4）	やや密（径 3mm 以下の黄橙・白色）	外）ミガキ 内）ナデ	突帯上 O 字刻み、粘土紐接合痕
369	x25 21 層	縄文土器	深鉢		（2.9）	1/12 以下	内・外）にぶい褐色（10YR 6/3）	密（径 1mm 以下の白色粒）	内）ナデ 外）ナデ	突帯上 D 字刻み
370	x24 21 層	縄文土器	深鉢	－	（3.45）	－	内・外）にぶい褐色（7.5YR 6/3）	やや密（径 3mm 以下の半透明・灰・白色粒少量）	内）ナデ 外）ナデ	突帯上小 D 字刻み

番号	出土地	器種	器形	口径（cm）	器高（cm）	残存率	色　　調	胎　　土	調　整	備　考
371	v25 21層	縄文土器	鉢	－	（3.0）	1/12以下	内）黒褐色（10YR 3/1）外）褐色（7.5YR 4/3）	密（径1～5mmの赤・茶褐・白色粒）	内）ナデ 外）ミガキ	
372	u1 21層	縄文土器	－	－	（2.8）	1/12以下	内）黒色（10YR 1.7/1）外）明赤褐色（5YR 5/6）	密（径3mm以下の半透明・白色粒）	内）板ナデ	口唇部面取り
373	x25 21層	縄文土器	－	－	（2.4）	－	内）黒褐色（5YR 3/1）外）褐色（7.5YR 4/3）	密（径2mm大の黒・白色粒・石英）	内）ナデ 外）マメツ	

付表18　第７次調査出土石製品観察表

番号	出土地	器　種	石　材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	備　　考
374	t 4 21層	石鏃	サヌカイト	2.9	1.5	0.4	1.3	金山産（肉眼鑑定による）
375	w 2 21層	石鏃	サヌカイト	2.5	1.6	0.5	1.4	金山産（肉眼鑑定による）
376	21層	石鏃	凝灰岩	3.2	1.4	0.6	1.9	
377	－	石鏃	サヌカイト	3.0	1.6	0.6	2.0	金山産（肉眼鑑定による）
378	x 25 21層	石核	サヌカイト	4.2	8.6	0.8	28.5	金山産（肉眼鑑定による）
379	v 23 21層	石核	凝灰岩	6.3	4.7	1.7	70.1	原礫面残存

付表19　第７次調査出土木製品観察表

番号	出土地	種類	長さ／径（cm）	高さ／厚さ（cm）	備　　考
380	ＳＰ２	漆器椀	底）8.6	（1.8）	樹種：ブナ科クリ属クリ 下地　炭粉渋、 内）赤色漆、外）透明漆、赤色漆
381	ＳＰ２	柱根	31.9	21.4	芯持材・底部に加工痕
382	ＳＰ 17	柱根	22.3	19.3	芯持材・底部に加工痕

図　　版

図版第1　平遺跡

（1）平遺跡周辺の環境（北西から）

（2）平遺跡第６次調査地全景（南西から）

図版第2　平遺跡

小規模調査

(1)第４次調査１トレンチ
南壁土層断面(北西から)

(2)第４次調査２トレンチ
西壁土層断面(東から)

(3)第４次調査３トレンチ
西壁土層断面(東から)

図版第3　平遺跡

小規模調査

(1)第５次調査１トレンチ全景
（東から）

(2)第５次調査１トレンチ
南壁土層断面（東から）

(3)第５次調査３トレンチ全景
（西から）

図版第4　平遺跡

小規模調査

(1)第６次調査地全景(北西から)

(2)第６次調査３トレンチ全景(上が北東)

図版第5　平遺跡

小規模調査

(1)第６次調査１トレンチ全景
（北東から）

(2)第６次調査１トレンチ
南壁土層断面(北東から)

(3)第６次調査１トレンチ全景
（北から）

図版第6　平遺跡

小規模調査

(1)第６次調査２トレンチ
南壁土層断面(北から)

(2)第６次調査３トレンチ
包含層検出状況(西から)

(３)第６次調査３トレンチ
北側包含層検出状況(東から)

図版第7　平遺跡

小規模調査

(1)第６次調査３トレンチ
西側包含層検出状況(東から)

(2)第６次調査３トレンチ
東壁土層断面(西から)

(3)第６次調査３トレンチ
玉出土状況(南から)

図版第8　平遺跡

小規模調査

(1)第６次調査３トレンチ19層
玉出土状況(西から)

(2)第６次調査４トレンチ包含層
検出状況(南西から)

(3)第６次調査４トレンチ
東壁土層断面(西から)

図版第9　平遺跡

第７次調査

調査区上層検出状況（南東から）

図版第10　平遺跡

第７次調査

(1)調査区遠景(南から)

(2)調査区遠景(北西から)

図版第11　平遺跡

第７次調査

（1）調査区遠景（北東から）

（2）調査区全景（上が北東）

図版第12　平遺跡

第７次調査

(1)上層遺構面全景(南東から)

(2)調査区全景(南から)

図版第13　平遺跡

第７次調査

(1)西壁土層断面(北東から)

(2)西壁土層断面(北から)

図版第14　平遺跡

第７次調査

（1）東壁南半土層断面（南西から）

（2）東壁土層断面（南西から）

図版第15　平遺跡

第７次調査

(1)調査区北壁土層断面
（南東から）

(2)西側20層検出状況
（南東から）

(3)西側20層除去後全景
（南東から）

図版第16　平遺跡

第７次調査

(1)西側20層土層断面
（北西から）

(2)Ａ－Ａ’断ち割り土層断面
（北西から）

(3)Ａ－Ａ’断ち割り土層断面
（南から）

図版第17　平遺跡

第７次調査

(1) B － B’ 断ち割り土層断面
（北西から）

(2) C － C’ 断ち割り下層
土層断面（北西から）

(3)西壁断ち割り土層断面
（北東から）

図版第18　平遺跡

第７次調査

(1)掘立柱建物ＳＢ１柱穴ＳＰ２
検出状況(北から)

(2)掘立柱建物ＳＢ１柱穴ＳＰ２
遺物出土状況(北西から)

(3)掘立柱建物ＳＢ２柱穴ＳＰ６
柱根出土状況(北西から)

図版第19　平遺跡

第７次調査

(1)掘立柱建物ＳＢ１柱穴ＳＰ２
完掘状況(北西から)

(2)溝ＳＤ１土層断面(北西から)

(3)溝ＳＤ１全景(北西から)

図版第20　平遺跡

第７次調査

(1)谷地形ＮＲ14検出状況
（南西から）

(2)谷地形ＮＲ14土層断面
（南西から）

(3)谷地形ＮＲ14完掘状況
（北東から）

図版第21　平遺跡

第７次調査

(1)谷地形NR12
検出状況(南東から)

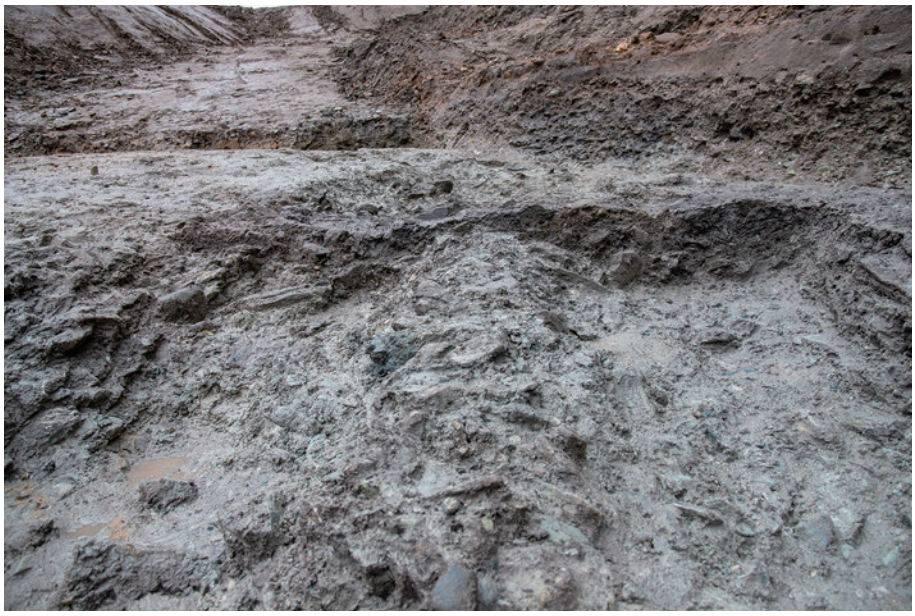
(2)谷地形NR12
南側遺物出土状況(南西から)

(3)谷地形NR12
北側遺物出土状況(南西から)

図版第22　平遺跡

第７次調査

(1) Ｃ－Ｃ’断ち割り土層断面
（北西から）



(2)谷地形ＮＲ15・16土層断面
（北から）

(3)谷地形ＮＲ16・17全景
（北から）

出土遺物１　第６・７次出土遺物(第６次：19・136・164・179・180、第７次：188～190・192・194)


195


196


197


198


199


202


201


204

出土遺物２　第７次出土遺物１

232

234

235

237

238

244

出土遺物３　第７次出土遺物２

258

265

265

271

274

278

出土遺物４　第７次出土遺物３

275

276

284

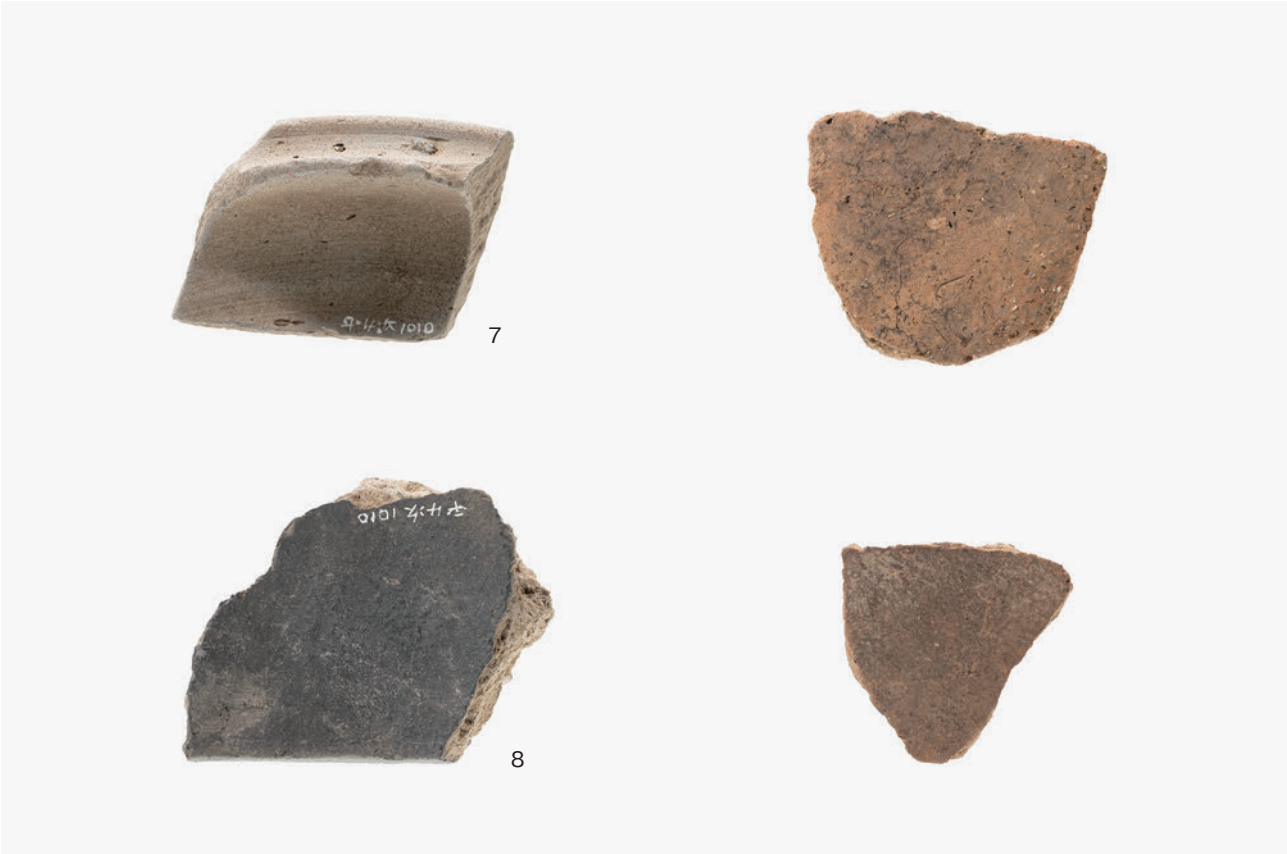
286

286

285

出土遺物５　第７次出土遺物４

(1)出土遺物６　第４次調査出土遺物

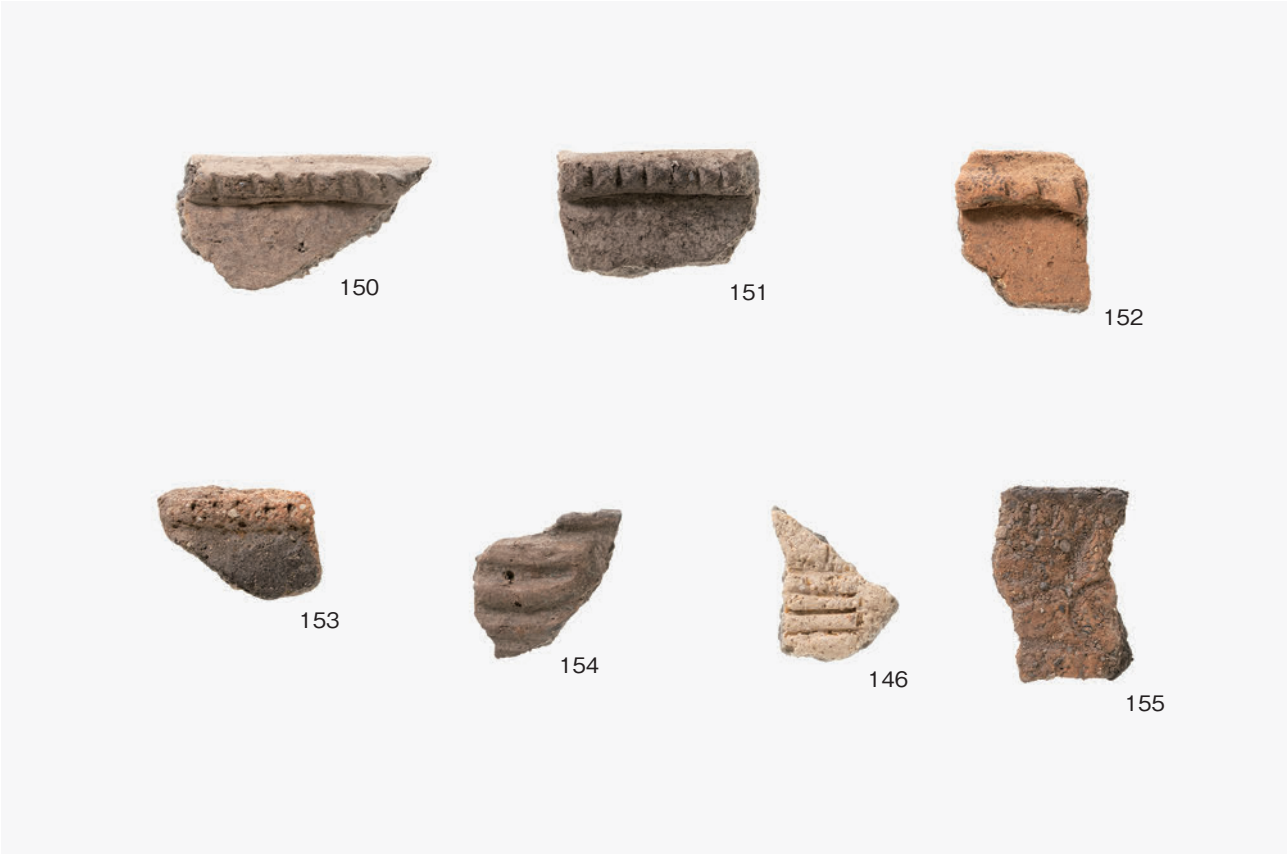


(2)出土遺物７　第５次調査出土遺物

(1)出土遺物８　第６次調査出土遺物

(2)出土遺物９　第７次調査出土遺物

(1)出土遺物10　第７次調査20・21層出土陶磁器



(2)出土遺物11　第６次調査出土縄文土器

出土遺物12　第６・７次調査出土縄文土器

(1)出土遺物13　第７次調査出土遺物

(2)出土遺物14　第７次調査ＮＲ14出土縄文土器


207


209


208


211


215


213


225


218


221


228


229


230


218

出土遺物15　第７次調査谷地形NR12出土遺物

(1)出土遺物16　第６・７次調査出土石製品

(2)出土遺物17　第７次調査出土木製品

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第198冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第198冊
編著者名	菅 博絵、面 将道、大石雅興、辻 康男、渡辺幸奈
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40番の3　Tel. 075（933）3877
発行年月日	西暦2025年6月20日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
平遺跡第4次	京丹後市（きょうたんごし）丹後町平（たんごちょうへい）	26212	3501	35° 45′ 08″	135° 09′ 28″	20180801～20181221	130	道路改良
平遺跡第5次						20200928～20201029	150	
平遺跡第6次						20220817～20201007	350	
平遺跡第7次						20230823～20231211	1,180	

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平遺跡第4次	集落	縄文、古墳	なし	縄文土器、製塩土器	
平遺跡第5次		縄文、古墳	なし	縄文土器、須恵器	
平遺跡第6次		縄文、古墳	なし	縄文土器、石製品、須恵器、土師器	
平遺跡第7次		縄文、古墳 中世	中世の掘立柱建物	縄文土器、石器、玉類、須恵器、土師器、漆椀、柱根	

所収遺跡名	要約
平遺跡第4次	小規模調査。縄文時代～古墳時代の包含層を確認。
平遺跡第5次	小規模調査。縄文時代～中世の包含層を確認。
平遺跡第6次	小規模調査。縄文時代～中世の包含層を確認。
平遺跡第7次	中世の掘立柱建物と縄文時代～中世の包含層を確認。

京都府遺跡調査報告集 第198冊

令和７年６月20日

発行　公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel (075)933-3877(代)　Fax (075)922-1189
http://www.kyotofu-maibun.or.jp

印刷　三星商事印刷株式会社
〒602-8358　京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273
Tel (075)467-5151　Fax (075)467-5152